

# 講義要綱 (第1学年・前期)

心理学	-----	3	社会学 病理学 歯科診療補助
社会学	-----	7	
化学	-----	11	
生物学	-----	15	
ドイツ語	-----	19	化学 微生物学 歯科診療補助実習 I
中国語	-----	23	
生理学	-----	25	
歯牙解剖	-----	27	
組織学	-----	31	生物学 衛生行政社会福祉 歯科材料学
病理学	-----	33	
微生物学	-----	35	
衛生行政社会福祉	-----	39	
歯科衛生士概論	-----	43	ドイツ語 歯科衛生士概論 歯科材料学実習
歯科医療倫理学	-----	45	
歯科臨床概論	-----	51	
歯周病予防法 I	-----	55	
歯周病予防法実習 I	-----	57	中国語 歯科医療倫理学 歯科保健指導演習
歯科診療補助	-----	61	
歯科診療補助実習 I	-----	63	
歯科材料学	-----	67	
歯科材料学実習	-----	69	生理学 歯科臨床概論 夏期集中授業
歯科保健指導演習	-----	73	
夏期集中授業	-----	75	歯牙解剖 歯周病予防法 I



心理学 I	
担当 依藤 佳世	
主題と目標	<p>「病は気から」という言葉が示すように、医療に携わる者において、身体のみならず心に焦点を当てた治療や研究が不十分であることは、我々が生活する中でも実感され、近年さまざまな研究においても示されてきている。同時に、チームでの連携が求められる医療現場において円滑な人間関係を築くことは、患者にとっても現場で働く人間にとっても満足いく治療を提供する基礎となる。</p> <p>このように、医療スタッフと患者、医療スタッフ間の関係を軸とし、また仕事以外でのふだんの生活においてもみられる心の働きや行動に焦点を当てた「ものの見方」を習得することを目標とする。</p>
教科書	なし。毎授業でプリントを配布する。
参考図書	<p>心理学への招待 梅本堯夫・大山正 編著 サイエンス社          心理学の基礎 今田寛・宮田洋・賀集寛 共編 培風館          痛みの心理学 疾患中心から患者中心へ 丸田俊彦 著 中公新書</p>
成績評価の方法	<p>試験問題は記述式          評価は授業態度、定期試験から総合的に判断</p>
備考	なし
授業計画 (4月～9月)	
第1回 4月13日 導入 【チェックポイント】	<p>心理学の歴史とその流れをたどる。</p> <p>一般的な教養として知っておくべき事柄を述べる。また心理学は人文科学でありながら、その研究方法において用いられている客観的な測定法を発展させてきている。その基礎をとらえることが求められる。</p>
第2回 4月20日 学習 【チェックポイント】	<p>治療技術を学んでいく際に押さえておくべき、我々の傾向を知る。また、行動や感情の獲得における経験の重要性を知る。</p> <p>行動や感情獲得のメカニズムを押さえ、自分自身の技術習得に活かせるように考えてみることを求める。</p>

<p>第3回 4月27日</p> <p>他者の理解：対人認知、 帰属</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>チームでの治療技術習得やチーム医療に当たる際に出会うさまざまな人々やさまざまなできごとを我々がどのように解釈しているのかを考える。</p> <p>自分自身が行っている他者に対する評価やものごとの原因について改めて考え直す視点の取得を求める。</p>
<p>第4回 5月11日</p> <p>集団行動</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>他者が存在することによる我々の行動の変化、また集団での課題解決に際して起こる現象を知る。</p> <p>チームで医療に当たるに際して、起こりがちな現象を理解する。</p>
<p>第5回 5月18日</p> <p>リーダーシップ</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>個人が多くの他者に与える影響を理解する。同時に効果的なリーダーシップについても考える。</p> <p>自分がリーダーとしてチームをまとめることを想定して授業に臨むことを求める。</p>
<p>第6回 5月25日</p> <p>ソーシャルサポート</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>周囲からの援助が健康に及ぼす効果と限界について考える。また、医療従事者として可能なソーシャルサポートについても検討を行う。</p> <p>他者に対する援助の多様性について学び、医療従事者として行使できる援助の可能性を理解する。</p>
<p>第7回 6月1日</p> <p>群衆行動</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>知らない他者に接するとき陥りがちな行動を理解しておく。</p> <p>主に匿名性のもたらす効果について理解し、チェックする視点を獲得することを求める。</p>
<p>第8回 6月8日</p> <p>ノンバーバル コミュニケーション</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>言語以外の立ち居振る舞いが他者に与えるメッセージについて理解する。</p> <p>日常生活だけでなく、患者にも発信されるメッセージであることを想定して授業に臨むことを求める。</p>
<p>第9回 6月15日</p> <p>感情</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>さまざまな感情とその生起プロセスについて理解する。同時にその感情を持った際に我々が取りがちな行動や感情の機能的価値についても学ぶ。</p> <p>患者やチームメイトが持つ感情に当てはめて授業を聞き、理解を深めることを求める。</p>

<p>第10回 6月22日 不安</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>先回学んだ感情のうち、患者が最も持つ感情であると考えられる不安を取り上げ、その種類、生起する要因について学ぶ。また不安に陥る患者に対する対処を検討する。</p> <p>患者の持つ不安を理解し、医療従事者としていかにそれに対処し、不必要な不安を取り除くができるかを考えることを求める。</p>
<p>第11回 7月6日 知覚・感覚</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>ヒトの知覚様式について理解するとともに、その1つである「痛み」について考察する。</p> <p>なぜ心理学において知覚・感覚を取り上げるのかを考えることを求める。</p>
<p>第12回 7月13日 発達心理学①</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>子どもから老人まで接する機会のある医療従事者として、ヒトの発達の基礎とその一般的な心理的・行動的特徴を理解する。</p> <p>ヒトがヒトらしく成長するその素地を理解する。また、特に「子ども」時における心理的・行動的特徴を理解する。</p>
<p>第13回 9月7日 発達心理学②</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>子どもから老人まで接する機会のある医療従事者として、ヒトの発達における議論と生涯発達の視点を習得する。</p> <p>青年期は発達の終わりではなく、途上段階であることを理解し、中高年や老年期において見られる特徴を理解する。</p>
<p>第14回 9月14日 カウンセリング 面接法を通じた 患者との接し方</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>面接法の視点から、患者との対応を考察する。相談関係において留意すべき点についても学び、ロールプレイを行う。</p> <p>面接における技術習得とともに、ロールプレイでは医療従事者としてだけでなく、患者の視点も取得できるように求める</p>
<p>定期試験</p>	
<p>第15回 総復習</p>	



# 社会学

担当 川添 一郎

主題と目標	この科目は主に社会学の基礎、考え方を学びます。		
	高校生の意識調査によると、「自分が社会人になるころの社会は明るい」と考える人が、2012年 31.0%→2014年 48, 5%となっています。しかし、このときの「社会」とは何なのでしょう。また、世界に目を移すと、イスラム諸国の問題、中国経済の問題を皮切りに様々なニュースが駆け巡っています。戦後の世界体制が大きく変動していることをそれらは内包していると考えられることもできます。そのような先が見えない時代に私たちはどのようにして「明るい人生」を過ごす方策を見つければよいのでしょうか。本講義で社会の見方、考え方の枠組みの基本を紹介します。同時に歴史を学ぶことの大切さも紹介します（特に戦後の日本社会の変遷を我々は正しく理解しなければなりません）。それらを通して自分の将来（明るい人生）を考えるときに役立てていただければと考えます。		
	教科書	特に指定しません。	
	参考図書	『17歳のための世界と日本の見方』松岡正剛 春秋社	
	成績評価の方法	定期試験、授業内への積極的態。度。	
	備考	自由な発言を期待します。	
	授 業 計 画 (4月1日～9月27日)		
	第1回 4月11日 今、世界に何が起きているのか 【チェックポイント】	戦後の世界体制、国際連合、EU、グローバリズム ----- 現在、世界は大きく変わりつつあります。変わるということは変わる「前」と「後」があることとなります。今後どのような世界が誕生するかは予測するしかありませんが、その準備としてまずは戦後の世界体制（つまり変わる「前」）をしっかりと理解しましょう。	
	第2回 4月18日 社会とは？ その定義 【チェックポイント】	家族—地域—国家 私的空間・公的空間 時間軸・空間軸 ----- 社会はミクロ（家族）からマクロ（国家、世界）まで多彩な形態を持ちます。しかし、それは時間軸と空間軸という2つの座標で統一的に捉えることができます。社会を統一的に捉える視点を持つことで、自分と社会がつながっていることを自覚し広い視点を持つことの意義を学びます。	

<p>第3回 4月25日 社会の見方①</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>因果関係 確率関係 複雑系 選択の科学</p> <p>社会でも日々様々な出来事が生じています。それらは多種多様なものでどのように理解すればよいのか悩む人が多いですが、ここでの1つの考え方（因果－確率－複雑系）を紹介します。そしてこの考え方、視点を有効に援用することで社会の在り様をシンプルに理解すること（その意義）を学びます。</p>
<p>第4回 5月9日 社会の見方②</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>相対－絶対 条件 逸脱</p> <p>世界（社会）を理解するときには「相対性」が重要なものとなります。相対の本日は「条件」と「逸脱」のキーワードとなります。今回は我々が無意識に陥りがちな誤解の原因となる「相対－絶対」の考え方を学びます。</p>
<p>第5回 5月16日 社会と歴史①</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>戦後史 55年体制 プラザ合意</p> <p>現在の社会は過去の延長線上にあり、その延長線上に未来の社会があります。今回は戦後の日本社会の変遷を「大きな視点」で捉え、日々ニュースになっているトピックが今どうして、問題（話題）になっているのか、その背景を理解することを学びます</p>
<p>第6回 5月23日 社会と歴史②</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>バブル崩壊後－雇用制度変化－格差社会 インフレーション</p> <p>今回の授業は前回の復習とその展開です。前回の授業でできなかった、日本社会の変遷（1987年～2015年）をまず学びます。次にその知識を援用して現在ニュースで話題となっているトピックをどのように捉えるのかについて学びます。</p>
<p>第7回 5月30日 社会と政治</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>A層B層C層D層 保守 リベラル 大きな政府－小さな政府（夜警国家）</p> <p>かつて小泉内閣は国民をA B C Dの4つの区分で分類整理しました。今回の授業ではまずそれを紹介し、その問題点を学びます。また、政治的には「保守」「リベラル」、「大きな政府」「小さな政府」など社会を見ていくときの枠組みを紹介します。</p>
<p>第8回 6月6日 社会と経済</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>新自由主義 グローバリズム</p> <p>経済と社会状況とは直結します。昨今日本社会では「新自由主義」という言葉がマスメディアで頻繁に取り上げられています。今回はそれを取り上げ社会とのつながりについて学びます</p>
<p>第9回 6月13日 日本社会の今後①</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>格差社会</p> <p>日本は1998年に格差社会になりました。それは現在に至るまで続き、格差はさらに大きくなっています。「一億総中流」であった日本社会がどうして格差社会になったのか。そしてその中で我々はいかにして賢く生きていくのかについて考える基本、枠組みを学びます。</p>



<p>第10回 6月20日 日本社会の今後②</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>人口減少社会</p> <p>-----</p> <p>未来は未確定ですし、予測するしかありませんがその中で比較的 精確な視点に「人口」があります。現在の人口が数十年後の人口 へとつながるからです。人口減少時代の中で生じる経済的、社会的 的、国際的問題を考え、その時代の中でどのように生きていけば よいのについて自分の見解をまとめることを行います。</p>
<p>第11回 6月27日 社会と科学</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>科学の2面性 場合分け 水ビジネス</p> <p>-----</p> <p>科学の発展は我々の社会に大きな影響を与えました。しかしそれ はプラス面だけではなく様々なマイナス面を持ちます。しかし、 だからといって私たちは50年前の生活をするわけにはいきませ ん。では、私たちは科学とどうつきあうかについて学びます。</p>
<p>第12回 7月 4日</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>定期試験解説</p> <p>-----</p> <p>今回は定期試験問題について解説します。まず、定期試験問題を説明し て、それに関する必須ポイントについて解説します。皆さんはそれをし っかり理解し、2ヶ月後の試験（記述試験）の準備をしてください。 試験問題は2問です。それらについて授業内での解説ポイントを参照し ながら、ネット等での事例研究を行うこととなります。</p>
<p>第13回 9月 5日 社会と宗教</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>一神教ー多神教 シャーマニズム アニミズム</p> <p>-----</p> <p>私たち日本人は毎日の生活の中で宗教というものを特に意識して いません。しかし、世界には宗教中心の生活を送っている人々が いますし、イスラム紛争からも分かるように、同じ宗教でも対立 や争いが生じています。今回は、世界の宗教を大きな視点から分 類し、①なぜ宗教を信じる／信じない社会があるのか、②どうし て宗教内／外の対立が生じるのか、その背景について学びます。</p>
<p>第14回 9月12日 社会と私</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>時間軸、空間軸、戦後世界の崩壊、新しい価値観</p> <p>-----</p> <p>本講義は時間軸空間軸の接点である「イマ、ココ、ワタシ」か ら社会を考えるいくつかの視点を学びました。それらを今一度整 理して理解し直します。また、その視点、枠組みを通して、これ からの社会、世界がどの方向に進むのか、そしてその中で自分の 将来をどのように構築していくのか、賢く生きるための知恵につ いて学修します。</p>
<p>定期試験</p>	<p>事前に提示した問題について自分自身で調べたことを整理したこ とを試験時間内にまとめます。但し、その際持ちこみ不可としま すのでしっかり準備してください。</p>
<p>第15回 集中授業 (担当 教務)</p>	



# 化学

担当 山本 千恵子

主題と目標	無機化学分野では、単体と化合物について、金属と非金属の立場から
	物質を分類する。その上、化学反応の原理的理解につとめ、反応を型別に
	分類する。また、実習も実施し中和反応を理解する。
	このうち、物質の成り立ちと構成については最重要項目である。
参考図書	
成績評価の方法	評価は、単元試験、定期試験、授業態度および出欠状況などを総合的に判断する。
備考	試験問題は記述式、虫食い、計算問題である。

## 授 業 計 画 (4月～9月)

第1回 4月12日 物質の成り立ち と構成①  【チェックポイント】	<物質のなりたち> ・物質の分類…純物質と混合物 ・純物質と混合物のちがい ・単体と化合物 ・混合物の分離法
	自然界には、たくさんの物質が存在しています。これらは、いくつかの純物質が混じり合ってきた混合物である。純物質と混合物の違いを理解しておきましょう。  純物質 — { 化合物：構成元素は2種類以上 単 体：構成元素は1種類だけ
第2回 4月19日 物質の成り立ち と構成② 原子の構成と結合①  【チェックポイント】	<物質のなりたち> ・原子の構造 ・電子配置 ・最外殻電子、価電子について ・希ガス
	電子配置を知ることにより、その物質が陽イオンになるのか、陰イオンになるのか、また何価になるのかわかるようになります。  陽子の数+中性子の数=質量数

<p>第3回 4月26日 原子の構成と結合②</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>&lt;化学結合&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イオンとは</li> <li>・イオン結合</li> <li>・共有結合</li> <li>・金属結合</li> <li>・分子結晶</li> </ul> <p>化学結合とはどのような時にできる結合のことをいうのか。イオン結合、共有結合、金属結合について、それぞれの特徴を覚えていきましょう。</p>
<p>第4回 5月10日 原子量と分子量①</p> <p>【チェックポイント】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子量</li> <li>・原子量と同位体</li> <li>・分子量</li> <li>・1 molの気体の体積</li> </ul> <p>重さ、体積、個数を変換する際、直接変換することが、難しい。そこでmolを知ることによって変換可能になります。</p>
<p>第5回 5月17日 原子量と分子量②</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>&lt;濃度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単位の変換</li> <li>・溶液の基本用語</li> <li>・質量パーセント濃度</li> <li>・モル濃度</li> </ul> <p>濃度はまず、各単位が何を意味しているかを覚えてください。計算は何度も繰り返してできるようにしましょう。  <math>\text{mol/l} = \text{溶けている溶質の物質質量 (mol)} / \text{溶液の体積 (l)}</math></p>
<p>第6回 5月24日 酸と塩基①</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>&lt;酸と塩基&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・酸、塩基とは</li> <li>・アレーニウスの定義、ブレンステッドの定義</li> <li>・酸と塩基の価数</li> </ul> <p>酸と塩基には定義あります。</p> <p>アレーニウスの定義  酸：水溶液中で電離して水素イオンを生じる物質  塩基：水溶液中で電離して水酸化物イオンを生じる物質</p> <p>ブレンステッドの定義  酸：相手に水素イオンを与える物質  塩基：相手から水素イオンを受け取る物質</p>

<p>第7回 5月31日 酸と塩基②</p> <p>【チェックポイント】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電離度</li> <li>・酸、塩基の強弱</li> <li>・中和反応と塩の種類</li> </ul> <p>酸や塩基には強弱があります。代表的なものはしっかりと覚えておきましょう。また、価数も覚えましょう。</p> <p>強酸 : 塩酸、硝酸、硫酸 強塩基 : 水酸化バリウム、水酸化カルシウム 水酸化ナトリウム、水酸化カリウム</p>
<p>第8回 6月7日 酸と塩基③</p> <p>【チェックポイント】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中和反応の計算</li> <li>・pH（水素イオン濃度指数）について</li> </ul> <p>中和反応で未知の酸もしくは、塩基の濃度を計算する方法です。計算するためには前回の価数を覚えていなくてはなりません。</p> <p>pHとは水素イオン濃度指数のことです。pHという概念を理解してください。</p>
<p>第9回 6月14日 酸と塩基④</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>&lt;pH&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計算について</li> </ul> <p>&lt;中和滴定&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・使用器具</li> <li>・指示薬</li> <li>・中和滴定曲線</li> </ul> <p>中和滴定は実習を実施します。強または弱酸と強または弱塩基、組合せにより中和滴定曲線は変化します。しっかりと理解しましょう。また、中和滴定では、さまざまな器具を使用します。名前と使用方法を理解しておきましょう。</p> <p>強酸と強塩基との 滴定曲線</p> <div data-bbox="893 1545 1255 1960"> <p>0.1 mol/L HCl 10mLと 0.1 mol/L NaOH溶液の滴定曲線</p> <p>変色域 フェノールフタレイン 14 9.8 8.0 4.4 3.1 中和点 pH 10 7 4 0 0 10 20 mL ナトリウム水溶液の滴下量</p> </div>

<p>第10回 6月21日 中和滴定実習①</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>&lt;中和滴定実習：食酢の濃度を調べよう&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 使用器具、使用試薬</li> <li>・ 操作方法</li> <li>・ 結果の出し方</li> </ul> <p>今回は身近にある食酢を用いて中和滴定を実施します。普段何気なく使っていますが、どのくらいの濃度なのかを求めます。</p> <p>実習する上で必要なのは、何を目的にしているかをしっかり理解している必要があります。また、操作方法について予習をしている必要があります。</p>
<p>第11回 7月 5日 第12回 7月12日 中和滴定実習② 酸化と還元①</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>&lt;中和滴定実習&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 復習</li> </ul> <p>&lt;酸化と還元&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 酸化とは</li> <li>・ 還元とは</li> <li>・ 酸化数の求め方</li> <li>・ 酸化・還元反応</li> </ul> <p>身近でも酸化という現象は起きています。どのような状態のことをいうのかを理解しましょう。</p>
<p>第13回 9月 6日 中和滴定実習③</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>食酢の濃度を求める。</p> <p>第10回、11回で説明した中和滴定を実際に操作してみます。どのような流れ実習するのかを頭に入れておいてください。</p> <p>また、水酸化ナトリウムなどの試薬も使用しますので、注意して扱きましょう。</p>
<p>第14回 9月13日 酸化と還元②</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>&lt;酸化・還元反応式&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 反応式の作り方</li> </ul> <p>反応を考えるうえで、酸化と還元の意味を理解する必要があります。</p>
<p>定期試験</p>	<p>第1回～第14回の講義内容から出題</p>
<p>第15回 総復習</p>	

# 生物学

担当 墨 岳夫

主題と目標	地球上には、我々「ヒト」を含め多様な生物が存在している。生命の謎を解明
	するため、生命科学は著しい発展を遂げ、現代に浸透している。
	この講義では、生物の特徴や生命の単位である細胞について理解し、生命が
	どのように誕生し、成長し、未来へ生命を繋いでいくのかという仕組みを学ぶ。
	歯科医療従事者として、解剖学や生理学、栄養生化学の土台となる知識を身に
	つけると共に、日常にあふれるサイエンスや現代のバイオテクノロジーの進歩 について興味を持つ機会になることを期待する。
教科書	最新歯科衛生士教本「生物学」 川合進二郎 他著 医歯薬出版 (2008)
参考図書	Essential細胞生物学 (第3版) Bruce Alberts 他著
成績評価の 方法	評価方法は、授業中の小テスト20%、定期テスト80%とする。
授 業 計 画 (4月～9月)	
第1回 4月 13日  生命  教P. 2-13	生命の誕生と変遷  生物が持つ特徴について理解する。  生命が誕生した過程や、生物が固有の特徴を獲得するに至った経緯について理解を深める。
第2回 4月 20日  細胞  教P. 16-26	細胞の構成物質と性質  生物の最小単位である細胞の特徴について学ぶ。  生命の源である水の性質と役割、タンパク質・核酸・糖質・脂質についての化学的理解を深める。  細胞に必要な構造について理解する。

<p>第3回 4月 27日</p> <p>細胞小器官</p> <p>教P. 27-35</p>	<p>細胞小器官 細胞のさまざまな活動</p> <hr/> <p>細胞内の構造物である細胞小器官について、その名称と働きを詳しく学ぶ。</p> <p>酵素反応や呼吸、運動など細胞の様々な活動について知る。</p>
<p>第4回 5月 11日</p> <p>小テスト①</p> <p>細胞周期</p> <p>教P. 36-40</p>	<p>細胞周期 単細胞生物と多細胞生物</p> <hr/> <p>講義前に第1回～第3回までの範囲について小テストを実施する。</p> <p>細胞が数を増やす仕組みである細胞分裂について詳しく学ぶ。 単細胞と多細胞生物の違いについて理解する。</p>
<p>第5回 5月 18日</p> <p>組織と器官</p> <p>教P. 40-47</p>	<p>組織と器官系</p> <hr/> <p>ヒトの体を構成する組織について学び、組織の組み合わせで形作られる様々な器官系について理解する。</p> <p>また器官系を通して、ヒトの生命維持のための基本的な活動を知る。</p>
<p>第6回 5月 25日</p> <p>生殖と遺伝</p> <p>教P. 50-60</p>	<p>有性生殖と無性生殖 減数分裂と配偶子</p> <hr/> <p>有性生殖と無性生殖の違いについて理解する。</p> <p>有性生殖の仕組みである減数分裂について学び、体細胞分裂との違いについて理解を深める。 また、遺伝の法則について学ぶ。</p>
<p>第7回 6月 1日</p> <p>小テスト②</p> <p>遺伝子①</p> <p>教P. 60-64</p>	<p>DNAの化学的な性質</p> <hr/> <p>講義前に第4回～第6回までの範囲について小テストを実施する。</p> <p>染色体・DNA・遺伝子という言葉の意味の違いを正確に捉え、遺伝情報を受け継ぐしくみについて理解する。</p>



<p>第8回 6月 8日</p> <p>遺伝子②</p> <p>教P. 65-68</p>	<p>遺伝子を働かせる仕組み</p> <hr/> <p>DNAを鋳型とし転写によってRNAをつくり、翻訳によってタンパク質をつくる一連の流れである、セントラルドグマについて理解する。</p>
<p>第9回 6月 15日</p> <p>発生</p> <p>教P. 69-72</p>	<p>発生の過程</p> <hr/> <p>発生の基本的な仕組みと三胚葉について理解する。</p> <p>また、発生の研究途上で発見されたES細胞とiPS細胞について、最新の知見を紹介する。</p>
<p>第10回 6月 22日</p> <p>小テスト③</p> <p>刺激の受容と反応</p> <p>教P. 74-78</p>	<p>外部刺激の受容と刺激の伝達</p> <hr/> <p>講義前に第7回～第9回までの範囲について小テストを実施する。</p> <p>外部刺激を受容する感覚器について理解を深める。</p> <p>また、感覚器で受容した刺激を伝達する仕組みについて学ぶ。</p>
<p>第11回 7月 6日</p> <p>神経伝達と神経の分布</p> <p>教P. 79-83</p>	<p>中枢神経と末梢神経</p> <hr/> <p>高等生物の特徴である神経系について理解する。</p> <p>とくに、神経系の中枢を担う脳についてより詳しく学ぶ。</p>
<p>第12回 7月 13日</p> <p>ホメオスタシスとホルモン</p> <p>教P. 84-92</p>	<p>内部環境を保つ仕組み</p> <hr/> <p>生命活動の基盤となるホメオスタシス(恒常性の維持)について学ぶ。</p> <p>生物の外部環境と内部環境と区別し、神経系とホルモンが内部環境を維持する仕組みを理解する。</p>

<p>第13回 9月 7日</p> <p>小テスト④</p> <p>免疫</p> <p>教P. 92-96</p>	<p>生体防御と免疫系</p> <hr/> <p>講義前に第10回～第12回までの範囲について小テストを実施する。</p> <p>小さな外敵と戦う仕組みとしての免疫について学ぶ。さらに、アレルギーやワクチンなど、免疫の主役である抗原抗体反応に関する現象について理解する。</p> <p>またバイオテクノロジーの分野で非常に重要なツールとしての抗体の利用法を紹介する。</p>
<p>第14回 9月 14日</p> <p>行動と進化</p> <p>教P. 97-105</p>	<p>動物の行動と進化</p> <hr/> <p>生得的行動と習得的行動の特徴を理解し、ヒトの進化について知る。</p> <p>生態系の構造を理解し、種々の環境問題について科学的・生物学的な理解を深める。</p>
<p>第15回</p> <p>定期試験</p> <p>教P. 2-105</p>	<p>教科書の全範囲に渡って出題する。国家試験の傾向を踏まえ、各単元の要点を押さえられているかがポイントとなる。</p> <p>設問数は多く、基本的には選択式で出題する。重要な部分は記述式もあり得る。</p> <hr/> <p>教科書の図をよく理解し、下線を引いた用語を理解して臨むことが好ましい。</p> <p>小テストや配布資料をよく復習しておくこと。</p>

# ドイツ語

担当 安藤 公一

主題と目標	ドイツの詩人ゲーテ（1749～1832）は、「外国語を学ぶとき、人は初めて自分の国の言葉を理解する」と言いました。すばらしいですね。勉強する意欲が体の中から自然とわきあがってくるような気がします。
	皆さん、ドイツ語を話したり、読んだり、書いたりしてみたいと思いませんか？
	楽しいですよ。ドイツ語ときいてあなたはどんな印象をいだくでしょう。知性と教養、情熱。それに国際社会における信用力、ブランド力ではないでしょうか。ドイツ語を少しでも知っていたらカッコいいんです。
	さあ、元気よく「グーテン・ターク（こんにちは）！」と尝试してみましょう。目の前にドイツ語の世界がぱっと開けます。
	この授業の目的はドイツ語に親しむことです。ドイツ・オーストリア・スイスなどドイツ語圏の国々を旅行して役に立つ会話表現や、日本の医療現場で使用されているドイツの専門用語もいくつかマスターします。
	最後の授業でアニメ『アルプスの少女ハイジ』のビデオをドイツ語版で鑑賞しましょう。
	『Viel Spaß!（フィール・シュパース！）』橋本政義、橋本淑恵、ハイケ・ピナウ著 郁文堂
	自宅に独和辞典のある方は、ぜひ授業にもってきてください。辞書のひき方をお教えします。
	試験問題は記述式で、学習進度が正しく点数にあらわれるものにします。ただし、評価全体は試験のほか、出席状況・学習態度・宿題等を総合して判定します。
	語学上達の方法は、まず聴くこと、音読すること、そして暗唱することです。授業で習った表現は全部おぼえてください。出来ますよ。誰でもたちまちドイツ語のリズムに魅了されますから。

## 授業計画 (6月～9月)

第1回 6月6日 ドイツ語が話されている国々	ドイツ・オーストリア・スイスの自然・歴史・文化。
ドイツ医学と日本	「アルバイト」(Arbeit)、「カルテ」(Karte)、「ゲレンデ」(Gelande)などの言葉はドイツ語です。
ドイツ語のなりたち	ドイツ語と英語は兄弟関係で、ドイツ語の方が兄貴分です。
アルファベート (アルファベット) の発音練習	ドイツ語の発音。
【フィッパイント】	A (アー)、B (ベー)、C (ツェー)と口を大きくあけて発音しましょう。人気アニメ『アルプスの少女ハイジ』で主人公のハイジさんがやっていました。ハイジさんはスイスのアルプスの生まれで、おじいさんやペーター君や愛犬ヨーゼフとすごすときは「ドイツ系スイス人」、ドイツのフランクフルトへ行って、クララさんとすごすときは「スイス系ドイツ人」です。この意味わかります？ ドイツ語の発音はローマ字式で、英語よりも簡明です。 ウムラウト (変音) の発音では笑わないこと。

<p>第2回 6月13日</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>会話表現① —— “Guten Tag!” “こんにちは!” 発音 (Die Aussprache) 数のかぞえかた 教科書：第1課の1回目</p> <p>ドイツ語で「おはよう」、「こんにちは」、「こんばんは」の表現はここでおぼえて一生忘れないようにしましょう。 まず、発音です。ドイツ語の単語は基本的にローマ字を読む要領で発音します。 ドイツ語と英語では似た単語がたくさんあります。また、ドイツ語の名詞の頭文字は必ず大文字で表記されます。これは文章を読むうえでたいへん便利です。 0から10までの数のかぞえかたもおぼえましょう。お風呂に入ったときにかぞえてみてください。 教科書第1課の文章を読みます。</p>
<p>第3回 6月20日</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>会話表現② —— “Wie geht es Ihnen?” “お元気ですか?” 専門用語(1) —— “das Krankenhaus” (病院) 教科書：第1課の2回目</p> <p>ドイツ語の「お元気ですか?」は英語とくらべ、すこしぎくしゃくした感じですが、そこがドイツ語のいいところ。しっかりとおぼえましょう。 教科書の文法では、動詞の現在人称変化を学びます。英語で3人称単数の動詞の語尾に s をつけることを思い出してください。ドイツ語はもっと華やかに変化します。また、重要な動詞 sein と haben を学びましょう。英語の be 動詞がドイツ語の sein 動詞に、have 動詞が haben 動詞にあたります。</p>
<p>第4回 6月27日</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>会話表現③ —— “Danke, nicht gut.” “調子はあまり良くありません。” 専門用語(2) —— “die Apotheke” (薬局) 教科書：第1課の3回目 ビデオ鑑賞：『スイス・アルプスの旅』</p> <p>ドイツでは薬局のことを「アポテーケ」と言います。なんだか楽しそうな単語ですね。ドイツの街を歩いていると APOTHEKE の大きな看板のかかった店をよく見かけます。薬剤師さんに「1回につき4錠飲みなさい」と言われても、私たち東洋人は体が小さいぶん3錠くらいにしておくのが無難でしょう。 ビデオを観ます。スイスは多民族国家で、ドイツ語、フランス語、イタリア語、ロマンス語を話す人々から成っています。そのうちドイツ系の住民は全体の6割をしめます。ハイジさんもドイツ語を話していたのですね。ユングフラウ地方への鉄道の旅でスイスの美しい自然を楽しみましょう。</p>
<p>第5回 7月4日</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>会話表現④ —— “Woher kommen Sie?” “どこから来ましたか?” 専門用語(3) —— “Herz, Magen, Lunge” (心臓、胃、肺。ドイツ語で癌は何というでしょう) 教科書：第2課の1回目</p> <p>教科書第2課の文章を読みます。話題はドイツのサッカーです。男子サッカー・ワールドカップにおけるドイツの優勝回数は西ドイツ時代をふくめて4回です。まさにサッカー大国と言えるでしょう。どれほど劣勢であっても最後まであきらめない戦いぶりは「ゲルマン魂」とも称され、多くのファンを魅了してきました。現在ドイツのサッカー・クラブで活躍する日本人選手もかなりの数にのぼります。</p>
<p>第6回 9月5日</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>会話表現⑤ —— “Es ist heiß.” “暑いです。” 専門用語(4) —— “das Blut” (血) 教科書：第2課の2回目</p> <p>皆さん、献血をやったことがありますか? 血Blutに関する単語を集めてみましょう。教科書では、ドイツ語の名詞には性があることを学びます。男性名詞、女性名詞、中性名詞です。さて、ドイツへ行ってもし質問されたら、ドイツ語ですらすらと答えることができるようにしましょう。大丈夫です。必ずやれますよ。 「私の名前は〇〇〇〇です」「日本から来ました」 「将来は歯科衛生士になるべく勉強しています」</p>

<p>第7回 9月12日</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>会話表現⑥ —— “Ich möchte einen Kaffee.” 「コーヒーをください。」 “Auf Wiedersehen!” 「さようなら！」</p> <p>模擬テスト ビデオ鑑賞：『アルプスの少女ハイジ』</p> <p>最後にビデオを観ましょう。『アルプスの少女ハイジ』はスイスの女流作家ヨハンナ・シュペリさんの作品で、あまりにも有名な物語です。これを40年も前に日本人がテレビでアニメ化して大ヒットしました。ほとんど全世界の人たちが観ています。主人公ハイジの天衣無縫なキャラクター、子供たちを見守る人々の温かい眼差し、より良き未来を信じる心、そして背景となるアルプスの美しい自然が私たちの心を魅了してやみません。ドイツ語の吹き替え版であの懐かしいシーンを鑑賞します。授業でおぼえた表現もたくさん出てきます。</p>
<p>第8回</p>	<p>定期試験</p>



# 外国語 I (中国語)

担当 姫 梅

主題と目標	この授業は中国語の基礎を紹介し、中国語の発音、声調、挨拶や日常会話などで使われる基本的な表現を身につけさせることを目的とする。目標としては、以下の4点になる。
	1、ピンインと声調記号を見て正確に発音できること。
	2、中国語の数字や、金額、時間、年月日などの表し方を覚えること。
	3、中国語と日本語の漢字の違い、文法の違い、また両国の文化の違いなどを理解できること。
	4、あいさつ用語と一部の医療現場で使われる用語を覚えること。
教科書	教科書なし (プリント配布、PPT 使用)
参考図書	標準中国語 基礎編 上野恵司著 白帝社
成績評価の方法	試験による
備考	
授 業 計 画 ( 4 月 1 日～9 月 2 7 日)	
第1回 4月14日	発音
【チェックポイント】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国語の仕組み (漢字、発音、声調)</li> <li>・母音 (基本母音+複合母音)</li> <li>・子音 (声母)</li> <li>・声調 (1、2、3、4 声+轻声)</li> </ul>
第2回 4月21日	第一課 这个好 (こっこのほうがいいです)
【チェックポイント】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容の復習+“儿”化+変調</li> <li>・新出単語</li> <li>・人称代名詞、主語と述語</li> <li>・否定詞“不”</li> </ul>

中国語

第3回 4月28日	我是学生（私は学生です）
【チェックポイント】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容の復習＋新出単語</li> <li>・A是B、A不是B、A是B吗？</li> <li>・“也”と“都”</li> <li>・あいさつ用語＋医療現場で使われる用語</li> </ul>
第4回 5月12日	你知道吗？（ご存じですか。）
【チェックポイント】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容の復習＋新出単語</li> <li>・疑問文（一）</li> <li>・“很不...”“不太...” — 全否定と部分否定</li> <li>・“的” — 所有・所属の表現</li> </ul>
第5回 5月19日	这是什么？（これは何ですか。）
【チェックポイント】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容の復習＋新出単語</li> <li>・疑問文（二）</li> <li>・“有”と“没有”、“这”“那”“哪” — 指す言葉</li> <li>・あいさつ用語＋医療現場で使われる用語</li> </ul>
第6回 5月26日	你家有几口人？（何人家族ですか。）
【チェックポイント】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容の復習＋新出単語</li> <li>・動詞＋目的語</li> <li>・数の数え方：“两”と“二”、助数詞“个”</li> <li>・疑問数詞“几”と“多少”</li> </ul>
第7回 6月 2日	今天几月几号？（今日は何月何日ですか。）
【チェックポイント】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容の復習＋新出単語</li> <li>・時刻、時間、年月日、曜日の表し方</li> <li>・お金の数え方</li> <li>・あいさつ用語＋医療現場で使われる用語</li> </ul>
定期試験	
第8回 春期集中 担当：教務	総復習



# 生理学

担当 服部 美咲

主題と目標	ヒトの身体の仕組みについて知る。身体は形態と機能に分けることができる。形態は、解剖・組織学で学ぶ。生理学では、機能について知る。
	以上のように、元は一つであるから機能といえども常に形態を意識して理解することが肝心。健康な身体の各部分が、どのような仕組みで機能しているのか。またそれぞれの部位が、どのように相互に関係しているのかを知る
	ことによって、この不可解な生き物の一側面を理解することができる。
教科書	新歯科衛生士教本 生理 船越正也他著 医歯薬出版
参考図書	目でみる解剖・生理 遠山正 他著 厚生社 その他「臨床検査法」「生物学」
成績評価の方法	評価は中間試験、定期試験、出席状況などを総合的に判定
備考	試験問題形式は記述式、選択問題、○×問題などである
授 業 計 画 (6月～9月)	
第1回 6月10日 総論・細胞 P.7~14 【チェックポイント】  血液 P.116~122 【チェックポイント】	生理学とは 体の機能について 生理学の歴史 細胞の構造
	生理学の歴史を読んでおくこと。生理学とはなにを学ぶ学問か。なぜ、生理学を学ばなければならないのか。以上二点についての理解を深めておくこと。 生体の機能を学ぶにあたって細胞の一般的機能を理解しておくこと。生物学を復習しておくこと。
	血液の働き 細胞分裂について(遺伝子) 血液について(種類、比重、凝固、血液型)
	血液の働きを理解し、出血と止血、血液型と輸血ならびに血液検査の概要など臨床に必要な基礎的な事項を学習する。 血液の働きを理解するためにP.15図3-2 血液の成分を覚えておくこと。
第2回 6月17日 血液・循環 P.111~113 P.123~128 P.141 【チェックポイント】	肺循環と体循環 正常人の血圧 リンパ循環 心臓について(刺激伝導系、心音、心電図、神経支配)
	心臓の働きを理解しておくこと。 「生物学」を読んで復習しておくこと。 血液循環不全のために起こるショックに対する処置も知っておくこと。

<p>第3回 6月24日 呼吸・筋 P.28 .29 P.172 P.180~182 【チェックポイント】</p>	<p>外呼吸と内呼吸 胸式呼吸と腹式呼吸 肺活量 骨格筋、平滑筋、心筋の特徴</p> <hr/> <p>外呼吸と内呼吸がある。呼吸の仕組みを理解しておくこと。 呼吸運動には胸式呼吸と腹式呼吸があるので覚えること。 閾値とは、興奮を起こさせるにいたる最小の刺激をいう。 横紋筋 平滑筋 心筋を比較理解しておくこと。</p>
<p>第4回 7月8日 神経 P.146~149 P.165,166 【チェックポイント】</p>	<p>有髄神経と無髄神経 自律神経について（交感神経、副交感神経） 興奮伝導の三原則 中枢神経の働き</p> <hr/> <p>神経を分類し、整理しておくこと。 ニューロンの種類でP.47 図7-1を勉強しておくこと。 自律神経、体性神経については教科書を読んでおくこと。</p>
<p>第5回 7月15日 感覚・消化と吸収 P.98~103 P.198~204 【チェックポイント】</p>	<p>ウェーバーの法則 視覚、聴覚、平衡感覚、嗅覚の特性 胃について（運動、胃液の成分と分泌） 小腸について（種類、各液の成分とその作用）</p> <hr/> <p>飲食物の消化と吸収の仕組みを理解しておくこと。 消化器と酵素の働きを知っておくこと。</p>
<p>第6回 9月2日 排泄・体温 P.206~226 【チェックポイント】</p>	<p>皮膚の排泄（汗腺、発汗）      体温調節 尿の排泄量、性状                      体温の変動</p> <hr/> <p>腎臓の機能について理解しておくこと。 発汗には温熱性発汗と精神性発汗があることを理解しておく。</p>
<p>第7回 9月9日 内分泌・生殖 P.227~237 【チェックポイント】</p>	<p>分泌ホルモンの名称 各ホルモンの過剰症、欠乏症 男性生殖器と女性生殖器</p> <hr/> <p>内分泌腺の機能と疾患について知っておくこと。 男性生殖器と女性生殖器について知っておくこと。</p>
<p>定期試験</p>	

# 歯牙解剖

担当 上橋 清美 (実務経験者授業)

主題と目標	口腔解剖は歯科医学に直接必要な口腔と、これに密接な関係をもつ口腔
	周辺の各器官の形態や構造を肉眼的に考究していく学問である。
	歯は口腔にある重要な一つの器官であるから歯の解剖は当然、口腔解剖
	学の中に含まれるものである。
	歯科衛生士の教育において学問の流れの大きな道筋をとらえ、口腔につ
	いて全般的な姿を正しくとらえるように努める。歯科衛生士の業務を行うのに直接必要な個々の形態を十分に理解し、臨床に役立つ知識を講義する。
教科書	最新歯科衛生士教本 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔解剖学 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
参考図書	歯科実技叢書 口腔解剖学 桐野忠大・小林茂夫著 医歯薬出版
成績評価の方法	定期試験、授業態度、出席状況を重視
授業計画	(4月～6月)
第1回 4月12日 歯の概論①  P. 148～153  【チェックポイント】	①歯とは ②歯の交換 ③歯の植立 ④歯の組織 ⑤歯の種類、表示方法 哺乳類と爬虫類以外の動物の歯の形態、数、構造などの違い歯の生物学的特性 人類の歯の種類とその歯について  ----- 歯科衛生士の業務を行うのに直接必要な個々の形態を理解しておくこと。 歯は脊椎動物になってはじめて出現する器官であるがそれぞれの動物の種によって形態、数、構造などがはなはだしく異なるので歯の定義を読んでおくこと。 P. 148 (教科書。以下同じ)を読んでおくこと。
第2回 4月19日 歯の概論②  P. 153～156  【チェックポイント】	①歯の形態と機能 ②歯と歯周組織 ③歯の用語 ④根管の形態 ⑤歯の左右の鑑別 歯の形態、歯と歯周組織、構造、歯の機能 歯冠辺縁と隅角 歯髓腔について  ----- 歯は上下左右同じように一列に並んでいる。歯の形は四種類(切歯、犬歯、小白歯、大白歯)に分けて覚える。 歯と歯周組織(この用語には歯を支持するという機能的な意義が含まれている)の関係を理解しておくこと。

<p>第3回 4月26日 永久歯① (切歯)  P. 156~162  【チェックポイント】</p>	<p>①永久歯の特徴 ②中切歯 ③側切歯 永久歯全体にみられる共通の形態的特徴 永久歯の歯種についてや各歯牙の発達の違い 切歯の特徴と各歯種の形態的特徴 上下顎間、または、同じ顎の第一切歯と第二切歯の相違点</p> <hr/> <p>永久歯のそれぞれの特徴を明確にとらえ、どのような特異な形態をもっているかを知っておくこと。 切歯は口唇に接して上下顎、左右側にそれぞれ二本ずつ合計八本存在し、食物を捕らえこれをかみ切る働きをする。根管はほとんどが単純根管であるが下顎切歯では分岐根管のことがあるので、覚えておくこと。</p>
<p>第4回 5月10日 永久歯② (犬歯, 小白歯)  P. 162~173  【チェックポイント】</p>	<p>①犬歯 ②小白歯 (第一小白歯, 第二小白歯) ③犬歯と小白歯の形態の比較 犬歯の特徴 小白歯の概形と特徴 上顎第一小白歯と上顎第二小白歯における咬合面の比較 介在結節について</p> <hr/> <p>小白歯は頬に対して上下顎、左右側のそれぞれ二本ずつ合計八本である。隣接する犬歯との類似点、相違点を理解する。 小白歯は、頬側咬頭と舌側咬頭を有し咬合面をつくっているのが大きな特徴であることを覚えておくこと 介在結節… 横副溝と頬副溝の間にはさまれた辺縁隆線が 限局性に肥厚して小さな結節をつくる。 犬歯と小白歯における舌側半分の発達程度の比較をしておく 下顎小白歯の咬合面・近心面・頬側面および舌側面の関係を理解しておく。 下顎第二小白歯の歯冠は、遠心側に副咬頭の発達が著しい場合には三咬頭となる。また、中心溝は中心小窩のところで折れ曲がっており、V字形を呈することを覚えておくこと</p>
<p>第5回 5月17日 永久歯③ (大白歯)  P. 173~180  【チェックポイント】</p>	<p>①大白歯 (第一大白歯, 第二大白歯) 上下顎大白歯の概形と特徴 各上顎大白歯の相違、各下顎大白歯の相違 大白歯の多咬合を理解：各大白歯間の形態の相違 第一大白歯の重要性 日本人の永久歯の大きさ</p> <hr/> <p>大白歯の最大の特徴は多咬頭歯である。食物を摂取しすりつぶす機能力の増強をもたらす上顎大白歯の基本形態は四個の咬頭をもつ平行六面体に類似した歯冠と頬側に二本と舌側に一本の合計三本の歯根からなることを覚えておくこと。 カラベリー結節… 近心舌側咬頭の舌側面において舌側面溝よりにある小さな結節である。 大白歯の形態をまとめておくこと。 各大白歯は後方に行くほど次のような特徴が出る。 ①第一大白歯から第三大白歯へと形態が退化し、歯の大きさは遠心の歯ほど全体的に小さくなっている。 ②咬合面の占める割合は小さい。 ③頬側あるいは舌側から見た場合、近心咬頭頂と遠心咬頭頂とを結ぶ直線は歯の長軸に対して遠心の歯ほど傾斜が強い。 P. 254~264参照しておくこと。</p>

<p>第6回 5月24日 乳歯① P. 180~191</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>①乳歯の特徴 ②乳中切歯 ③乳側切歯 ④乳犬歯</p> <p>乳歯と代生歯および加生歯を含む永久歯との形態的相違 乳切歯の特徴（歯冠長と歯根） 乳切歯、乳犬歯の特異的特徴 乳切歯、乳犬歯の特徴について代生歯と比較 歯冠歯頸部の歯帯について</p> <hr/> <p>乳歯は後続する代生歯よりも原始的な形態を保持している。 具体的に乳歯歯冠歯頸部に歯帯をもつという特徴などがある。 乳臼歯は代生歯とはかなり違った形態をもっているが加生歯とよく似ていることを知っておくこと。 人類において生後7~8か月から2年半ぐらいの間に順次萌出する。 7~12歳になると萌出した順序に次々と脱落し代生歯と交代するので乳歯と永久歯を比較してまとめておくこと。 乳歯の特徴は歯冠近遠心径に比べて歯冠長が著しく縮小し歯根が補足し長いという特徴がある。 上顎乳犬歯は歯冠近遠心径に比べ歯冠長が代生歯よりも相対的に著しく短いことを把握しておくこと。</p>
<p>第7回 5月31日 乳歯② P. 190~201</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>①乳臼歯の形態 ②第一乳臼歯 ③第二乳臼歯</p> <p>日本人の乳歯の大きさ 上顎第二乳臼歯と上顎第一大臼歯の差異</p> <hr/> <p>乳臼歯の形態は大白歯と比べるとその大きさ、あるいは歯冠形態において多くの点で類似している。 上顎第二乳臼歯の基本形態は第一大臼歯に極めてよく似ているが細かい点については違いがある。 類似点、相違点をまとめておくこと。</p>
<p>第8回 定期試験</p>	



## 組織学

担当 上橋 清美 (実務経験者授業)

主題と目標	組織学とは解剖学の一分野であり、口腔を構成する諸臓器の微細な構造をしり、口腔の形態と機能を理解する。生命の基本単位である。 細胞や組織について、教科書・授業プリント・スライドを通し解剖の基本的な専門用語を理解し、さらに臨床に役立てていく事を目標とする。
教科書	最新歯科衛生士教本 解剖学・組織発生学・口腔解剖学 井出吉信他著 医歯薬出版
参考図書	最新歯科衛生士教育マニュアル 組織・発生学 鈴木和夫他編 クインテッセンス出版 その他「生物学」、「生理学」
成績評価の方法	定期試験、授業態度、出席状況を重視
備考	試験問題形式は、記述式で実施
授業計画 (6月～9月)	
第1回 6月7日 歯と歯周組織 エナメル質 P. 218-225 【チェックポイント】	①歯周組織の概要：歯、歯周組織の構成を理解する ②エナメル質 歯を構成する硬組織であるエナメル質、象牙質、セメント質の物理的、化学的特徴、構造物について理解する。 ヒトの身体組織の中で最も硬い歯の表層をおおう、高度に石灰化したエナメル質、またその構造について理解する。
第2回 6月14日 象牙質 歯髄 P. 225-235 【チェックポイント】	①象牙質 ②歯髄 象牙質は歯の主体をなす骨に類似した組織である。 象牙質、またその構造について理解する。 象牙質に栄養供給や形成に関与する歯髄について理解する。 象牙質、歯髄複合体はとみに歯乳頭から発生する
第3回 6月21日 セメント質 歯根膜 P. 236-243 【チェックポイント】	①セメント質 ②歯根膜 歯周組織を分類できるようにする。 歯の硬組織の1つでもあり、歯周組織でもあるセメント質について理解する。 歯の可動性や感覚にも敏感に関与する歯根膜について理解する。

<p>第4回 7月 5日</p> <p>歯槽骨 歯肉 P. 243-249</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>①歯槽骨 ②歯肉</p> <p>歯周疾患などの強い炎症により骨は吸収されていく、臨床的に様々な変化がみられる歯槽骨について理解する。 歯肉は刺激に弱く炎症を生じやすい。 臨床的にも炎症の指標となりやすい歯肉の構造や、形態的特徴を理解する。</p>
<p>第5回 7月12日</p> <p>歯周組織の生理 P. 249-251</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>①歯周組織の生理 ②口腔粘膜</p> <p>歯周組織の生理的な動揺度、離開度について、病的なものとの違いを理解する 口腔粘膜を機能的に分類し、組織学的特徴を理解する</p>
<p>第6回 9月 6日</p> <p>口腔組織 P. 198-200</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>①特色のある歯の形態</p> <p>歯は先天的に、また発育の過程において、典型的な形態とは異なる状態を呈することがある。それぞれの特徴について理解する。 歯数過剰で最も頻度が高いのは上顎切歯部に出現する過剰歯である。歯数不足で最も欠如する歯は、上下顎第三大臼歯である。 乳歯と永久歯の萌出機序・萌出時期について理解する。</p>
<p>第7回 9月13日</p> <p>口腔組織 P. 201-207</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>①歯列と咬合</p> <p>歯は一定の順序に従い顎骨の歯槽の中に植立し歯列弓を作る。 植立は、近遠心的および唇舌的に種々なる角度で傾斜。 咬合とは、頬側面から観察した場合、下顎第一切歯と上顎第三大臼歯を除く他の歯は必ず反対顎の二歯と相對し、一歯對二歯の關係にあることを知っておくこと。</p>
<p>第8回</p> <p>定期試験</p>	



<p><b>病理学</b></p> <p style="text-align: right;">担当 武本 和峰</p>	
<p>主題と目標</p>	<p>正常な身体がバランスを崩して病気になる。病気は、身体に形態的な変化と機能的な欠陥を伴う。</p>
	<p>病理学では、病気の原因・その状態そして予後について知る。各々疾病についてそれぞれのステージでの形態的・機能的特徴を知る。だから基本となる正常の解剖組織学と生理学の素養が無ければ理解できない。</p>
	<p>講義では、基本的な事柄に関して教授する。</p>
	<p>教科書 最新歯科衛生士教本 病理・口腔病理学 仙波伊知郎他著 医歯薬出版</p>
	<p>参考図書</p>
<p>成績評価の方法</p>	<p>評価は定期試験、出席状況、授業態度などを総合的に判定する</p>
<p>備考</p>	<p>試験問題形式は、記述式・虫食い・○×問題などである</p>
<p><b>授業計画 (6月～9月)</b></p>	
<p>第1回 6月9日</p> <p>病理学序論と病因論 【チェックポイント】</p>	<p>病理学とは 病因の分類 (外因・内因) 公害病・医原病</p> <p>内因には素因と体質、内分泌異常、免疫応答異常 外因には物理的因子、化学的因子、生物的因子、栄養障害 公害病には水俣病、イタイイタイ病など 医原病にはサリドマイドによる奇形、抗菌薬による難聴など</p>
<p>第2回 6月16日</p> <p>遺伝性疾患と奇形 【チェックポイント】</p>	<p>遺伝と疾患 性染色体異常と常染色体異常 奇形について</p> <p>正常の染色体の数、性染色体、常染色体 先天異常とは 遺伝子病には常染色体優性遺伝・劣性遺伝、伴性劣性遺伝 染色体異常にはダウン症候群、ターナー症候群、 クラインフェルター症候群</p>

<p>第3回 6月23日</p> <p>循環障害</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>大循環系と小循環系 循環血液量の障害 閉塞性の循環障害</p> <p>循環障害では虚血、充血、うっ血、出血、浮腫、 ショック、梗塞について覚えておくこと。</p> <p>傍側循環とは</p>
<p>第4回 7月7日</p> <p>代謝障害と 退行性病変</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>変性、内分泌異常、萎縮、細胞死について</p> <p>変性には蛋白質変性、脂肪変性、糖質変性、石灰変性、 結晶体変性、色素変性など</p> <p>壊死と枯死の違い</p>
<p>第5回 9月1日</p> <p>増殖と修復</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>肥大と過形成、化生、再生と修復、創傷治癒</p> <p>肥大には生理的肥大と病的肥大 化生とはどういうことか覚えておくこと 不安定細胞、安定細胞、永久細胞 肉芽組織とはどういう組織か覚えておくこと</p>
<p>第6回 9月8日</p> <p>炎症と免疫応答異常</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>炎症の原因と形態的分類 炎症の五大徴候 炎症の病理学的大別（変性性炎、滲出性炎、 増殖性炎、特殊性炎）</p> <p>免疫応答について アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全症、移植免疫について</p> <p>炎症の病変について教科書を読んでイメージしておくこと。 各種炎症と疾患を関連づけて覚えておくこと。 特異性炎では特徴的な細胞を覚えておくこと。 アレルギーの種類と疾患またそれに関与するものについて エイズの合併症についても理解しておくこと。 （カポジ肉腫、悪性リンパ腫、カンジダ症）</p>
<p>第7回 9月15日</p> <p>腫瘍</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>腫瘍の形態、腫瘍の発生（内因、外因） 腫瘍の分類（良性腫瘍と悪性腫瘍）</p> <p>悪性と良性腫瘍の違いを覚えておくこと。 上皮性と非上皮性の違いについて認識しておくこと。</p>
<p>定期試験</p>	

# 微生物学

担当 野村 航

主題と目標	口の二大疾患であるムシ歯と歯周病は、ともに微生物により引き起こさ
	れる感染症である。そのため口腔医療のプロフェッショナルである歯科
	衛生士を目指す人々にとって、微生物学/口腔微生物学は特に重要な科目
	の一つである。
	本授業では、病原菌（悪玉菌）、非病原菌（善玉菌）の違い、口や消化
	管に常在する微生物と外来性の微生物の違いなど微生物学の概要と感染免 疫の基礎的知識、また臨床の場で役立つ感染予防の知識を習得する。
教科書	最新歯科衛生士教本 微生物学 木村重信他著 医歯薬出版
参考図書	歯周病を科学する 天野敦雄編 クインテッセンス出版
成績評価の 方法	定期試験、授業出席回数
授 業 計 画 (4月～9月)	
第1回(前期) 4月12日 P.1~7  [チェックポイント]	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 微生物学を学ぶ目的</li> <li>2. 微生物と人間の関わり</li> <li>3. 微生物が住む場所</li> <li>4. 感染と疾患</li> </ol> <p>微生物が引き起こす感染と疾患についての概論。</p>
第2回(前期) 4月19日 P.123~143  [チェックポイント]	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 口の感染症：虫歯と歯周病</li> <li>2. 全身の感染症</li> <li>3. 口の感染症と全身疾患</li> </ol> <p>微生物学に興味を感じるために、身近な感染症を知る。</p>

<p>第3回（前期） 4月26日</p> <p>P.16~25</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>1. 微生物の一般性状</p> <p>① 細菌の形態 ② 細菌の構造 ③ 細菌の代謝 ④ 細菌の増殖</p> <hr/> <p>微生物とは一体どのような生き物かを知る。</p>
<p>第4回（前期） 5月10日</p> <p>P.45~73</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>1. 色々な微生物 ① リケッチア ② クラミジア ③ 真菌 ④ 原虫</p> <p>2. ウイルス ① ウイルスの構造 ② ウイルスの増殖</p> <hr/> <p>身近ではない微生物種とウイルスについて知る。</p>
<p>第5回（前期） 5月17日</p> <p>P.7~10</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>1. 感染と微生物 ①感染 ②発症</p> <p>2. 感染の種類 内因感染、日和見感染、院内感染 直接感染、間接感染、 局所感染、全身感染</p> <hr/> <p>ヒトが微生物に感染し、感染症状が出るまでの経路について知る。</p>
<p>第6回（前期） 5月24日</p> <p>P.74~99</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>1. 宿主免疫 ① 免疫とは ② 獲得免疫 ③ 抗原 ④ 抗体 ⑤ 抗原抗体反応</p> <hr/> <p>微生物の感染にヒトが抵抗できるのは、免疫のおかげであることを知る。</p>

<p>第7回（前期） 5月31日 P.74~81</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>2. 宿主免疫</p> <p>① 獲得免疫 ② 自然免疫</p> <hr/> <p>ヒトの免疫の種類と仕組みについて知る。</p>
<p>第8回（前期） 6月7日 P.103~105</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>1. アレルギーⅠ</p> <p>① Ⅰ型－アナフィラキシー型 Ⅱ型－細胞障害反応</p> <hr/> <p>アレルギーが起こる体の仕組みを知る。</p>
<p>第9回（前期） 6月14日 P.105~108</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>2. アレルギーⅡ</p> <p>① Ⅲ型－免疫複合型 ② Ⅳ型－遅延型</p> <p>花粉症とアトピー性皮膚炎</p> <hr/> <p>アレルギーが起こる体の仕組みを知る。 花粉症とアトピー性皮膚炎もアレルギー症状であることを知る。</p>
<p>第10回（前期） 6月21日 P.28~32</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>1. 病原生物各論</p> <p>① グラム陽性菌 ブドウ球菌属 連鎖球菌属</p> <hr/> <p>ありふれた細菌種について概要を知る。</p>
<p>第11回（前期） 7月5日 P.36~45</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>2. 病原生物各論</p> <p>② グラム陰性菌 グラム陽性桿菌 スピロヘータ マイコプラズマ</p> <p>3. その他の病原性菌</p> <hr/> <p>ありふれた細菌種について概要を知る。 重篤な感染症を引き起こす細菌種について知る。</p>

<p>第12回（前期） 7月12日 P.144~153</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>1. 化学療法 ① 抗生物質 ② 薬剤耐性 ③ 院内感染と薬剤耐性菌</p> <p>感染した微生物を倒すための薬について知る。 抗生物質が効かない細菌種が居ることを知る。 院内感染とは何かを知る。</p>
<p>第13回（前期） 9月6日 P.147~150 P.157~166</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>2. 化学療法 ① 感染症に効く抗生物質</p> <p>3. 滅菌と消毒</p> <p>微生物を殺すための方法を知る。</p>
<p>第14回（前期） 9月13日</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>講義の総復習と定期試験対策</p> <p>歯科衛生士として知っておくべき重点ポイントを再学習し、定期試験対策とする。</p>
<p>定期試験</p>	
<p>第15回 総復習</p>	

# 衛生行政社会福祉

担当 岡崎 邦夫

主題と目標	立法、司法とならんで行政は、国の三権の一として「法の支配」の下に						
	おける権力的行政から非権力的行政まで広く展開している。						
	中でも衛生行政は、日本国憲法（以下「憲法」という）第25条が明らかに						
	する国民の生存についての権利と国の義務を実現する手段として、国民の生						
	活に直接関わる。						
	ここでは「法」とは何かを考え、衛生行政の機能・仕組みと、歯科衛生士						
	に関わる医療についての施設法および身分法を理解すると共に、医療供給体						
	制ならびに国民の傷病・死亡の現状を知り、国民生活の保障とりわけ医療費の保障制度を学ぶ。						
教科書	最新歯科衛生士教本「歯科衛生士と法律・制度」「保健生態学」（医歯薬出版）						
参考図書	国民衛生の動向（2014年版） 編集 厚生統計協会（以下「動向」という）						
成績評価の方法	定期試験						
備考	必要と考えられる資料は、その都度配付する。						
授 業 計 画 （4月～9月）							
第1回 4月11日 第2回 4月18日 憲法と衛生行政 歯科衛生士法 I 【チェックポイント】	<table border="0"> <tr> <td>1. 憲法・法律</td> <td>4. 歯科衛生士の法の成り立ち</td> </tr> <tr> <td>2. 衛生法規の種類</td> <td>5. 歯科衛生士法の目的</td> </tr> <tr> <td>3. 衛生行政の沿革</td> <td>6. 歯科衛生士法の定義と業務</td> </tr> </table> <p>◇憲法は国の最高法規 ◇憲法と歯科衛生士法 P5, COFFEE BREAK ◇歯科衛生士法の目的・定義・業務</p>	1. 憲法・法律	4. 歯科衛生士の法の成り立ち	2. 衛生法規の種類	5. 歯科衛生士法の目的	3. 衛生行政の沿革	6. 歯科衛生士法の定義と業務
1. 憲法・法律	4. 歯科衛生士の法の成り立ち						
2. 衛生法規の種類	5. 歯科衛生士法の目的						
3. 衛生行政の沿革	6. 歯科衛生士法の定義と業務						
第3回 4月25日 第4回 5月9日 歯科衛生士法 II III 【チェックポイント】	<p>1. 歯科衛生士 三つの業務</p> <p>◇歯科衛生士法 第2条1「歯科予防処置」P7 ◇「歯科予防処業務の独占」とは ◇歯科衛生士法 第2条2「歯科診療の補助」 ◇歯科衛生士法 第2条3「歯科保健指導」 ◇歯科保健指導と名称独占</p>						

衛生行政  
社会福祉

<p>第5回 5月16日          歯科衛生士法 IV          【チェックポイント】</p>	<p>1. 免許・名簿の登録と届出</p> <p>◇ 歯科衛生士法第3条（免許）          ◇ 第5条（登録）「歯科衛生士法施行規則第2条」          ◇ 第6条（届出）</p>
<p>第6回 5月23日          歯科医師法          歯科技工士法          医療法          【チェックポイント】</p>	<p>1. 歯科医師法と技工士法の成り立ち</p> <p>◇ 歯科医師法の沿革          ◇ 医療法とは          ◇ 病院と診療所</p>
<p>第7回 5月30日          その他の関係法規          薬事法          地域保健法          【チェックポイント】</p>	<p>1. 医薬品とは          2. 保健所と市町村保健センター</p> <p>◇ 「医薬品」「医薬部外品」「化粧品」「医療機器」          ◇ 保健所と市町村保健センターの業務</p>
<p>第8回 6月6日          健康増進法          母子保健法          【チェックポイント】</p>	<p>1 「健康日本21」と「健康増進法」          2. 健康増進事業と歯周疾患健診</p> <p>◇ 受動喫煙の防止          ◇ 国民健康・栄養調査、特別用途食品          ◇ 母子保健法における「用語」の定義</p>
<p>第9回 6月13日          第10回 6月20日          人工動態・静態統計          生命表          【チェックポイント】</p>	<p>1. 人口の動向                      4. 生命表          2. 人口動態統計          3. 人工静態統計</p> <p>◇ 世界の人口と我が国の人口          ◇ 人工ピラミッド          ◇ 出生と死亡統計          ◇ 平均余命と平均寿命</p>
<p>第11回 6月27日          第12回 7月4日          社会保障          【チェックポイント】</p>	<p>1. 社会保険 2. 医療保険 3. 年金保険 4. 介護保険</p> <p>◇ 我が国の社会保険の特徴          ◇ 医療保険の種類          ◇ 年金保険の種類          ◇ 介護保険の認定と介護サービス</p>



<p>第13回 9月 5日  第14回 9月12日  社会福祉  医療の動向  【チェックポイント】</p>	<p>1. 福祉六法                    4. 老人福祉法  2. 生活保護法                5. 医療状況の動向  3. 児童福祉法                6. 国民医療費</p>
<p>定期試験</p>	<p>◇ 憲法25条と社会福祉  ◇ 生活保護法における8種類の扶助  ◇ 児童福祉法に関連する行政機関  ◇ 老人福祉法に関連する施設</p>
<p>第15回  総復習</p>	



# 歯科衛生士概論

担当 板東 沙也加

主題と目標	近年、我が国における歯科医学の進歩に伴う歯科医療の高度化、保険制度
	の確立、社会福祉制度の充実、障害児（者）に対する歯科医療問題、急速な
	高齢化社会に対する老人保健など歯科医療に対する社会的要請は、ますます
	拡大されるものと考えられる。
	このような状況において歯科衛生士の担う役割は、ますます重要性を増し
	複雑化する社会状況の中で歯科医療業務はもちろんのこと、精神的に歯科衛生士とはいかにあるべきかを考えていく。
教科書	最新歯科衛生士教本 歯科衛生学総論 遠藤圭子他著 医歯薬出版 その他「歯科予防処置」、「歯科臨床概論」、「歯科診療補助」
参考図書	歯科衛生士教本マニュアル 歯科衛生士概論 河村洋二郎他著 クインテッセンス出版 その他（歯科予防処置、歯科診療補助）
成績評価の方法	試験は、4択・記述式で行う。
授 業 計 画 (4月～5月)	
第1回 4月11日 歯科衛生学とは 【チェックポイント】	歯科衛生と健康の関わり、健康の考え方について 歯科衛生活動の対象・領域  歯科衛生学とは何かを学ぶ。 健康の考え方を学び、現在行われている健康戦略について理解する。 歯科衛生活動の対象者によっての特徴を知り、その対象者への疾病の予防の段階について学ぶ。
第2回 4月18日 歯科衛生士法 【チェックポイント】	歯科衛生士の業務 (歯科予防処置・歯科診療補助・歯科保健指導について)  免許制度では業務独占と名称独占とがありそれぞれの法律で定められている。歯科衛生士が三つの業務を円滑に行うには十分な知識と技能が必要なため、一般的な豊かな知識を身につけておくこと。予防の概念 (Leavell & Clark) をもとに、その定義を理解する。
第3回 4月25日 歯科衛生活動のための理論	健康と生活を分析するモデル 保健行動の理論 歯科衛生過程

<p>【チェックポイント】</p>	<p>WHOによる健康の定義を理解し、ICF（国際機能分類）やEBMについて学ぶ。健康信念モデル（プリシード・プロシードモデル）理解し、その対応法を学ぶ。ヒューマンニーズを理解し、歯科衛生過程のプロセスを学ぶ。</p>
<p>第4回 5月9日 歯科衛生士の義務</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>様々な義務について、また歯科衛生士に期待されるもの</p> <p>歯科衛生士法に基づいて規定されている義務について理解する。現在の歯科衛生士に期待されるもの（求められること）は多くなっており、知識・技術だけでなく、人としての人間性・医療人としての心構えを学ぶ。</p>
<p>第5回 5月16日 歯科衛生士の役割</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>歯科衛生士としての役割 仕事での心構え 関係法規・安全管理</p> <p>歯科衛生士の仕事の間、仕事での心構え、職業人としての心構え、人との対応、観察と記録、清掃と保全、安全保持 歯科衛生士の仕事場は臨床（歯科診療所、病院）と公衆衛生現場であることを学ぶ。毎日、患者さんと接するので①身だしなみ②態度、言葉遣いに気を付けることが大切である</p>
<p>第6回 5月23日 歯科衛生士と医療倫理</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>倫理の必要性・医の倫理と患者の権利 インフォームドコンセント・セカンドオピニオン</p> <p>倫理とは何か、なぜ必要なのか、医の倫理について理解する。患者の権利について学ぶ。患者の権利を十分に擁護するために必要とされているもの、インフォームドコンセント、セカンドオピニオンなど、説明できるようにする</p>
<p>第7回 5月30日 歯科衛生活動の現状</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>歯科衛生士の動向（歯科衛生士数の推移・就職先） 歯科衛生活動の間</p> <p>歯科衛生業務を行う専門職として、保健・医療・福祉（介護）・企業・教育機関など、多様なニーズに対応するため、活躍の間も広がっている。専門性の高い業務を実践する領域が徐々に広がっていることを理解し、診療所以外にも活躍の間があることを学ぶ。</p>
<p>第8回 定期試験</p>	

# 歯科医療倫理学

担当 井上 昌一 (実務経験者授業)

主題と目標	歯科医療の現場では継続的口腔管理を求める患者や高齢の患者が増えてきたことから、歯科衛生士は口腔の保健を担う者として、これまでもまして広い知識と高い技術が求められるようになった。歯科診療所では、患者との信頼関係に基づく医療サービスを提供できるように、インフォームド・コンセントや生活の質(QOL)について理解し、それを説明・実践できることが歯科衛生士に求められている。
	これまで歯科医療の現場では、あまり省みられることのなかった、生と死の問題についても医療従事者に共通した倫理上の課題として認識することが必要になり医療倫理とともに生命倫理について理解を深めることを目標とする。
教科書	
参考図書	最新歯科衛生士教本 歯科医療倫理 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
成績評価の方法	評価は、定期試験・受講態度・出席状況などを総合的に判断する
備考	

## 授業計画 (6月～9月)

第1回 6月 9日 【序章】 いまなぜ歯科衛生士は医療倫理を学ぶのか	I 伝統的な医の倫理から新しい医の倫理(医療倫理)へ ・ 伝統的な医の倫理としての「ヒポクラテスの誓い」と「ジュネーブ宣言」 ・ なぜ新しい医の倫理が求められるようになったか ・ 医療倫理 II 医療従事者の基本的義務 III 医師中心の医療から患者中心の医療へ ・ 医師のパターナリズム ・ 医師のパターナリズムの問題点 ・ 患者の自己決定権の尊重 ・ 患者中心の医療 IV 歯科医療に関連する権利と義務、及び歯科衛生士の社会的使命
【フィッポイント】	いま歯科衛生士が医療倫理を学ぶ理由を知る ① ヒポクラテスの誓い ② 新しい医の倫理 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療のチーム化</li> <li>・ 患者の自己決定権の尊重</li> <li>・ 医療の社会化</li> <li>・ 先端医療の社会的影響</li> <li>・ 人命の尊重(ターミナルケア)</li> </ul> <p>医療従事者の基本的義務とは患者さんの生命と健康を守ることである。</p> <p>歯科衛生士としての社会的使命を自覚する。</p>

歯科医療倫理学

<p>第2回 6月16日 〔1章〕 医療従事者としての 歯科衛生士の心構え</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>I 歯科医療現場における医療従事者としての立場と視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯科衛生士の法的な位置づけ</li> <li>・ 歯科衛生士としての倫理観</li> <li>・ 口腔保健の専門家</li> <li>・ 患者さんとのかかわり</li> <li>・ 歯科衛生士としての役割</li> <li>・ 口腔症状と全身状態</li> <li>・ 生涯学習の必要</li> </ul> <p>II 歯科医療現場における人間関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な考え方</li> <li>・ 臨床実習の場合</li> <li>・ 臨地実習の場合</li> </ul> <p>III 他の医療職種との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯科衛生士がかかわる医療職種</li> <li>・ 歯科保健指導と口腔のケア</li> </ul> <hr/> <p>歯科衛生士の業務は歯科衛生士法で規定されていることを覚えておく。 医療従事者として、守秘義務・プライバシーの尊重は倫理観である。 歯科衛生士は、健康（口腔保健）教育の専門家を目指す職種である。 患者さんとのかかわり（柔軟な対応・インフォームドコンセント・患者さん中心の医療） 患者の権利や生命倫理が必要になってきている （心のバリア、対人関係の理解、チーム医療のスタッフ）</p>
<p>第3回 6月23日 〔2章〕 インフォームド・コンセント</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>I インフォームド・コンセントとはなにか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 正当な診療行為の三要件</li> <li>・ 同意が有効であるための条件</li> <li>・ インフォームド・コンセントの定義</li> </ul> <p>II インフォームド・コンセントの実際</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医師（歯科医師）は、なにをどこまで説明するべきか</li> <li>・ インフォームド・コンセントは、誰が誰からどのように得るのか</li> <li>・ 同意が無効になるのは、どのような場合か</li> <li>・ インフォームド・コンセントが不要であるのは、どのような場合か</li> <li>・ 説明の省略が認められるのは、どのような場合か</li> <li>・ 患者さんが医師の認める治療法を拒否した場合には、どのように対応するか</li> <li>・ インフォームド・コンセントと医師の裁量とは、どのような関係にあるか</li> <li>・ インフォームド・チョイス</li> <li>・ セカンド・オピニオン</li> </ul> <p>III インフォームド・コンセントの倫理的意義</p> <hr/> <p>インフォームド・コンセントという言葉は、わが国でもよく知られるようになってきた。「情報を与えられたうえでの同意」とか「知ったうえでの同意」という意味であるが、そもそもインフォームド・コンセントとはなにかを考える。</p> <p>同意が有効であるための条件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同意能力</li> <li>・ 情報</li> <li>・ 理解</li> <li>・ 自発性</li> <li>・ 有効な同意のまとめ</li> </ul> <p>医師（歯科医師）は、なにをどこまで説明するべきか</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本項目</li> <li>・ 範囲</li> <li>・ 注意すべき点</li> </ul> <p>インフォームド・コンセントは、誰が誰からどのように得るのか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同意能力のある患者さんの場合</li> <li>・ 同意能力の確認</li> <li>・ 同意能力のない患者さんの場合</li> </ul> <p>説明が不要であるのは、どのような場合か</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 法律で定められている場合</li> <li>・ 「ためらえば危険」という場合</li> <li>・ 患者さんが「お任せします」といつてる場合</li> </ul> <p>説明の省略が認められるのは、どのような場合か</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 説明の内容が誰にとっても常識的な場合</li> <li>・ 患者さんが治療の内容についてすでに十分な知識をもっている場合</li> <li>・ 危険性が軽微であるか、または発生する確率がきわめて小さい場合</li> <li>・ 患者さんが「説明はいらない」といつている場合</li> <li>・ 説明が患者さんの心身に有害と判断される場合</li> </ul> <p>インフォームド・コンセントの倫理的意義</p> <p>もともと1950年代以降のアメリカにおける医療訴訟のなかから生まれた法的概念である。今日では、その倫理的意義が強調されている。</p> <p>インフォームド・コンセント場合によっては、インフォームド・チョイスは医師と患者さんの信頼関係を強化し、患者さん中心の医療を進めるうえで必要なものである。</p>
<p>〔3章〕</p> <p>QOL (Quality of life:生活の質)</p>	<p>I QOLを身近にとらえる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療従事者の考えるQOL</li> <li>・ QOLの向上をめざした医療</li> <li>・ QOLとADLとのかかわり</li> </ul> <p>II 患者のQOLに対する歯科医療のかかわり方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯科医療現場でのQOLのとらえかた</li> <li>・ 口腔機能とQOL</li> </ul> <p>III 歯科患者のQOL向上のために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯科医師のできるこゝと</li> <li>・ 歯科衛生士のできるこゝと</li> </ul>
<p>【チェックポイント】</p>	<p>QOLを身近にとらえると日本語に直訳すると「生命・生存の質」ということになるが、一般的には「生活の質」と訳すことができる。</p> <p>医療におけるQOLは、末期癌患者が残された日々をどのように生活していくかということにその基本がある。</p> <p>ターミナルケア（終末期医療）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 延命治療による生命の長さという量（quantity）</li> <li>・ 癌性疼痛などの苦痛の軽減</li> <li>・ 充実した日々をどのように過ごすことができるかという生命の質（quality）</li> </ul> <p>QOLとADLのかかわり</p> <p>ADL（abilities of daily living）は日常生活動作のこと。患者さんの機能が医療によってどのくらい改善したかという評価である。</p> <p>ADLの改善をすると結果として生活の質が向上したことになる。</p> <p>歯科医療現場でのQOLのとらえかた</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 患者さんの気持ちを的確につかむ</li> <li>・ 患者さんの口腔の健康維持</li> </ul> <p>口腔機能とQOL</p> <p>在宅高齢者の「口腔ケア」は、食事介助や排泄介助と同様に、生活に欠かせないものである。「口腔ケア」の目的は、次のとおりである。</p>

	<p>① 口腔内細菌の増殖を抑制し、齲蝕や歯周病を予防する。同時に口腔内細菌が原因の肺炎などからの感染予防をする。</p> <p>② 義歯を清掃し、口腔内を清潔に保つ。</p> <p>③ 歯肉や粘膜を刺激することで血行を促進する。さらに唾液腺をマッサージすることで唾液の分泌を促して口腔内の自浄作用を高め、口腔の乾燥を防ぐ。</p> <p>④ 嚥下障害のある患者さんに機能訓練をすることで、食欲を増進させる。</p> <p>⑤ 口腔内が清潔になり、口臭がなくなり、患者さんが爽快感を得られる。</p> <p>このように、寝たきりの人でも口腔内環境をよい状態に維持することで、患者さんのQOLが向上することになる。</p> <p>歯科患者のQOL向上のために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯科医師のできること</li> <li>① 歯痛とQOL</li> <li>② 自信の回復</li> <li>③ 入院中のQOL</li> <li>④ 患者の気持ちを理解する</li> <li>⑤ 不安を訴える患者</li> <li>⑥ 隠された主訴の改善</li> <li>⑦ 患者さんの独特な表情</li> <li>・ 歯科衛生士のできること</li> <li>① 患者さんの生きがいの支援</li> <li>② 口腔管理の意義</li> <li>③ 床義歯使用の指導</li> <li>④ 医療従事者に対する不満</li> </ul>
<p>第4回 7月 7日 〔4章〕 行動化学とは</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>I 医療現場における人の行動特性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康（健全）と病気の基本概念の理解</li> <li>・ コンプライアンス行動—医療従事者の指示を患者さんが正しく守ること</li> <li>・ お任せ医療</li> <li>・ 保健行動における動機と負担</li> <li>・ 感覚による症状の表現</li> </ul> <p>II 患者の行動特性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己抑制型行動特性（イイコ行動特性）</li> <li>・ 保健指導の考え方</li> <li>・ セカンドオピニオン</li> <li>・ 自己決定の支援</li> <li>・ 症状と心理的要因</li> </ul> <p>III 医療従事者の行動特性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯科医療の特徴</li> <li>・ 必要な情報の整理整頓</li> <li>・ 患者さんへのかかわりやすい説明</li> <li>・ 患者さんとともに考える</li> </ul> <p>医療現場における人の行動特性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活行動（さまざまな社会環境の中で生活している）</li> <li>・ 保健行動（健康の保持や増進に役立っているもの）</li> <li>・ セルフ（ホーム）ケア（患者さんができること）</li> <li>・ プロフェッショナルケア、キュア（医療従事者ができること）</li> </ul> <p>健康（健全）と病気の基本概念の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病人というのは単に身体的内部の客観的な事件ではなく、個々の患者の身体的・社会的・精神的な統合体が病気によって支配されている状態をいう。それを逆転させて病気を支配するためには、自らの状態を認知する必要が前提となる。</li> </ul> <p>コンプライアンス行動—医療従事者の指示を患者さんが正しく守ること ノンコンプライアンス行動—医療従事者の指示を患者さんが守らないこと 自己抑制型行動特性（イイコ行動特性） 感覚による症状の表現</p>



特に歯科医療では、患者さんの症状を専門用語で表現しがちである。  
 (たとえば、歯肉の発赤、腫脹、出血、排膿、咀嚼障害、食片圧入、審美障害、  
 歯の動揺など)

↓

専門教育を受けているため

医療従事者間のコミュニケーション  
 口腔内に過去の治療結果が存在  
 時間予約制

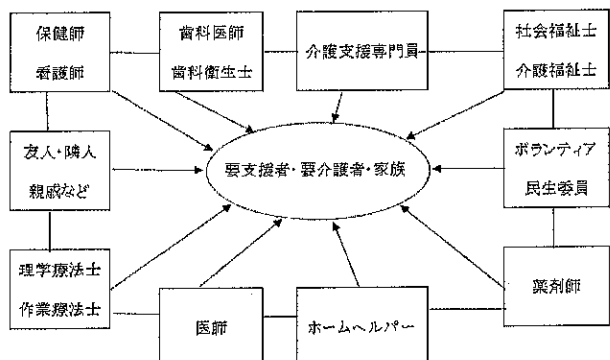
第5回  
 9月 1日  
 [5章]  
 チームアプローチとは

- I チームアプローチの意義と必要性
  - II 歯科医療現場におけるチームアプローチのありかた
  - III 他職種とのチームアプローチ
  - IV チームアプローチの成功ポイント
- ・ 柔軟な心をもつ
  - ・ コミュニケーション技術を活用する
  - ・ 自分自身を理解する
  - ・ 患者さんの快適で健康な生活のために

チームアプローチの意義

1. 医療の対象者がもつ問題の解決に最も適した専門職が対応することで、問題点が効率的に効果的に解決される。
2. チームを編集することで、個々の専門職は、専門外の業務まで引き受けることなく、みずからの専門分野の業務に集中することができる。
3. 個人でアプローチするよりは、医療の対象者に関する情報量が大幅に増加する。さらにその情報に基づいて、チームメンバーが討論することで、はじめは誰も気づかなかった問題解決のための知見や対応法が生み出される。

他職種とのチームアプローチ



- チームアプローチの成功のポイント
- ・ 柔軟な心をもつ
  - ・ コミュニケーション技術を活用する
  - ・ 自分自身を理解する
  - ・ 患者さんの快適で健康な生活のために

[6章]  
 医療現場における  
 コミュニケーション  
 患者理解のために

- I 患者理解のためのコミュニケーションとは
  - II 自分への気づき：自己理解の重要性
  - III 患者理解のためのコミュニケーションの技術—まず聴くこと
  - IV 個別化と守秘義務
- ・ 言語的コミュニケーション—効果的に行うための要点
  - ・ 非言語的コミュニケーション

[チェックポイント]

1. 患者さんをよりよく理解するためのコミュニケーション技術を理解する。
2. 歯科衛生士の医療現場における使命を理解し、自覚する。

<p>第6回 9月8日 〔7章〕演習： このようなとき 歯科衛生士として どう対処するか</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>I 歯科保健指導の場面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一方的な話し方</li> <li>・ 話を聞いてくれない患者</li> <li>・ その他の特殊なケース</li> </ul> <p>II 歯科診療の場面</p> <p>III 受付の場面</p> <p>IV 職場での人間関係</p> <p>V 訪問歯科保健指導の場面</p> <p>VI 話を聴く態度を学ぶ実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 方法</li> <li>・ グループ学習</li> </ul> <p>VII グループ学習の台本</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 例題1 一方的な歯磨き指導</li> <li>・ 例題2 患者さんのニーズを知る対応法</li> </ul> <hr/> <p>1. ロールプレイング（役割演技実習）による体験学習 ：数人のグループ学習で事例を参考に場面想定して台本を作り、患者役と歯科衛生士役を演じてみる。役を演じて感じたことを見学者も含め全員で討論する。それにより患者と医療従事者が、お互いの対応の違いによって、どのような気持ちになるか模擬体験をし、実際の臨床場面での問題解決能力を育てる。</p> <p>2. 居宅療養管理指導の具体的な事例について、よりよい対処方法を考察し、演習することができる。</p>
<p>第7回 9月15日 〔付章〕 バイオエシックス （生命倫理）について</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>I バイオエシックス（生命倫理）とはなにか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ バイオエシックス誕生の背景</li> </ul> <p>II バイオエシックス（生命倫理）で論じられる問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人間の生命一始まりと終わりに関する問題</li> <li>・ 生命の質にかかわる問題</li> <li>・ 技術的に可能な医療行為と倫理的ないし法的に認められる</li> <li>・ 医療行為に関する問題</li> <li>・ 人体とその一部、あるいは遺伝情報は誰のものか</li> <li>・ 医療資源の分配にかかわる問題</li> <li>・ 医療の本質にかかわる問題</li> </ul> <p>III バイオエシックス（生命倫理）の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療倫理とバイオエシックス</li> <li>・ バイオエシックスの基本的倫理</li> </ul> <hr/> <p>バイオエシックス（生命倫理）とはなにか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ バイオ（bio生命、生活、生存）とエシックス（ethics倫理）とを組み合わせられてつくりだされたもの</li> <li>・ バイオテクノロジー（生物技術、生命工学）生命の質にかかわる問題</li> </ul> <p>1) 生命維持治療のもたらした問題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 意味のない生命</li> <li>② 尊厳死、自然死</li> <li>③ 消極的安楽死</li> <li>④ 医師による自殺補助と積極的安楽死</li> </ol> <p>2) 胎児診断技術がもたらした問題</p>
<p>定期試験</p>	
<p>第8回 総復習</p>	

# 歯科臨床概論

担当 井上昌一 (実務経験者授業)

主題と目標	<p>病苦に悩む人に対して実地に診察し治療を施すことを診療といい、その局面を臨床という。すなわち、患者の心身の状態を調べ、その病状・病態を把握し、病因を特定（「診察」）し、得られた所見に基づいて、病状を軽減し解消させて健康の回復を計る努力（「治療」）が為される。現代の歯科医療を担う一要員として、歯科衛生士は、歯科臨床の全体的な流れを把握し、個々の診療に関わる事柄について十分に理解していなければならない。</p> <p>本教科目では、歯科診療の全体像を把握し、そこに含まれる細目を理解した上で、個々の患者の訴えに直接的に対応する臨床の場における歯科衛生士の役割について学ぶ。</p>
教科書	「歯科衛生士のための歯科臨床概論」松井恭平他編 医歯薬出版
参考図書	「新歯科衛生士教本 歯科臨床概論」全国歯科衛生士教育協議会（編）医歯薬出版（以下、常用の参考図書とする） その他、『医療倫理』や「衛生行政制度」など
成績評価の方法	定期試験、レポート提出のほか、出席状況などにて判定
備考	
授 業 計 画 (4月～6月)	
<p>第1回 4月14日 歯科医療とは - 医学と医療</p> <p>【ポイント】</p> <p>歯科診療所とは - 病院と診療所</p> <p>【ポイント】</p>	<p>pp. 2～12 (参: pp. 1～12)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○診療（診察と治療）</li> <li>○歯科診療の要員</li> <li>○歯科臨床の場・施設</li> </ul> <p>・医療とはどのような具体的な行為であるか調べておくこと。 ・歯科診療の一翼を担う歯科衛生士の法令上の立場を理解する。</p> <p>pp. 14～18 (参: pp. 31～36)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○歯科診療所のスタッフ</li> <li>○歯科診療所における業務</li> <li>○歯科診療所内の諸施設の整備</li> <li>○医用機器・器材・資材の管理</li> <li>○歯科診療所における歯科診療と安全管理</li> <li>○歯科診療所の1日</li> </ul> <p>・歯科診療所とはどのような規模の診療形態のものをいうか。 ・一般的な歯科医療の場である歯科診療所の内部構成を理解する。 ・出勤から退勤までの諸々の業務の基本的な流れはどのようなか。 ・日々の諸業務における歯科衛生士の立位地を十分に理解する。 ・歯科診療の一翼を担う歯科衛生士の法令上の立場を理解する。</p>
<p>第2回 4月21日 ライフステージと 歯科診療</p> <p>【ポイント】</p>	<p>pp. 4, 5 (参: pp. 13～23)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○歯科診療の対象者</li> </ul> <p>・患者は年齢・性別、気質、日常生活行動などで様々である。 ・これらの属性を常に念頭において個々の患者への対応を心掛ける。 ・受付対応事務について、在宅訪問医療の対象患者について知る。</p>

<p>歯科診療で行う こと - 1 - 健康診査・ 保健指導・予診</p>	<p>pp. 22~31 (参: pp. 39~56) ○診査・検査 (画像検査) ○診断・治療方針 ○前処置 ○バイタルサインの確認 ○痛みのコントロール</p>
<p>第3回 4月28日 歯科診療で行う こと - 2 - 小児歯科 - 成長発達期にあ る児童に対する診療</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>pp. 32~39 (参: pp. 80~86) ○小児齲蝕と歯肉炎 ○先天異常への対処 ○齲蝕予防処置 (小窩裂溝填塞・フッ化物歯面塗布) ○歯科保健指導 (口腔清掃指・導食生活指導)</p> <p>・小児歯科診療は他と比較して特異的な面があるので理解すること。 ・小児の特徴を知り、対応に十分な配慮を要すること。 ・咬合誘導などについても知っておくこと。</p>
<p>第4回 5月12日 歯科診療で行う こと - 3 - 歯科矯正 - 歯列と咬合の不 正に対する治療</p> <p>【チェックポイント】</p> <p>- 口腔外科 - 口腔疾患に対す る外科的対処</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>pp. 40~43 (参: pp. 86~92) ○不正咬合の種類 ○歯科矯正治療の概要</p> <p>・それぞれの不正咬合の病因・病態について大略知っておくこと。 ・種々の不正咬合の矯正治療の開始までの作業手順を理解する。 ・矯正治療は術前観察→動的治療→保定の順を踏んで進められる。 ・種々の矯正装置について、それらを装着中の口腔清掃上の注意点を 知っておくこと。</p> <p>pp. 44~53 (参: pp. 93~102) ○外傷の治療 ○抜歯 (普通抜歯、智歯の抜歯) ○口腔粘膜疾患の処置</p> <p>・口腔外科では、どのようなことをなされるのか (p. 93) を知り、それ らに係わる歯科衛生士の役割について理解する。 ・口腔に発生する疾患は様々な全身疾患と屢々関わりを持っているこ とに留意する。</p>
<p>第5回 5月19日 歯科診療で行う こと - 4 - 歯科保存治療 - 現在歯を保って いくための対処</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>pp. 54~63 (参: pp. 51~62) ○保存修復 (歯冠部齲蝕、根面齲蝕) ○歯内療法 (根管治療) ○象牙質知覚過敏症 ○ルートプレイング</p> <p>・歯科保存治療は3分野に分かれるが、それら相互の関係を知る。 ・保存修復は歯髄に病変が及んでいない齲窩を充填するものである (要に応じて裏層の後に)。 ・歯内療法には ①歯髄の保存 ②覆髄・断髄 ③感染根管治療 ④外科 的処置がある。 ・歯肉や歯髄に病変を伴う場合の治療処置の流れを知っておくこと。 ・齲蝕の進行状態に応じた治療に係わる歯科衛生士の業務内容を理 解する。</p>

<p>第6回 5月26日 歯科診療で行う こと - 5 - 歯科補綴 - 欠如歯を人工 物によって補う処置</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>pp. 72~81 (参: pp. 72~79) ○補綴物の製作と装着</p> <p>・補綴物には 冠・橋義歯・床義歯・継続歯・移植歯などがある。 ・補綴物装着者の口腔衛生管理の状況を専門的な目で見守り続ける。</p>
<p>第7回 6月 2日 歯科診療で行う こと - 6 - 障害者歯科・ 高齢者歯科 - 障害者と高齢者 への対処</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>pp. 82~94 (参: pp. 19~23, pp. 47~49) ○摂食障害への対応 ○全身疾患のある患者への対応 ○周術期の対応 ○介護者への指導 ○診療車巡回診療・施設訪問診療・在宅訪問診療</p> <p>・対象者の日常生活行動の自助力とその欠を補う介助者の存否などに十分な目配りをしながら、口腔保健指導を含む口腔保健管理と必要な歯科診療を進めていくことが大切である。</p>
<p>第8回 総復習</p>	
<p>定期試験</p>	



# 歯周病予防法 I

担当 明山 涼華

主題と目標	歯科衛生士は、歯科医師の指示を的確に把握し判断できる能力と、対面行為が行える手技を身につけていなければならない。これは歯科衛生士が、歯科予防処置として予防的歯石除去法を臨床の場で、即実践力として行えることを目標とする。また歯石除去のテクニックの体得のみならず、口腔観察を行うときのポイントを把握するという視点から、歯・歯肉などの知識および処置の内容・器材・消毒法など実習で技術を習熟する。	
教科書	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版	医歯薬出版
参考図書	最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版 申基詔他著	医歯薬出版
	歯科衛生士のための歯科臨床概論 松井恭平他著	医歯薬出版
	スケーリング 歯石の探知と除去 石川達也監訳 中山吉成著 シャープニング スマートに鋭く 伊藤輝夫監訳 国崎 拓訳	医歯薬出版 クインテッセンス出版
成績評価の方法	評価は、単元テスト、小テスト、実技試験、提出物、出欠状況、+αで総合的に判定する。	
備考	試験は、選択式・記述式・○×式・線結び及び実技形式で行う。	
授業計画 (4～9月)		
第1回 歯科予防処置の概念1	歯科予防処置の法的位置づけ 歯科衛生士の行う歯科予防処置	
第2回 歯科予防処置の概念2	健康および疾病予防の概念 第一次予防、第二次予防、第三次予防 歯・口腔の予防法 【チェックポイント】 p11-13(口腔衛生学の教科書を参考にする。)	
第3回 口腔の基礎知識1	歯牙・口腔周囲の各部名称 p16-18 【チェックポイント】 専門用語を早く覚えるポイントは、言葉の意味を考えて自分の口の中と照らし合わせて覚えること。 例: 口唇(こうしん)→くちびる	
第4回 口腔の基礎知識2	正常な口腔 歯と歯周組織 【チェックポイント】 p18-21 歯周組織について図示できるよう練習する。	
第5回 口腔の基礎知識3	歯式 歯冠と歯根	
単元テスト		
第6回 齶蝕と歯周疾患の基礎知識1	口腔の機能 口腔の付着物・沈着物 プラーク・歯石の形成過程、成分、分類 【チェックポイント】 歯石の成分、分類、付着する過程や場所など技術を学ぶ前に除去するものについて理解を深めることが大切である。 p22-32	
第7回 齶蝕と歯周疾患の基礎知識2	う蝕の分類・原因 歯周疾患の進行プロセス 歯周疾患の予防法	
第8回 鎌型スケーリング1	スケーラーの種類 鎌型スケーラーの特徴 【チェックポイント】 手用スケーラーの種類はその刃部の形により名称がつけられているため、スケーラーをよく観察すると共に用途も理解する。 p186-191	
第9回 鎌型スケーリング2	鎌型スケーリングの操作法、原則、基本姿勢 【チェックポイント】 ・歯石除去の手順 ・スケーラーの種類 ・スケーラーの把持、固定、操作方法 ・ミラーの役割	
単元テスト		

第10回 マニキン実習	ポジション p196-201患者、術者のポジションについて理解しておく
第11回 マニキン実習	ミラーテクニック p220-222 ミラーの役割3つについて理解しておく。
第12回 キュレットスケーリング1 【チェックポイント】	キュレットスケーラーの種類 キュレットスケーラーの特徴 グレーシータイプ、ユニバーサルタイプの違いについて理解する。
第13回 キュレットスケーリング2	キュレット操作の原則、注意点 p192-195
第14回 ルートプレーニング 【チェックポイント】	ルートプレーニングの方法 ルートプレーニングを行うことにより歯面に起こる変化を知る。
単元テスト	



歯周病予防法実習 I	
	担当 明山 涼華
主題と目標	<p>歯科衛生士は、歯科医師の指示を的確に把握し判断できる能力と、対面行為が行える手技を身につけていなければならない。これは歯科衛生士が、歯科予防処置として予防的歯石除去法を臨床の場で、即実践力として行えることを目標とする。また歯石除去のテクニックの体得のみならず、口腔観察を行うときのポイントを把握するという視点から、歯・歯肉などの知識および処置の内容・器材・消毒法など実習で技術を習熟する。</p>
教科書	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 医歯薬出版
参考図書	<p>最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版 申基喆他著 医歯薬出版</p> <p>歯科衛生士のための歯科臨床概論 松井恭平他著 医歯薬出版</p> <p>スクレーリング 歯石の探知と除去 石川達也監訳 中山吉成著 医歯薬出版</p> <p>シャープニング スマートに鋭く 伊藤輝夫監訳 国崎 拓訳 クインテッセンス出版</p>
成績評価の方法	評価は、単元テスト、小テスト、実技試験、提出物、出欠状況、+αで総合的に判定する。
備考	
授業計画	(4～9月)
第1回 基礎訓練1 【チェックポイント】	<p>インスツルメントの取り扱い</p> <p>スクレーラーの把持方法</p> <p>まだ指の力が弱いので、スクレーラーを動かすためには、しっかりと把持することと固定点をしっかりとおくことが大切である。</p>
第2回 基礎訓練2 【チェックポイント】	<p>前腕回転運動・手指屈伸運動・手根関節運動</p> <p>第4指固定</p> <p>代行把柄についてよく理解し、歯牙との位置関係を体得する。</p> <p>P.188～190参照しておくこと。</p>
第3回 基礎訓練3 【チェックポイント】	<p>鎌型四原則</p> <p>指の訓練</p> <p>練習中スクレーラーが動かしにくければ次のポイントを確認してみる。</p> <p>P.188～190参照しておくこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・顎模型と体の距離は適当であるか。</li> <li>・操作中の把持は、歯軸の延長上になっているか。</li> <li>・四原則は守れているか。</li> </ul>
第4回 基礎訓練4 【チェックポイント】	<p>マニキンの操作方法</p> <p>顎模型上でのスクレーラー操作</p> <p>ミラーの把持や口唇の排除を忘れない。またマニキンであっても軽率な扱いをしないように意識して取り扱うこと。</p> <p>P.186～188参照しておくこと。</p>
第5回 ミラーテクニック 【チェックポイント】	<p>ミラーの操作方法</p> <p>投影 反射 排除</p> <p>各部位のスクレーリングで、ミラーはどの役割で使っているのか考えながら行う。</p>
第6回 鎌型スクレーリング1	<p>13～23歯スクレーリング p197</p> <p>訓練部位 基本姿勢 ミラーテクニック 固定点</p> <p>操作方法のデモンストレーション 把柄の向きと位置</p> <p>鎌型スクレーラーの四原則の確認 部位別操作表の把握</p>

	No,1、No,2のスクレーラーの使用方法
【チェックポイント】	操作時、教科書に頼りすぎないようにすること。 「上顎前歯」を行うとき、右手の掌を上に向けすくいあげるようスクレーラーをあてると操作しやすい。
第7回 鎌型スクレーリング2	24～27歯スクレーリング p201 練習部位の確認 基本姿勢 固定点 鎌型スクレーラーの四原則 口唇排除の方法
【チェックポイント】	「口蓋」を行うとき、直接目で見てしまわないでミラーを通して見る練習をしっかりとしておくこと。 首や腰を曲げずに26番が見える程度に調節できるように練習しておくこと。
第8回 鎌型スクレーリング3	14～17歯スクレーリング p200 練習部位の確認 代行把柄と歯軸の関係 複屈曲のスクレーラー 操作方法のデモンストレーション
【チェックポイント】	操作時、脇があいてしまうことがあるので注意すること。 脇が開いた状態ではスクレーラーに対する力が分散してしまうためである。
第9回 鎌型スクレーリング4	33～43歯スクレーリング p196 練習部位の確認 基本姿勢 ミラー使用 No,1のスクレーラーの刃先の向き
【チェックポイント】	上顎唇面が床と平行になるようにセッティングする。 舌側面が直視できない場合はミラーを使用する。
第10回 鎌型スクレーリング5	34～37歯スクレーリング p199 ミラーテクニック 代行把柄と歯軸の関係 操作方法のデモンストレーション 第三指固定 部位別操作表の把握 練習部位 No,1のスクレーラーの刃先の向き 基本姿勢の確認
【チェックポイント】	頬側面を行うとき、スクレーラーを把持した手を前方から入れ手の甲が上向きになるように固定するとよい。
第11回 鎌型スクレーリング6	44～47歯スクレーリング p198 操作方法のデモンストレーション 代行把柄と歯軸の関係 部位別操作表を把握
【チェックポイント】	47の遠心はNo,1のスクレーラーで行う。操作がしにくいと感じたら、次のことをチェックする。 ・上顎唇面が床と平行になっているか。 ・頭の傾斜は正しいか。マニキンの高さは高すぎないか。
第12回 鎌型スクレーリング復習1	上顎スクレーリング復習 鎌型スクレーラーの四原則に沿った安定した操作 固定指の徹底(第三指固定・第四指固定) ミラーテクニック、複屈曲スクレーラーの操作 歯牙番号17・27の遠心部の操作 部位別操作表の把握 No,1のスクレーラーの刃先の向きと操作
第13回 鎌型スクレーリング復習2	下顎スクレーリング復習
【チェックポイント】	四原則を守った上で、手首を使用する方法、前腕を使用する方法、どちら

	<p>が操作しやすいか早く自分の方法を見つける。鏡視することに早く慣れ、 固定場所も操作の邪魔にはならずミラーを有効に使用できることを体得する。</p>
第14回	五人ずつ別室で試験を行う。(マニキン使用)
鎌型スケーリング実技試験	対象群は前歯部、臼歯部についてそれぞれ1群ずつ指示を出す。
【チェックポイント】	<p>四原則・使用スケーラー・対象群・ミラーテクニック・刃先の向き・ 固定点・安定感・スケーリングする姿勢も気をつけて試験をうけること。</p>

1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31  
32  
33  
34  
35  
36  
37  
38  
39  
40  
41  
42  
43  
44  
45  
46  
47  
48  
49  
50  
51  
52  
53  
54  
55  
56  
57  
58  
59  
60  
61  
62  
63  
64  
65  
66  
67  
68  
69  
70  
71  
72  
73  
74  
75  
76  
77  
78  
79  
80  
81  
82  
83  
84  
85  
86  
87  
88  
89  
90  
91  
92  
93  
94  
95  
96  
97  
98  
99  
100

前期 2022	歯科診療補助	担当 板東 沙也加
主題と目標	<p>歯科医療の場では、おびただしい数の材料機器が利用されている。これらに関する介助には適正な準備・操作に加え、的確なタイミングが要求される          そこで材料名・機器名に親しみ、使われる状況を知ること、また常に人体の安全を配慮して扱う必要があり、そのための十分な知識と取り扱い方を確実に習得することを目標とする。          また、これらを習得したうえで、診療がスムーズに行えるための介助を目指す。</p>	
教科書	<p>①最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版 合場千佳子他著 医歯薬出版          ②最新歯科衛生士教本 歯科材料 末瀬一彦他著 医歯薬出版          ③最新歯科衛生士教本 歯科機器 末瀬一彦他著 医歯薬出版          ④最新歯科衛生士教本 臨床検査 井上幸他著 医歯薬出版          ⑤最新歯科衛生士教本 保存修復・歯内療法 千田彰他著 医歯薬出版</p>	
成績評価の方法	<p>単元テスト2回(1回30%)60%、レポート(1回5%)20%、授業態度10%+αで評価をする。</p>	
備考	<p>試験は、4択・記述式・○×式・線結びで行う。</p>	
授業計画(4月～3月)		
第1回 接遇① 【チェックポイント】	<p>歯科衛生士としての接遇を理解する</p>	
	<p>接遇とはどのような事か、なぜ必要かを理解する</p>	
第2回 接遇② 【チェックポイント】	<p>医療人としての身だしなみについて学ぶ</p>	
	<p>公私の区別をつける。          白衣の着用方法を学ぶ。          清潔な身嗜みとはどのようなものかを理解する</p>	
第3回 接遇③ 【チェックポイント】	<p>患者対応する際の言葉遣いについて学ぶ</p>	
	<p>丁寧語、尊敬語、謙譲語の区別ができる。          その場に併せた言葉遣いができる。</p>	
第4回 接遇④ 【チェックポイント】	<p>臨機応変どんな場合でも対応できるようになる。</p>	
	<p>通常業務での電話対応がスムーズにできる。          相手に見えないこともあり丁寧な対応が必要。</p>	
第5回 接遇⑤ 【チェックポイント】	<p>来客者への対応がシュミレーションどおりできる。</p>	
	<p>来客者への対応ができる。          名刺の渡しかた、もらい方を体感する。その際の言葉遣いについても学ぶ</p>	
第6回 接遇⑥ 【チェックポイント】	<p>来客時の対応(応接室に通した際の座席)を理解する</p>	
	<p>来客者にどの位置に誘導するかを理解する</p>	
第7回 接遇⑦ 【チェックポイント】	<p>来客時の対応(茶菓の出し方)を理解する</p>	
	<p>茶菓の出し方、持ち方、お茶の入れ方、種類について理解する</p>	

第8回 接遇③ 【チェックポイント】	ビジネス文章の書き方を理解する
	歯科医院での文章の種類を理解する。 行間、段落明けなどの必要性を理解する
単元	
第9回 歯科診療補助の概念 【チェックポイント】 P2～6 P50 ～	歯科診療補助の意義 歯科衛生士法における法的な位置づけ 診療補助と診療介助の違い 受付業務の展開
	歯科衛生士としての業務内容の理解をするため教科書P1～P6まで読んでおく。診療室内での仕事の内容、助手と歯科衛生士の違いを理解しておく
第10回 診療室の管理 【チェックポイント】 P50～56	診療室の環境整備 ユニットの構造 診療室の管理と整理 ガス電気など
	診療室内の構造を理解する 教科書診療P50～P56で読んでおく。診療室の環境整備についても患者の立場、歯科医師の立場に立って管理していけるようにする
第11回 歯科医療における感染対策の概要 【チェックポイント】	手指消毒、グローブ・マスクの着用が実施できる
	医療安全の概念とその対策を理解し、実施
第12回 蘇生法1 【チェックポイント】	救急法の概略と手順 蘇生法と蘇生法のA、B、C、D人工呼吸法と気道内異物除去法の実習
	救急法で救助者が守るべきことをしっかりと頭にいれ、とっさの時にそのことをもとに動けるようにしておく。教科書P12～P17まで読んでおく また、ショック体位について意義を知っておくこと。
第13回 蘇生法2 【チェックポイント】	救急法の概略と手順 蘇生法と蘇生法のA、B、C、D人工呼吸法と気道内異物除去法の実習
	救急法で救助者が守るべきことをしっかりと頭にいれ、とっさの時にそのことをもとに動けるようにしておく。教科書P12～P17まで読んでおく また、ショック体位について意義を知っておくこと。
単元	

前期 歯科診療補助実習Ⅰ		担当 板東 沙也加
主題と目標	<p>歯科医療の場では、おびたしい数の材料機器が利用されている。これらに関する介助には適正な準備・操作に加え、的確なタイミングが要求される</p> <p>そこで材料名・機器名に親しみ、使われる状況を知ること、また常に人体の安全を配慮して扱う必要があり、そのための十分な知識と取り扱い方を確実に習得することを目標とする。</p> <p>また、これらを習得したうえで、診療がスムーズに行えるための介助を目指す。</p>	
教科書	<p>①新歯科衛生士教本 歯科診療補助 合場千佳子他著 医歯薬出版</p> <p>②新歯科衛生士教本 歯科臨床概論 松井恭平他著 医歯薬出版</p> <p>③新歯科衛生士教本 口腔外科・麻酔 山根源之他著 医歯薬出版</p> <p>④新歯科衛生士教本 保存修復・歯内療法 千田彰他著 医歯薬出版</p> <p>⑤新歯科衛生士教本 解剖学・組織発生学・口腔解剖学 前田健康他著 医歯薬出版</p>	
成績評価の方法	単元テスト4回(1回15%)60%、レポート(1回5%)20%、実習態度10%+αで評価をする。	
備考	試験は、記述式・〇×式・線結びで行う。	
授業計画(4月～9月)		
第1回 接遇 シュミレーション① 【チェックポイント】	<p>患者対応の基本例 対象別対応の実際 来客の対応 ロールプレイング</p> <p>患者対応の基本例として初診患者、初診急患、再来患者、処置内容がきまっている再来患者の事例を読んで状況を理解しておくこと。自信をもって、それぞれの場面に対処できるようロールプレイングにチャレンジしてみる。</p>	
第2回 接遇 シュミレーション② 【チェックポイント】	<p>患者以外の来院者の対応 ロールプレイング 対象別対応の実際 来客(患者以外の来院者)</p> <p>対象別対応の実際として、小児への対応、高齢者への対応、心身障害(児)者への対応などには、特別な配慮が必要である。ここでも、事例を読んで状況を理解しておくこと。自信を持ってそれぞれの場面に対処できるようロールプレイングにチャレンジしてみる</p>	
第3回 接遇 シュミレーション③ 【チェックポイント】	<p>電話対応の基本例 苦情電話への対応 ロールプレイング 受付業務のロールプレイング 待合室のロールプレイング</p> <p>上手な電話のかけ方、上手な電話の受け方も相手の見えない状態なので、グループワークで意見を出し合って検討していく</p>	
第4回 受付事務 シュミレーション④ 【チェックポイント】	<p>患者以外の来院者の対応 ロールプレイング 対象別対応の実際 来客(患者以外の来院者)</p> <p>グループワークを行い、意見を出し合いながら、色々なクレームに対応できるようにする</p>	
第5回 コンピューター実習① 【チェックポイント】	<p>コンピューター室での注意事項 コンピューターの基本操作を覚える 立ち上げと終了の方法を理解する</p> <p>コンピューターの各部位を覚える。 コンピューターの禁止事項を理解する。</p>	
第6回 コンピューター実習② 【チェックポイント】	<p>キーボードの練習①</p> <p>ローマ字入力ができる。 キーボードの指の練習。 キーボード操作にて、数字、記号を覚える。</p>	

第7回 コンピューター実習③ 【チェックポイント】	プレゼンテーションソフトの使用方法を学ぶ
	プレゼンテーション用ソフトを使用し、各自の発表用資料の作成
第8回 コンピューター実習④ 【チェックポイント】	写真の挿入、スキャンを利用し、データの貼り付けができる
	プレゼンテーション用資料に写真や、表などを挿入し、わかりやすい物にする
第9回 コンピューター実習⑤ 【チェックポイント】	写真の挿入、スキャンを利用し、データの貼り付けができる
	プレゼンテーション用資料の仕上げをする。色や、壁紙等の創意工夫をする
第10、11、12回 コンピューター実習⑥ ⑦ ⑧ 【チェックポイント】	全体の前で、各自作成したプレゼンテーション用の資料の発表
	各自の発表したものを評価する
第13、14、15回 コンピューター成果発表 【チェックポイント】	全体の前で、各自作成したプレゼンテーション用の資料の発表
	各自の発表したものを評価する
評価	<b>コンピューター発表内容にて評価</b>
第16回 器械器具① 【チェックポイント】	歯科診療における機器について管理方法、整理方法を理解する
	診療室に設置している機器、材料の管理方法、名称を理解しておく。機器P2から40までを読んでおく
第17回 器械器具② 【チェックポイント】	歯科衛生に関わる機器の名称、検査・診断・治療に関わる機材の用途名称を理解する
第18回 器械器具③ 【チェックポイント】	口腔機能検査用機器の使用用途、切削用具の形態・用途、成形修復用用途については臨床の現場で使用する頻度が高いものについて、治療の流れを理解し、準備ができるように理解していく
	診療室内で、頻回に使用するため、形態、用途を理解しておく。機器P70から91までを読んでおく
第19回 器械器具④ 【チェックポイント】	歯内療法用機器、歯周療法用機器について使用用途と、治療の流れを理解し、必要な器具の準備ができるようにする
	歯内療法についての理解と、治療の流れを理解する。機器P92から111までを読んでおくこと
第20回 器械器具⑤ 【チェックポイント】	補綴物作成に関する機器の名称、作成における手順を理解する
	補綴物製作に必要な器具や、手順を理解する機器P112から132・P187から191を読んでおく



第21回 器械器具⑥ 【チェックポイント】	口腔外科に関する機器の名称、使用用途、形態、麻酔についてを理解する
	口腔外科に使用する器具の手順、形態、使用目的を理解するP133から149
第22回 器械器具⑦ 【チェックポイント】	矯正歯科用機器について使用用途、治療の流れを理解する
	矯正装置に必要な器具の種類を説明するP150から166まで読んでおく
第23回 器械器具⑧ 【チェックポイント】	訪問診療を行う際の器材を理解する。 器材を合理的に使用するように治療の流れを理解しておく。
	訪問先での診療に必要な知識と、準備を行い訪問先を汚さないように気遣いができる。 時間短縮できるような器具の受け渡し、合理的な準備ができるようにする。
24回 器械器具⑨ 【チェックポイント】	機械器具の総復習、治療の流れを理解して適切なトレーセッティングをできるようにする。
	歯科医院の中で、診療補助は重要な役割を持ち、治療の流れを左右させるものである。 そのため、器具の準備が大切になる。 器械・器具の教科書をもう一度よく読んで復習する。
第25回 蘇生法① 【チェックポイント】	救急法の概略と手順 蘇生法と蘇生法のA、B、C、D 人工呼吸法と気道内異物除去法の実習
	救急法で救助者が守るべきことをしっかりと頭にいれ、とっさの時にそのことをもとに 動けるようにしておく。 また、ショック体位について意義を知っておくこと。
第26回 蘇生法② 【チェックポイント】	バイタルサイン 脈拍、呼吸、体温、血圧のそれぞれの測定と正常値血圧について 最高血圧と最低血圧を理解したうえで測定実習を行う。
	血圧を測定するときの測定器の取り扱い方の注意を守る。 正しい値を出すために「臨床検査法」 P.26～28を読んでおくこと。 (聴診器の当てる位置や腕の高さなど)
評価	①器具器材の名称②レポート 救急処置



# 歯科材料学

担当 辻 静茄

<p>主題と目標</p>	<p>歯科医療の場では、おびたしい数の材料機器が利用されている。これらに関する介助には適正な準備・操作に加え、的確なタイミングが要求される。そこで材料名・機器名に親しみ、使われる状況を知ること、また常に人体の安全を配慮して扱う必要があり、そのための十分な知識と取り扱い方を確実に習得することを目標とする。また、これらを習得したうえで、診療がスムーズに行えるための介助を目指す。</p>
<p>教科書</p>	<p>①最新歯科衛生士教本 歯科診療補助 第2版 合場千佳子他著 医歯薬出版          ②歯科衛生士のための 歯科臨床概論 第2版 松井恭平他著 医歯薬出版          ③最新歯科衛生士教本 口腔外科・歯科麻酔 山根源之他著 医歯薬出版          ④最新歯科衛生士教本 保存修復・歯内療法 千田彰中村洋他著 医歯薬出版          ⑤最新歯科衛生士教本 歯科材料 末瀬一彦著 医歯薬出版</p>
<p>成績評価の方法</p>	<p>単元テスト、レポート、実習態度+αで評価をする。</p>
<p>備考</p>	<p>試験は、記述式・○×式・()抜きで行う。</p>
<p>授業計画(4月～9月)</p>	
<p>第1回 歯科材料の基本知識 【チェックポイント】</p>	<p>歯科材料の基礎知識について          物質の構造、金属材料、有機材料、無機材料、複合材料          歯科材料の所要性質について口腔内外で使用する材料の組成、構造          歯科材料の基本的性質</p> <hr/> <p>基礎実習の考え方とねらい衛生材料の種類と、その用途</p>
<p>第2回 衛生材料について 【チェックポイント】</p>	<p>清潔不潔を理解する          衛生材料の種類と用途を理解する          衛生材料の作成ができる          衛生材料を衛生状態を理解し保管ができる</p>
<p>第3回 歯科材料 各セメントの説明 ① 【チェックポイント】</p>	<p>合着の所要性質 合着とは 練和法の基本、使用器具、一括練和、筆積法          リン酸亜鉛セメントの特徴と取り扱い方法          グラスアイオノマーセメントの特徴と取り扱い方法          カルボカシレートセメントの特徴と取り扱い方法          合着材を用いた際の患者説明を行えるようにする。</p> <hr/> <p>実習目的を理解しておくこと。教科書①P.222参照しておくこと。          リン酸亜鉛セメントの練和法にはJIS規格の四分割法とADA規格の六分割法があるので教科書①P.232図 I-5-162を参考に予習しておくこと。</p>
<p>第4回 歯科材料 各セメントの説明 ② 【チェックポイント】</p>	<p>接着の所要性質 接着とは接着性レジンセメントの特徴と取り扱い方法          接着材を用いた際の患者説明を行えるようにする          酸化亜鉛ユージノールセメントの特徴と取り扱い方法</p> <hr/> <p>実習目的を理解しておくこと。教科書①P.223, 241参照しておくこと。</p>

歯科材料学

第5回 歯科材料 各印象材の説明 【チェックポイント】	印象材の種類と各種特徴 概形印象、精密印象について理解する アルジネート印象材練和方法、取り扱い方法 印象採得時の嘔吐反射に対する対策	
	現在使用されている印象材の大部分は、弾性印象材である。 教科書①P.194に分類されているので覚えておくこと。 印象法によって印象材の種類が違うので各印象材の性質を理解し使用用途を把握しておくこと。 教科書①p.194参照	
第6回 歯科材料 ゴム質印象材の説明 【チェックポイント】	印象材の種類と各種特徴 ゴム質印象材の練和方法、取り扱い方法 ゴム質印象材の使用用途を理解する	
	ゴム質印象材の硬化機序、一次印象、二次印象の違いについて理解する 各印象材の長所・短所を整理する	
第7回 歯科材料 印象材の取り扱い(寒天) 【チェックポイント】	印象材の種類と各種特徴 連合印象とは何か理解する 寒天印象材の器具の取り扱い方法	
	寒天印象の硬化機序を理解する 寒天印象材の使用法、熱可塑性のため管理方法を理解する	
単元テスト	1回目 セメント	2回目 印象材
第8回 歯科材料 模型用について 【チェックポイント】	研究用模型の目的、普通・硬・超硬石膏の材質を理解する 硬化機序、硬化時間、石膏の処理方法(バイオハザードマーク)	
	教科書P.214参照	
第9回 歯科材料 成形修復材について 【チェックポイント】	レジン・ガラスアイオンマーセメントの用途、取り扱いと取り扱い上の注意点 コンポジットレジンの材料形態、接着システムについて理解する アマルガム修復による公害問題	
第10回 歯科材料 仮封材・仮着材 【チェックポイント】	仮封材・仮着材の目的、種類、特徴 単一仮封、二重仮封、穿通仮封とはそれぞれどういう意味か テンポラリーストップング特有の特徴と取り扱い、使用器具 ユージノール系・非ユージノール系セメントの使用目的と取り扱い方法 水硬性仮封材、銅セメント、サンダラック、レジン系仮封材の種類 暫間被覆冠とは何か、またその種類	
	知識の整理は、仮封の目的と種類、特徴に分類して覚える。取り扱い方も習得しておくこと。 実習の手順と留意点については 歯科診療補助①P.240～P.250参照しておくこと	
第11回 歯肉圧排と圧排用薬剤について 【チェックポイント】	歯肉圧排の基礎知識、手順 歯肉圧排用薬剤の種類と取り扱い	
	歯肉縁下の支台歯形成、印象採得のための排除の必要性を理解する。	
単元テスト	まとめ	

# 歯科材料学実習

担当 辻 静希

主題と目標	<p>歯科医療の場では、おびただしい数の材料機器が利用されている。これらに関する介助には適正な準備・操作に加え、的確なタイミングが要求される。そこで材料名・機器名に親しみ、使われる状況を知ること、また常に人体の安全を配慮して扱う必要があり、そのための十分な知識と取り扱い方を確実に習得することを目標とする。また、これらを習得したうえで、診療がスムーズに行えるための介助を目指す。</p>
教科書	<p>①最新歯科衛生士教本 歯科診療補助 第2版 合場千佳子他著 医歯薬出版                  ②歯科衛生士のための 歯科臨床概論 第2版 松井恭平他著 医歯薬出版                  ③最新歯科衛生士教本 口腔外科・歯科麻酔 山根誠之他著 医歯薬出版                  ④最新歯科衛生士教本 保存修復・歯科療法 千田彰中村洋他著 医歯薬出版                  ⑤最新歯科衛生士教本 歯科材料 木瀬一彦著 医歯薬出版</p>
成績評価の方法	<p>単元テスト、レポート、実習態度+αで評価をする。</p>
備考	<p>試験は、記述式・○×式・0抜きで行う。</p>
<p>授業計画(4月～9月)</p>	
第1回 セメント① 【チェックポイント】	<p>リン酸亜鉛セメント実習開始前に成分、用途を理解できているか口頭質問をする。                  使用器具、器材の準備、混水比、練和方法(広げ方、集め方、硬度)後始末</p>
第2回 セメント② 【チェックポイント】	<p>リン酸亜鉛セメント実習開始前に成分、用途を理解できているか口頭質問をする。                  使用器具、器材の準備、混水比、練和方法(広げ方、集め方、硬度)後始末</p>
第3回 セメント③ 【チェックポイント】	<p>酸化亜鉛ユージノールセメント実習開始前に成分、用途を理解できているか口頭質問をする。                  使用器具、器材の準備、混水比、練和方法(広げ方、集め方、硬度)後始末</p>
第4回 セメント④ 【チェックポイント】	<p>グラスアイノマーセメント実習開始前に成分、用途を理解できているか口頭質問をする。                  使用器具、器材の準備、混水比、練和方法(広げ方、集め方、硬度)後始末</p>
第5回 セメント⑤ 【チェックポイント】	<p>銅セメント実習開始前に成分、用途を理解できているか口頭質問をする。                  使用器具、器材の準備、混水比、練和方法(広げ方、集め方、硬度)後始末</p>
第6回 セメント⑥ 【チェックポイント】	<p>カルボキシレートセメント実習開始前に成分、用途を理解できているか口頭質問をする。                  使用器具、器材の準備、混水比、練和方法(広げ方、集め方、硬度)後始末</p>
第7・8回 セメント⑦ ⑧ 【チェックポイント】	<p>各セメントの総復習をする                   全てのセメント、練板、スパンチュラを準備し、指示したセメントを選び練和していく。                  練和方法、混水比、使用器具を間違えないよう復習する。</p>
第9回 セメントプリント学習 【チェックポイント】	<p>各セメントについて 基礎知識を整理し理解しておくこと。                   合着、仮着、仮封、接着、裏層の違い                  セメントの種類                  使用器具、練和時間、硬化時間、成分、用途、操作方法、操作時間、粉末・液の特徴</p>
実技試験	<p>セメント練和テスト</p>
第10回 衛生材料② 【チェックポイント】	<p>基礎実習の考え方とねらい 衛生材料の種類と、その用途 ガーゼハンカチの作製 (一枚は白糸、一枚は赤糸で四辺を縫う)                   歯科診療補助を行うには、直接的に関連の深い臨床科目を十分理解しておくこと。                  歯科衛生士の三大業務を読んでおくこと。「歯科衛生士概論」P.30参照</p>

歯科材料学実習

<p>第11回 衛生材料② 【チェックポイント】</p>	<p>実習目的、実習手順と留意点    ロールワッシャー・洗浄用綿球・塗布用綿球の作製、点検。ピンセットの正しい持ち方。</p> <p>衛生材料は歯科診療において、さまざまな用途で使用されている。使用用途を理解したうえで作製できるように練習しておくこと。</p>
<p>第12回 衛生材料② 【チェックポイント】</p>	<p>ブローチ綿花の使用目的と製作手順 カット綿、ブローチ綿花、小折りガーゼの作製自己点検</p> <p>ブローチ綿花の使用用途を理解し、作製する。 清潔不潔の意識付けのためと、グローブ着用の手指で作製出来るよう普段からグローブの着用に慣れておく。</p>
<p>レポート</p>	<p>衛生材料</p>
<p>第13回 印象材① 【チェックポイント】</p>	<p>アルジックス印象材にて練和練習 バーボールの持ち方、スバチュラの持ち方・使用方法、練和手順に沿って進行する。 ラバーボール内での印象材の集め方    後始末の方法</p> <p>練和のポイント ラバーボール内の壁に押しつけ、こするように練和する。 知覚の整理、実習目的、実習準備、手順、留意点を理解して練和を行う。</p>
<p>第14回 印象材② 【チェックポイント】</p>	<p>アルジネット印象材の粉末タイプを用いての印象採得 混水比を理解し、計量を実際に行う。回転トレーと顎模型を使用。 トレーの口腔内への挿入、圧接方法、口唇排除    トレーの保持方法    トレーの撤去 トレー・ラバーボール・スバチュラの清掃方法</p> <p>採得のポイント 試通を行い正しいトレーを選択する。臼歯部から圧接し、そのまま手前に少し引き、前歯部を圧接する。手前に引いた分戻す。 次に口唇をトレーにかぶせる。    そして歯牙番号6番あたりを保持する。</p>
<p>第15回 印象材③ 【チェックポイント】</p>	<p>アルジネット印象材の粉末タイプを用いて下顎印象採得を行う。患者は座位にて行う。 トレーの保持・撤去    トレーの口腔内への挿入方法    (嘔吐反射の有無・対応) 印象採得を行うにあたっての患者さんへの心配りについて    (小帯、最後臼歯、歯頸部、気泡はないか) 正しく印象面が印記されているか</p> <p>印象材は計量スプーンで水は計量カップで正しい計量をする。 選択したトレーに合った量をラバーボールに粉から水の順番で入れること。下顎には舌があるため患者に声掛けをし舌排除を忘れないようにする。</p>
<p>第16回 印象材④ 【チェックポイント】</p>	<p>アルジネット印象材の粉末タイプを用いて下顎印象採得</p> <p>臼歯部にはアルジネット印象材を少なめにトレーに盛る。そして、各自前回の反省点を改善し実行できるようにする。</p>
<p>第17回 印象材⑤ 【チェックポイント】</p>	<p>アルジネット印象材の粉末タイプを用いて上顎印象採得を行う。患者は座位にて行う。</p> <p>下顎より上顎の方が、嘔吐反射を起こしやすいため迅速に対応できる様にする。 そして、臼歯部にはアルジネット印象材を少なめにトレーに盛る。</p>
<p>第18回 印象材⑥ 【チェックポイント】</p>	<p>アルジネット印象材の粉末タイプを用いて上顎印象採得 各タイプとも練和後、トレーに盛り、顎模型にて採得    採得面を各自でチェックし、良い印象が採れるように練習しておくこと</p> <p>よい印象の目安 ①気泡の有無②小帯の有無③印象材の滑沢性④未反応な部分はないか    ⑤歯頸部はあるか⑥最後臼歯部はあるかなどチェック項目を覚えて実行できるようにすること。</p>
<p>第19回 印象材⑦ 【チェックポイント】</p>	<p>アルジネット印象材の粉末タイプを用いて上下顎印象採得の復習 時間を決めその時間内に準備から片付けができる 室温、気温、水温の変化に対応する</p> <p>シミュレーションを行ってから印象採得しているか確認をする。 下顎と上顎では患者姿勢が異なるため注意して行う。そして上顎の方が嘔吐反射を起こしやすいので迅速に対応できるようにする。</p>

<p>第20回 印象材⑧ 【チェックポイント】</p>	<p>アルジネート印象材の粉末タイプを用いて上下顎印象採得の復習 時間を決めその時間内に準備から片付けができる 室温、気温、水温の変化に対応する</p> <p>シミュレーションを行ってから印象採得しているか確認をする。 下顎と上顎では患者姿勢が異なるため注意して行う。そして上顎の方が嘔吐反射を起こしやすいので迅速に対応できるようにする。</p>
<p>第21回 模型材の取り扱い①（スタディモデル作成）  【チェックポイント】</p>	<p>研究用模型の目的を再度理解する。普通、硬、超硬石膏の特徴 石膏の混水比を理解し計量を実際に行う。 ラバーボールの持ち方、スパチュラの持ち方 石膏の練和方法を学ぶ 気泡抜きの方法（パイプレーターの使用） 硬化熱とはどのようなものか理解し、実際に触れる 後始末</p> <p>硬化を速める方法 ①練和条件を変える方法 ②添加物を使用する方法 印象採得後速やかに石膏流入することの重要性を理解する。 練和のポイント スパチュラを鉛筆状に持ち、ラバーボールの内壁にこすりつけながらクリーム状になるように練り上げる。 静かに素早く混ぜる要領なので覚えておくこと。</p>
<p>第22回 スタディモデル①  【チェックポイント】</p>	<p>相互実習 スタディモデル作成</p> <p>気泡発生の原因となるため石膏の注入位置は一方所に決めて注入する。</p>
<p>第23回スタディモデル②  【チェックポイント】</p>	<p>スタディモデル トリマー</p> <p>トリマーを使用する際の注意事項を理解しておく。トリマーを使用する際の注意事項を聞き、削り過ぎないようにする</p>
<p>第24回スタディモデル③  【チェックポイント】</p>	<p>スタディモデル 挿入れ</p> <p>枠に研究用模型を挿入する際に位置を確認する。石膏練和時必ず脱泡する</p>
<p>実技試験</p>	<p>1回 印象材練和 2回スタディモデル作品評価</p>
<p>第25回 レジン充填 ①  【チェックポイント】</p>	<p>レジン材料の用途と種類 重合を起こさせる手段 コンポジットレジンの材料形態 即時重合レジンの取り扱いと取り扱い上の注意 コンポジットレジンの取り扱い</p> <p>レジンの特質、光重合レジンについて、教科書を確認しておく。</p>
<p>第26回 レジン充填 ②  【チェックポイント】</p>	<p>コンポジットレジンの練和方法と窩洞への充填方法、照射時・シェードアイキング時の注意事項 コンポジットレジンの取り扱いと保管場所について</p> <p>レジンの種類、使用用途、充填後の研磨、患者指導について教科書を読んでおく</p>
<p>第27回 カービング実習</p>	<p>石膏柱を立体的に理解するために歯牙解剖の教科書を復習し、歯牙の形態、咬頭数、歯根数・形態を理解しておく</p>
<p>第28回 仮封材 ストッピング（顎模型）</p>	<p>熱可塑性で操作を間違えると重大な事故につながるため、操作方法を理解していく。 使用器具や、使用目的（二重仮封）について理解しておく。</p>
<p>第28回 仮封材 水硬性仮封材 カンパシーシール（顎模型）  【チェックポイント】</p>	<p>水硬性仮封材の硬化機序、使用方法、窩洞の大きさにあった量を充填できる</p> <p>余剰セメントの除去、除去方法について学ぶ、仮封後の患者指導について教科書を読んでおく</p>
<p>評価</p>	<p>1回 カービング作品 2回 レジン充填作品 で評価</p>





# 歯科保健指導演習

担当 川上 心

主 題 と 目 標	歯科保健指導とは、個人を対象として、その人の生活行動をその人に適した歯科保健行動に委容させるための専門的な立場からの助言と援助である。 ライフステージ毎に多様な生活環境・健康状態にある個人および集団に対してもっともふさわしい歯科保健行動がとれるように、専門的な立場から支援できることが目標であり、人々の歯・口腔の健康に関するセルフケア能力を高めるために必要な知識・技術態度を習得する。	
教 科 書	最新 新歯科衛生士教本 歯科保健指導 全国歯科衛生士教育協議会編集 医歯薬出版 最新歯科衛生士教本 口腔保健管理 全国歯科衛生士教育協議会編集 医歯薬出版 最新歯科衛生士教本 口腔保健生態 全国歯科衛生士教育協議会編集 医歯薬出版	
成績評価の方法	試験は、単元試験・実習リポート・受講態度(出席状況)などを総合的に判断する。	
備 考	試験問題形式は、択一問題とする。	
授業計画 (4月～9月)		
第1回	1章 歯科予防処置論・歯科保健指導論の概要	・歯科予防処置・歯科保健指導の定義 ・歯科予防処置・歯科保健指導の考え方 ・歯科予防処置・歯科保健指導の法的な位置づけ ・歯科保健指導の内容
▼保健指導と歯科治療の関係	・歯科治療と保健指導の関係	
▼歯科衛生士に望まれる資質		
【Key】	歯科衛生過程 QOL 行動の変容 ポピュレーションアプローチ ハイリスクアプローチ アセスメント	□①歯科保健指導は個人だけに行う □②保健行動とは生活行動と同じ意味である □③QOLの向上とは地位が向上することである □④歯科衛生士に求められる資質は3つある □⑤歯科衛生アセスメントとは患者の情報収集のことである □⑥歯科衛生診断とは目標達成度を評価することである □⑦保健指導ではセルフケアの方法見づから選択してもらう □⑧リスクに応じた歯科保健指導を行うことをポピュレーションアプローチという
第2回	▼健康の概念 ▼予防の概念	健康の定義 日本の健康増進施策
【Key】	プライマリヘルスケアー ヘルスプロモーション 健康日本21 歯の健康目標 健康増進 特異的防御 即時処置 一次予防 二次予防 三次予防	□①健康とは病気が無いということである □②プライマリヘルスケアーとは先進国の健康戦略である □③ヘルスプロモーションとは人々自らの健康をコントロール改善するプロセスのこと □④ヘルスプロモーションと関係あるのはアルマタ宣言である □⑤ヘルスプロモーションの活動方針に地域活動の強化がある □⑥健康21(2次)の方針は平均寿命の延伸と健康格差の縮小である □⑦健康21(2次)の生活習慣および社会環境の改善には5項目ある □⑧疾病の予防レベルで早期発見即時治療は1次予防にあげられる □⑨口腔清掃指導は特異的防御である
(WHOの定義)では、「健康とは身体的、社会的、精神的に良好な状態にあり、単に病気がない虚弱でないということではない」としており 社会、家庭、精神、知的生活などを含むQOLの高さや生きがいが増えられている。		
第3回	▼口腔の機能	口腔の機能 摂食・嚥下機能 摂食・嚥下の仕組み
【Key】	摂食・嚥下機能、構音機能、表情機能、感覚機能、分泌機能 呼吸機能 認知期 咀嚼期 口腔期 咽頭期 食道期 喉頭蓋	□①口腔の機能の構音機能とは圧点温点冷点などを感じる機能である □②摂食嚥下機能はコミュニケーションに欠かせない機能である □③分泌機能とは唾液に関係あり味を感じるためにも重要である □④食物を確認する時期は咀嚼期という □⑤咀嚼期とは準備期ともいわれる □⑥口腔期は反射運動により起こる □⑦咀嚼と関係あるのは食道期である
歯科予防処置・歯科保健指導	歯科専門知識の習得 行動変容に関連する理論 行動変容を促す理論の実践	□①ミドリモデルは9段階あり健康教育の立案する時に活用される □②ミドリモデルの実施に値するのは6段階である □③コーピングとはストレスに対しての対処をあらかじめ定めることである □ 歯科衛生士は、対象者自身の( )に働きかけ、( )を促す 目的や手段、( )や( )など、対象者の( )を引き出し、 行動を変容するための条件に十分に配慮する。 ( )が健康の増進と疾病のコントロールに重要である。
【Key】	健康信念モデル プリシード・プロシード ストレス コーピング	
単元テスト1	ペーパーによる単元テスト	【時期】 6月中旬
第4回	口腔清掃方法 歯ブラシの検討演習 (歯ブラシの知識、形態や名称)	歯・口腔の付着物 沈着物の種類の復習 歯ブラシの各名称 種類 特長 適応症 保管方法 手用歯ブラシ 電動歯ブラシ 音波歯ブラシの特徴
◆演習の到達目標	① 歯ブラシの 特徴と各部の名称が言えることが出来る ② 規格 保管方法記述できる ③ 持ち方の種類を知り実際に使うことが出来る ④ 電動歯ブラシ音波歯ブラシ超音波歯ブラシの特徴と適応症を記述できる	□①歯ブラシの使用目的に歯肉のマッサージは含まれる □②手用歯ブラシの構成でシャंकとは把柄部のことである □③望ましい歯ブラシの刷毛部は大きく厚いものが良い □④歯ブラシの規格はJISとISOがある □⑤使用した歯ブラシはコップに水をためて洗うとよい □⑥歯ブラシの交換期は3ヶ月間である □⑦電動歯ブラシのストローク数は30000回である □⑧音波歯ブラシはストロークは必要ない □⑨超音波歯ブラシは心臓のペースメーカー使用患者には使ってはいけない

歯科保健指導  
演習

<p>第4・5回 口腔清掃指導 口腔清掃指導法演習 ブラッシング法</p> <p>◆演習の到達目標</p>	<p>ブラッシング法検討 歯ブラシの持ち方・当て方・動かし方・歯磨き圧の体感 顎模型を利用し、ブラッシング方法を練習 毛先を使うもの</p> <p>① 各方法の特徴を覚え、歯ブラシを動かすことができる ② 適応症を覚え、記述できる。 ③ 毛先・わき腹を使う方法を使い分けができる</p>	<p><input type="checkbox"/>①スクラッピング法は歯ブラシのわき腹を使用する <input type="checkbox"/>②歯列不正の患者には1歯ずつ縦磨きが良い <input type="checkbox"/>③望ましい歯ブラシの刷毛部は大きく厚いものが良い <input type="checkbox"/>④バス法は硬い歯ブラシを使用する <input type="checkbox"/>⑤歯ブラシのわき腹を使用するものは歯肉のマッサージ効果が高い <input type="checkbox"/>⑥幼児にはフォーンズ法が適応する <input type="checkbox"/>⑦ローリング法は歯肉腫脹や出血がある患者に適応する <input type="checkbox"/>⑧スティールマン法の歯ブラシの毛先は歯軸に対して90度にあてる <input type="checkbox"/>⑨歯磨き圧は方法により異なる</p>
<p>第6回 各ブラッシング法復習 歯磨剤の種類と用途</p> <p>◆演習の到達目標</p>	<p>歯磨剤の剤型 成分による分類 基本成分 薬効成分 歯磨剤の効能 効果 フッ化物配合歯磨剤 特徴 効果 使用量と使用方法</p> <p>①歯磨剤の種類と目的 を列記できる ②歯磨剤の薬用成分について説明できる ③歯磨剤の選択とその使用方法を指導できる</p>	<p><input type="checkbox"/>①歯磨剤は薬事法により定められている <input type="checkbox"/>②基本成分のみの歯磨剤は医薬部外品である <input type="checkbox"/>③基本成分の潤滑剤はリン酸カルシウムが主成分である <input type="checkbox"/>④基本成分の保存料はパラベン主成分である <input type="checkbox"/>⑤薬効成分にはう蝕予防と歯周病予防がある <input type="checkbox"/>⑥クロルヘキシジンは殺菌の役割がある <input type="checkbox"/>⑦ポリリン酸ナトリウムは歯垢の付着を防止する <input type="checkbox"/>⑧象牙質知覚過敏の抑制には硝酸カルシウムが効果がある <input type="checkbox"/>⑨RDAとは研磨性を評価する方法である <input type="checkbox"/>⑩フッ化物配合歯磨剤のう蝕抑制率は40～60%である</p>
<p>第7・8回 口腔清掃指導法演習④⑤ 各種補助器具</p> <p>◆演習の到達目標</p>	<p>・ デンタルフロス 歯間ブラシ タフトブラシ ・ スポンジブラシ舌ブラシ 義歯用ブラシ ・ 口腔ケア用具 ・ 洗口剤</p> <p>① 各補助器具について名称と用途を分けることができる ② 使用時の注意事項や管理方法について記述できる ③ 顎模型や口腔内で操作することができる</p>	<p><input type="checkbox"/>①デンタルフロスは歯冠部の清掃に適している <input type="checkbox"/>②フロスの使い方では指に巻きつける方法をサークル法という <input type="checkbox"/>③フロスの中で刷掃面積が一番広いのはスポンジ状フロスである <input type="checkbox"/>④フロスの挿入角度は90度である <input type="checkbox"/>⑤歯間ブラシにはパレルタイプやコーンタイプなどの毛の形がある <input type="checkbox"/>⑥洗口液は水歯磨きともいわれる <input type="checkbox"/>⑦洗口剤の使用後は水での漱口を行わなければならない</p>
<p>ブラッシング法の知識(ペーパー)または 実技テストにより評価 【6月中旬 予定】</p>		
<p>第9・10回 歯科衛生過程の概要 歯科衛生アセスメントのための 情報収集と情報処理</p> <p>歯科衛生過程とは、歯科衛生士が対象者(患者や健康な人びと)の問題を( )をもって解決するため行動のこと目的は、一人ひとりの対象者にとって本当に必要な( )を考え対象者に関わる医療従事者全員で( )し、適切な( )を継続して行うことである。</p> <p>【key】 歯科衛生アセスメント 歯科衛生診断 歯科衛生計画立案 歯科衛生介入、歯科衛生評価</p>	<p>1. 患者からの情報収集 主観的情報 2. 医療面接(メディカルインタビュー) 3. 口腔内の情報収集(予防処置論の復習を兼ねる) 4. 歯垢染色剤の取り扱い 歯面の付着物・沈着物</p>	<p><input type="checkbox"/>①アセスメントとは患者のニーズや抱える問題などの情報収集を行う <input type="checkbox"/>②アセスメントの手順の最後は情報の整理である <input type="checkbox"/>③アセスメントの目的は歯科医師の診断とは関係ない <input type="checkbox"/>④症状の始まりから現時点までの経過のことを主訴という <input type="checkbox"/>⑤主観的データのことをSデータと呼ぶ <input type="checkbox"/>⑥信頼関係を確立することをコミュニケーションの形成という <input type="checkbox"/>⑦医療面接と問診は同じ意味である <input type="checkbox"/>⑧最も望ましい染出し剤はエリスロシンである <input type="checkbox"/>⑨歯垢染色剤の味が悪くないのは所要条件である <input type="checkbox"/>⑩歯垢染色剤の防腐性殺菌性は所要条件である</p>
<p>第11・12回 分析のためのデータ収集演習</p> <p>◆演習の到達目標</p>	<p>指数(OHI オレリー CPITN) 例題を使い演習 プラーク・歯石の指数 歯周疾患の指数 その他の指数</p> <p>① 各方法について目的、方法を理解できる ② それらを使用し汚れの状況を表現できる ③ 練習課題の解答を導き出すことができる</p>	<p><input type="checkbox"/>①OHIは歯垢と歯石の付着度を数値化する <input type="checkbox"/>②OHIの観察歯は第3大臼歯を含む <input type="checkbox"/>③OHIの最高値は6である <input type="checkbox"/>④OHI-SはOHIより観察する歯が少ない <input type="checkbox"/>⑤PCRは咬合面のプラークの付着度も観察する <input type="checkbox"/>⑥PMAは歯肉炎の広がりを検査する <input type="checkbox"/>⑦歯周炎の進行度を評価するのはGIである <input type="checkbox"/>⑧地域歯周疾患指数で使用するプローブはファーケーションプローブである <input type="checkbox"/>リンデ&amp;ノイマンの分類は根分岐部の検査に使用する</p>
<p>データ収集法についての知識(ペーパー)により評価 【7月夏期集中時予定】</p>		
<p>第13・14回 歯面・歯肉観察演習</p> <p>◆演習の到達目標</p>	<p>口腔観察アセスメント作成 面接 聞き取り 歯の汚れ染めだし(OHI オレリー) 診断 指導案作成(宿題) ⇒立案 指導演習 介入選択</p> <p>①歯肉の形態や場所名を知る ②用語について理解する</p>	<p>□ 実習の流れ 2人1組 ・5分 アセスメント ・5分 口腔内チェック(歯列歯肉) ・10分 染め出し(歯ブラシで塗りつける) ・10分 PCRの算出 ・10分歯磨剤を使用した口腔清掃 ・5分評価表に感想を記入してもらう ※矯正装置装着者は必ず申し出ること</p> <p>持ち物 赤鉛筆 電卓 ペンライト 筆記用具 顎模型 歯ブラシ マスク グローブ フロス 歯ブラシ 歯磨剤 手鏡 コップ</p>

# 夏期集中授業

担当 教務課

主題と目標	歯科診療の補助は、行為責任の範囲で歯科衛生士の能力や技能に応じて指
	示される。診療の流れを理解し術者の診療行為を一步先取りした対応が重要
	になる。
	そのため、共同動作における位置関係、患者への対応法を習得することを
	目標とする。
	また、フォーハンドテクニックなどを体得することで、より迅速で的確な
	診療補助を行うことが出来るように、理解を深める。
教科書	新歯科衛生士教本 歯科診療補助 赤松幸子他著 医歯薬出版
参考図書	1 2週間チェアーサイド アシスタント トレーニングノート 中島 一郎著 クインテッセンス出版 水平位におけるアシスタントワーク 歯科実習保健指導者懇談会 クインテッセンス出版
成績評価の方法	成績評価は中間試験・定期試験・実習レポート・実技・提出物・出席状況などを総合的に判定する。
授 業 計 画 (6月～7月)	
第1回 共同動作 【チェックポイント】	講義 ブローチの役割 実習 カット綿・ブローチ綿花の作製  ブローチ綿花の使用用途を理解し、作製する。 グローブをつけた指で作れるようにも練習する。
第2回 チェアー説明 【チェックポイント】	実習 十人一組になる。 各チェアーの操作法を理解する。 チェアー：吉田、モリタ、シーメンス、エーディック 帝国、タカラベルモント、GC、カボ  どのチェアーについても操作可能であるように、各スイッチの場所などをしっかり把握する。 また、安全に操作できるように心掛ける。 実習の目的、実習の手順と留意点P.215 読んでおくこと。

<p>第3回 共同動作</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>講義 共同動作の基本とルール 患者誘導の手順 チェアへのセッティング（背板→高さ→安頭台） 術者とアシスタントの位置と姿勢 ライティング 実習グループ、実習当番についての説明</p> <hr/> <p>患者誘導の時の対応の仕方を理解する。 術者としての基本位置を理解すること。 アシスタントとしてライティングを理解する。</p>
<p>第4回 共同動作実習①</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>実習 三人または四人組になり術者・アシスタント・患者を設定する (手順) ①手指消毒 ②器具の準備 ③通路の確保 ④患者誘導 ⑤チェアへのセッティング ⑥終了（交代）</p> <p>(チェックポイント) 清潔の徹底 通路の確保 声の大きさ チェア操作 ライティング 共同動作の位置と姿勢</p> <hr/> <p>患者誘導の時の対応の仕方を理解する。 術者としての基本位置を理解する。 アシスタントとしてのライティングを理解する。 返事の必要性を考え、実際に行う。</p>
<p>第5回 共同動作実習②</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>実習 三人または四人組になり術者・アシスタント・患者を設定 (手順) ①手指消毒 ②器具の準備 ③通路の確保 ④患者誘導 ⑤チェアへのセッティング ⑥操作 スケーリング・バキューム ⑦終了（交代）</p> <hr/> <p>チェアへのセット エプロンのかけ方のポイント ライティングのポイント 術者への依頼 患者・術者・補助者との位置関係 正座位、水平位、基本操作、治療終了、患者をチェアから降ろす。P. 216～222を読んで覚えておくこと。</p>

<p>第6回 共同動作実習③</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>実習 三人一組になり術者・アシスタント・患者を設定 患者はマニキンとし受け渡しを行う 練習する器具 鉗子、ヘーベル、鋭匙、骨ノミ、骨ヤスリ、持針器、基本セット、リーマー、ファイル、パー等 練習する方法 片頭式・両頭式器具の受け渡し、片手同時受け渡し（左手を使いミラー二本で練習）</p> <hr/> <p>ベングリップによる受け渡しの仕方、パームグリップによる受け渡し、注射器の手渡し、小器具の受け渡しをP. 111～116を読んで理解しておくこと。P. 111～P. 116 のセルフチェックを理解しておくこと。</p>
<p>第7回 共同動作実習④</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>実習 三人または四人組になり術者・アシスタント・患者を設定 練習する器具 鉗子、ヘーベル、鋭匙、骨ノミ、骨ヤスリ、持針器、基本セット、リーマー、ファイル、パー等 練習する方法 片頭式・両頭式器具の受け渡し、片手同時受け渡し（左手を使いミラー二本で練習）</p> <hr/> <p>前回の受け渡しの基本を復習しておくこと。 前回達成できていない点があれば、今回達成できるように練習しておくこと。</p>
<p>第8回 血圧</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>バイタルサイン 脈拍、呼吸、体温、血圧のそれぞれの診方と正常値 血圧について最高血圧と最低血圧を理解したうえで測定実習を行う</p> <hr/> <p>血圧を測定するときの測定器の取り扱い方の注意を守り、正しい値をだすために「臨床検査法」P. 26～28を読んでおくこと（聴診器の当てる位置や腕の高さなど）</p>
<p>第9回 蘇生法①</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>救急法の概略と手順 蘇生法と蘇生法のA、B、C、D 人工呼吸法と気道内異物除去法の実習</p> <hr/> <p>救急法で援助者が守るべきことをしっかりと頭にいれ、とっさの時にそのことをもとに動けるようにしておく。また、ショック体位について意義を知っておくこと。</p>

<p>第10回 蘇生法②</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>脳貧血の症状とその処置 傷の種類とその危険性 止血点と止血方法学び実習を行う 包帯と保護ガーゼの意味 三角巾の使用方法を学び実習を行う</p> <hr/> <p>止血については、その方法は簡単である。各自実際にその方法で実習を行うことにより、ポイントをおさえて早く止血できるようにする。 止血の仕組みを「臨床検査法」P.80を読んで、予習しておくこと。</p>
<p>第11回 研究発表①</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>研究課題決め</p> <hr/> <p>各自、健康や歯科に関わる研究課題を決める。</p>
<p>第12回 研究発表②</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>研究</p> <hr/> <p>レポートにまとめ、提出する</p>
<p>第13回 研究発表③</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>研究発表</p> <hr/> <p>各自研究した課題を、各グループに分かれ、発表を行う。 それぞれの発表内容について、評価する。</p>
<p>第14回 点文字</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>自己紹介 挨拶 趣味、年齢、誕生日</p> <hr/> <p>自己紹介や挨拶などクイズを交えて最低必要限の言葉を覚えてもらう。</p>
<p>【チェックポイント】</p>	<p>各自、健康や歯科に関わる研究課題を決める。</p>

心理学Ⅱ  
う蝕予防処置法  
感染予防学

## 講義要綱 (第2学年・前期)

心理学Ⅱ	-----	3	
歯科英語	-----	5	
歯科衛生統計学	-----	7	
歯周療法学	-----	1 1	歯科英語 う蝕予防処置法実習 歯科医療保険事務
小児歯科学	-----	1 3	
口腔外科学	-----	1 7	
歯周病予防法Ⅱ	-----	2 1	
歯周病予防法実習Ⅱ	-----	2 3	歯科衛生統計学 歯科保健指導Ⅱ 歯科・医療秘書学
う蝕予防処置法	-----	2 7	
う蝕予防処置法実習	-----	2 9	
歯科保健指導Ⅱ	-----	3 1	歯周療法学 歯科保健指導実習
歯科保健指導実習	-----	3 3	
高齢者歯科学	-----	3 5	小児歯科学 高齢者歯科学
口腔保健管理学	-----	3 7	
(高齢者歯科実習含む)			
歯科診療補助実習Ⅱ	-----	4 3	口腔外科学 口腔保健管理学
歯科放射線学	-----	4 5	
感染予防学	-----	4 7	
歯科医療保険事務	-----	4 9	
歯科・医療秘書学	-----	5 1	歯周病予防法Ⅱ 歯科診療補助実習Ⅱ

歯周病予防法実習Ⅱ  
歯科放射線学

1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31  
32  
33  
34  
35  
36  
37  
38  
39  
40  
41  
42  
43  
44  
45  
46  
47  
48  
49  
50  
51  
52  
53  
54  
55  
56  
57  
58  
59  
60  
61  
62  
63  
64  
65  
66  
67  
68  
69  
70  
71  
72  
73  
74  
75  
76  
77  
78  
79  
80  
81  
82  
83  
84  
85  
86  
87  
88  
89  
90  
91  
92  
93  
94  
95  
96  
97  
98  
99  
100



心理学Ⅱ		2022	
		担当 神田智子	
主題と目標	臨床の場で医療面接は不可欠でありそれらから患者の情報を聞き取り、信頼を得て治療に臨むことが出来るよう		
	ことが最善であり、そのための能力を高めることが歯科衛生士に求められている。		
	本講ではコミュニケーションスキルを高めロールプレイングを通じて実践できるように学んでいく		
	また、学生自身が相手を思いやりそれらを表現できるような心の成長を期待したい。		
教科書	最新歯科衛生士教本 歯科保健指導 全国歯科衛生士教育協議会編纂 医歯薬出版		
参考図書	自分を見つめるカウンセリング・マインド 五十嵐 透子 医歯薬出版		
成績評価の方法			
備考	試験問題形式は 択一問題		
授業計画 (4月～3月)			
日時	項目	内容	チェック項目
第1回	I 安心感と信頼感	1. 日本社会における安心感 2. 安心感と安全感 3. 医療場面における安心感と信頼	①主観保健指導の定義と DHの役割とは ②コミュニケーションとは(定義) ③なぜDHにコミュニケーション能力が必要とされるのか ④カウンセリングとは(パラカウンセリング) ⑤そのために体得すべき項目 ⑥医療現場で不可欠な安心感信頼感 ⑦今後の本講での体得項目と講義の流れ
第2回	II カウンセリング・マインド	1. カウンセリングやサイコセラピー 2. 技術と技能 *カウンセリングマインドエクササイズ	①十人十色と独自性 ②対人関係で前提となるカウンセリングマインドとは ③内部的照合と外部的照合とは ④コミュニケーションの成分とは(解読・記号化)
第3・4回	III 共感empathy	1. 対人関係と共感 2. 7つの態度 3. わかる＝理解すること	①聞くことと聴くの違い ②対人関係の上でのコミュニケーションとは プロセス(コミュニケーションスキル) ③3つのコミュニケーションスキルについて ④伝えることの難しさについて ⑤聞き手に必要な8要素 ⑥コミュニケーションにおける7つの態度 ⑦負の受容力
第5・6回	III 共感empathy	4. 共感の定義 5. 共感の生物学的側面6. 共感の発達 7. 共感と異なる概念 8. 共感による効果 9. 共感の習得	①知ると理解するの違い ②共感とは 定義 ③共感に重要な6つの要素(ロジャース:クライエント中心療法) ④共感と間違いやすい異なる概念とは ⑤対人関係の中で相手に理解されたと感じたときに 生じる6つの効果(共感の効果)
第7・8回	IV ノンバーバル・コミュニケーション	1 ノンバーバル・コミュニケーションの発達 2. 目的 1) 顔や顔部の動き 2) 目の動き(アイコンタクト, 見つめること(凝視, 仰視も含む)) 3) 上半身の動き: ジェスチャーや手の動かしかた姿勢 4) 下半身の動き: 座りか 5) パラランゲージ (口調・声の大きさ・話す速度・リズム・声の抑揚) 6) パーソナル・スペース 7) 沈黙 8) タッチング 9) その他(外見, 歩きかた(移動のしかた), 時間に対するとらえかた)	①コミュニケーションにはノンバーバルとは ②ノンバーバルコミュニケーションの動きや目的は ③ノンバーバルを使い分け ④突然通じて友人と確認しあう ⑤ノンバーバルで相手に与える印象の違いについて理解する
第9回	IV ノンバーバル・コミュニケーション		総合的に実践してみよう
第10 11回	V バーバル・コミュニケーション	1. 面接場面の導入と構造化 2. 質問法 (Inquiry) 3. 感情反映 4. 話した内容に対する受け止め 5. 聞き手の抱く感情や考えの伝達 6. 直面化 7. セルフ・ディスクリージャー 8. 情報提供 9. 最小限での励まし: 話を続けるような促し	それぞれの症例に対して自分がどのように感じたのかを記入し、 話しての感情の動きに敏感になれるように練習するまた適切な バーバル・コミュニケーションが取れるための言葉の選択を行える 手順 教①例題を読む ②それに対して自分ならどのように答えるのかを記入する

		10. 話を聴く姿勢や態度とそれを伝える行動 11. ユーモア 12. 要約 13. 終結	教③パターンの例題の返答を読む ④どのように感じたのが記入する 教⑤解説の説明 ⑥自分の感じた差について感想を記入
第12回	保健行動支援のための基礎知識 ①-行動変容に関連する理論	1. 健康信念モデル 2. 学習理論 (オペラント条件づけ) 3. 社会的認知理論 (自己効力感) 4. 行動変容ステージモデル	(1) 理論・モデルに示されている行動変容の関連要因を確認する それにより効果的な計画を立てる。 (2) 評価を介入対象とした行動変容の関連要因の変化も含めて評価することで介入の問題点や改善点が明らかになる
第13回	①-行動変容に関連する理論	1) 行動変容ステージ 2) 行動変容プロセス 3) 意思決定バランス 4) 行動変容のための自己効力感	変容ステージの構成概念 ①行動変容の5原則ステージ②行動変容の10プロセス、 ③意思決定バランス、④行動変容のための自己効力感 について学び患者の行動変容のための知識を得る。
第14回	②-行動変容を促す理論の裏側	1. ストレスとストレス・コーピング 2. 認知行動療法 1) 認知行動療法とは 2) 動機づけ面接	ストレッサーとストレス反応の種類について知り対応方法を学ぶ、 認知行動療法の行動的技法と認知的技法を効果的に組み合わせて 問題の改善を図る方法を学ぶ。 、自らの日常に起こる問題に対して解決方法を身に付ける。
ペーパー試験 ロールプレイングレポートより評価			

## 歯科英語

担当 加子 大二郎 (実務経験者授業)

主題と目標	<p>実際の医療現場では診療室を中心に手術室、病室、医局等で様々な専門用語、外国語（英語、ドイツ語、ラテン語）やスラング（隠語、俗語）が日常的に飛び交っている。医学的見地から患者さんに直接、知られたくない内容は勿論のこと、不安感を増長させたり、誤解を招かないように医師や看護師は好んで自分達だけが理解できるような専門用語を多用する。外国語が大部分を占めるのは当然のことだが、時には辞書には掲載されていないような略語であったりもする。</p> <p>程度の差はあれ、歯科診療室も同様である。</p> <p>カルテの記載に関しても、英語、ドイツ語が氾濫している。</p> <p>カルテの内容を見て、即座にその患者の病態を正確に把握し、歯科衛生士は当日の処置の準備をしなければならない。</p> <p>以上を考慮して、診療室の看護、診療補助の場面を想定しながら診療科ごとに英語を中心とする外国語の専門用語を勉強していく。</p>	
教科書	特に指定せず、その都度、プリントを配布する。	
参考図書	<p>カルテ記載のための歯科用語集                  歯科英語 全国歯科衛生士教育協議会                  アメリカで歯を治療するとき 福永玲子</p>	<p>医歯薬出版                  医歯薬出版                  日本貿易振興会</p>
成績評価の方法	定期試験で判定する。	
備考	英語が嫌いな学生、不得意な学生についても十分配慮して行う。	
授業計画	(6～9月)	
第1回	6月9日	解剖学、診断学に関する専門用語（その1）
第2回	6月16日	解剖学、診断学に関する専門用語（その2）

第3回 6月23日	口腔外科に関する専門用語
第4回 7月7日	保存捕綴に関する専門用語
第5回 9月1日	矯正、小児その他に関する専門用語
第6回 9月8日	総まとめ
第7回 9月15日	総復習
定期試験	
第8回 総復習	

# 歯科衛生統計学

担当 米良 友宏

主題と目標	現在、歯科保健や歯科医療の内容も、取り組み方も広がりや深さが一段と変化している。いろいろな情報を身につけていないと、対応しにくいことが多くなってきている。こうしたことの一つに統計的な考え方がある。
	たとえば、日常の仕事であるブラッシング指導を行い、それが本当に役立っているかどうかをつかむには統計的処置がある。
	歯科衛生統計を日常臨床や公衆衛生の場で、本当に役立つような力が持てるようにすることを目指す。
教科書	保健情報統計学 石井俊文他著 医歯薬出版
参考図書	
成績評価の方法	定期試験で評価する
備考	電卓（Mメモリーと√ルートキーがあるもの）を必ず持参すること。
授業計画 (4月～5月)	
第1回 4月14日 データーと分布 【チェックポイント】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、データーと情報 (pp1～3)</li> <li>2、データーの尺度 (pp89～90)</li> <li>3、母集団と標本 (pp84～88) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 全数調査と標本調査 (p85)</li> </ol> </li> <li>4、分布について <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 正規分布 (p90)</li> <li>2) 代表値と散布度 (pp91～93)</li> <li>3) 統計量(パラメーター)</li> </ol> </li> </ol>

	<p>①皆さんは一人ひとり絶対に個性的です。個性的でない人はいません。唯一無二。</p> <p>②2年生全員の集合体として大きなフィギアを考えます。この2年生の中で自分はどこにいるか。また3年生全員の集合体ノふいぎあのフィギアと比較してみましょう。皆さんが個々に違うように大きなフィギアも違うところもあれば同じ所があったりします。ミクロからマクロ、マクロからミクロと観察・分析してください。</p> <p>③身の回りには統計にまつわる者がいっぱいあります。そして、電子機器から我々のデータが収集されています。</p> <p>④統計(学)は英語でstatistics. その基はラテン語のstatus(国家・状態)です。起源はエジプトなどの国勢調査からです。</p> <p>⑤正規分布(曲線)は一番大切な分布(形)です。(ド・モアブルが1733年誤差の法則、ガウスが1809年ガウスの曲線、フランシス・ゴルトンが1877年正規曲線と名づけ、カール・ピアマンが1893年講義で正規分布という言葉を使った。</p> <p>⑥標本(1892年W. F. R. ウエルドン)母集団(1903年カール・ピアソン)</p> <p>⑦記号のアルファベットやギリシャ文字は万国共通です。  <math>\Sigma</math>、<math>\alpha</math>、<math>\mu</math>、<math>\sigma^2</math>、<math>\sigma</math>、<math>x</math>、</p>
<p>第2回 4月21日</p> <p>図表</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>1. 連続量(計量値)と離散量(係数値)  2. 図表の種類と特徴 (pp124~125)  3. 図表の作り方 (pp125~136)  ※図表作成の基本事項 (pp126~127)  4. ヒストグラムとバーチャート(棒グラフ)  5. 標準正規分布  6. 標準化と偏差値</p> <hr/> <p>①近代看護教育の生みの親フロレンス・ナイチンゲールは、物事を観察する能力、計算にも強く、物事を的確に比較分析することが好きでした。近代統計学の父アドルフ・ケトラーを終生の師と仰ぎました。慈善活動としての看護につき管理職として手腕を発揮しました。クリミア戦争で陸軍病院の衛生状態を改善するため国に報告書を作りました。データだけでなくビジュアルなグラフを考案しました。</p> <p>②ヒストグラム(度数分布図)(1891年カール・ピアソン)：計量値棒グラフ(1786年ウイリアム・プレイフェア)：計数値</p> <p>③実際には標準正規分布(表)を使うので、標準化を覚えましょう  ④それぞれの統計量の記号と計算式を覚えましょう  ⑤用語が違っていても全く同じものがあります。計算式を覚えて電卓を使って正確な値を出してください。  <math>n</math>、<math>\Sigma x</math>、<math>\Sigma x^2</math>、<math>x</math>、<math>S</math>、<math>u^2</math>、<math>u</math></p>
<p>第3回 4月28日</p> <p>標準化</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>1. 標準化  1) 標準正規分布(表)を使って問題を解く</p> <hr/> <p>①標準正規分布表の見方を覚える</p>

<p>第4回 5月12日</p> <p>相 関</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>1. 代表値(中心)・散布度(ばらつき) (p91) 1) 代表値(平均値、中央値、最頻値) 2) 散布度(標準偏差、分散、四方位範囲など)</p> <p>2. 相関 (pp93~94) 1) 散布図・荘管図 (pp125、133) 2) 相関関係(2つの変数の関連性の度合い) ※因果関係について (p113)</p> <hr/> <p>①平均値：<math>\bar{x}</math> (1816年ガウスが初めて使った、1830年代アドルフ・ケトラーが普及させた。) 中央値：<math>M_o</math> (1874年フランシスコ・ゴルトン) 最頻値：(1894年カール・ピアソンが命名) ②標準偏差：<math>S.D.</math>, <math>\sigma</math> (1893年カール・ピアソン) 分散：<math>V</math>, <math>\sigma^2</math> 四方位範囲interquartile range 最大値<math>X_{max.}</math>, 最小値<math>X_{min.}</math> 範囲：<math>R</math> (1892年カール・ピアソン) ③皆さんは平均値になじみがあるのですが、統計学ではバラツキが重要です。 ④相関係数：<math>r</math> (1896年カール・ピアソン)・積率相関係数とも言う</p>
<p>第5回 5月19日 順位相関係数と検定</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>1. スピアマンの順位相関係数 (p108) 2. 検定test 1) 仮説検定について 2) 帰無仮説と対立仮説</p> <hr/> <p>①チャールズ・スピアマンは1906年順位相関計数：<math>r_s</math>を考案する。 ②仮説検定(1928年イェジ・ネイマン=エゴン・ピアソン)</p>
<p>第6回 5月26日 <math>\chi^2</math>検定(カイ二乗検定)</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>1. <math>\chi^2</math> (適合度) 検定 2. 四つ目表 (2×2分割表)</p> <hr/> <p>①データは計数値。 ②<math>\chi^2</math> (適合度) 検定 (1900年カール・ピアソン) 四つ目表(1904年カール・ピアソン)</p>
<p>第7回 6月2日 まとめ</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>母集団と標本、データの尺度、ヒストグラム、正規分布曲線、データの代表値と散布度、標準化、スピアマンの順位相関関係、4つ目表</p> <hr/> <p>①試験問題は計算になりますが、統計学は「ものの見方、考え方」です。 ②多くの先人の知恵のエキスです。これからの人生を少しでも上手に生きていく糧にしてください。術は一つではありません。自分にふさわしい術を見つけてください。</p>
<p>定期試験</p>	
<p>第8回 総復習</p>	





# 歯周療法学

担当 北村 正博 (実務経験者授業)

主題と目標  
 歯周疾患は、う蝕とともに、歯を失う大きな原因の一つであり、とくにう蝕に比べて高齢者の罹患率が高いことから、高齢化社会を迎えた現在、その予防と治療の重要性に人々の関心も高まってきている。  
 歯周病がどのような病気であるか、原因や進行のメカニズムを理解した上で、どのような予防法、治療法が適切であるかを知ることが大切である。

教科書 最新歯科衛生士教本 歯周疾患 申 基 著 医歯薬出版

参考図書  
 歯槽膿漏の治療とセルフケア 今井久夫著 創元社  
 現代の歯科臨床9 臨床診断 宮地健夫編 医歯薬出版

成績評価の方法  
 定期試験を重視

## 授 業 計 画 (7月～9月)

第1回  
 7月 5日  
 歯周組織の構造・機能  
 【チェックポイント】  
 歯周組織の各部名称と特徴  
 歯肉と歯の付着について  
 歯周組織と咬合  
 歯周組織の名称と健康な歯周組織の状態を理解する。  
 P. 3～19参照。

第2回  
 7月 5日  
 歯周疾患治療の進め方  
 【チェックポイント】  
 歯周疾患の成り立ち (歯肉炎、歯周炎、咬合性外傷)  
 歯周疾患治療の基本  
 原因除去について  
 歯肉炎と歯周炎の違いを理解する。

第3回  
 7月12日  
 診査・診断・初期治療  
 原因因子の診査について  
 (プラーク、歯石、リスクファクター)  
 歯周組織の診査  
 イニシャルプレパレーションについて  
 患者教育について

【チェックポイント】	歯周治療において最も重要なイニシャルプレパレーションについて理解する。
第4回 7月12日 口腔清掃指導 【チェックポイント】	基礎となるモチベーションおよび、各種清掃法について テクニック指導 方法と順序 補助清掃用具と指導法  歯周病と口腔清掃指導の関連性及び重要性を理解してもらう。
第5回 9月6日 スケーリング・ ルートプレーニング 【チェックポイント】	意義と目的（スケーリング・ルートプレーニング） 行う時期、部位、診査法 用いる器具と装置、注意事項、基本原則  スケーリングとルートプレーニングの違いを理解しておくこと。
第6回 9月6日 外科的歯周治療 【チェックポイント】	目的、適応症、禁忌症、使用器具について 炎症、歯周ポケットと歯槽骨、付着歯肉の幅との関係について 各種の外科的歯周治療  適応症と禁忌症を把握し、各術式の概略を理解しておくこと。
第7回、第8回 9月13日 外科的歯周治療 咬合性外傷 衛生士の役割	ビデオ：歯周外科  咬合調整、矯正的治療、固定法、ナイトガードについて メンテナンスについて、リコールについて 一般的歯科衛生士の役割について  臨床の実際をビデオを見て確認する。  メンテナンスの意義、重要性、衛生士としての役割を理解する。
定期試験	
第9回 総復習	

# 小児歯科学

担当 上橋 清美 (実務経験者授業)

<p>主題と目標</p>	<p>小児は単に成人を小型にしたものではなく、母体内の時代から出生、新生児期、乳児期、学童期、思春期といった段階を経て成人に至る。肉体的、精神的、機能的にも著しい成長発育をする時期にある。</p> <p>小児歯科学とは、この成長発育の過程にある小児を対象として顎口腔系器官の正常な発育を見守り、これを障害するう蝕などの早期発見と予防や治療を行い永久歯列が完成するまで管理することを目的としている。</p>
<p>教科書</p>	<p>最新歯科衛生士教本 小児歯科学 大嶋隆 医歯薬出版</p>
<p>参考図書</p>	<p>小歯科カラーアトラス 9 小児歯科学 稗田豊治田著 学健書院 小歯学全書 16 小児歯科学 小歯学全書刊行会編 学健書院 その他「口腔解剖」、「薬理学」</p>
<p>成績評価の方法</p>	<p>定期試験のほか、小テスト・授業態度・出席状況などにて判定</p>
<p>授業計画 (4月～9月)</p>	
<p>第1回 4月13日 一編 1章  【チェックポイント】</p>	<p>小児歯科概論 小児歯科診療と歯科衛生士の役割</p> <p>成長発育期の小児を取り扱う小児歯科において当然この成長発育の基礎すべてを理解しておく。 各年齢ごとの小児の身体的、心理的、機能的などの特性に対応しながら小児を取り扱わなくてはならないことを理解しておく。</p>
<p>第2回 4月20日 2章・3章  【チェックポイント】</p>	<p>心身の発育、小児の生理的特徴</p> <p>各年齢ごとの小児の身体的、心理的、機能的などの特性に対応しながら小児を取り扱わなくてはならないことを理解しておく。</p>
<p>第3回 4月27日 4章・5章</p>	<p>顔面頭蓋の発育  歯の発育とその異常</p>

<p>【チェックポイント】</p>	<p>脳頭蓋と顔面発育の特徴・変化・評価法について覚える。</p> <p>歯の発育の段階と萌出時期 P.40表4-3-1、表4-4-1を参考に覚える。特に乳歯、永久歯の萌出順序は正確に覚える必要があるので整理して覚える。</p>
<p>第4回 5月11日 6章・7章 【チェックポイント】</p>	<p>歯列と咬合の発育と異常 小児の歯科疾患</p> <p>歯間空隙、ターミナルプレーン、リーウエイスペースなどの内容をよく理解すること。 乳歯のう蝕は、永久歯にみられない多くの特徴をもっている のでよく理解した後、乳歯の特徴、永久歯の特徴を比較出来る。</p>
<p>第5回 5月18日 各論1章 【チェックポイント】</p>	<p>小児の特徴と歯科的問題点</p> <p>小児期の歯科的特徴・問題点を説明することができる。</p>
<p>第6回 5月25日 2章 【チェックポイント】</p>	<p>小児歯科における診療体系 咬合誘導 保険装置 定期検診（リコール）</p> <p>小児歯科の診療の特徴・母親教室の目的・乳歯や永久歯の歯冠修復・歯内療法・外科的処置・外傷を説明できる。 定期検診（リコール）を説明できる。</p>
<p>第7回 6月1日 3章・4章 【チェックポイント】</p>	<p>小児歯科における患者の対応法 障害児の歯科治療 障害児の全身的・歯科的特徴 障害とは 障害児の対応 診療介助の基本</p> <p>小児歯科と成人歯科の対応法の違い・小児の情動や考え方・年齢別対応法を説明できる。</p> <p>診療室内での対応 障害児についての分類と、その特徴を理解しておく。 歯科治療時における問題点をあげ、障害児についての理解を深める。 ダウン症、自閉症など、精神機能障害など特に重要である。</p>
<p>第8回 6月8日 Ⅲ編 1章</p>	<p>小児歯科診療における歯科衛生士の役割 診療・診査時の業務</p>

【チェックポイント】	<p>小児歯科衛生士の役割を理解し、診察・検査に必要な器材の準備ができる。</p> <p>医療面接(主訴・現病歴・現症・口腔内診査等)</p>
<p>第9回 6月15日</p> <p>2章</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>う蝕予防 (プラークコントロール、フッ素、フィッシャーシーラント)</p> <p>患者を取り巻く歯科医師、歯科衛生士、患児、母親との相互間と役割を理解しておく。P.91図2-4 参照しておくこと。 予防充填(ピットアンドフィッシャーシーラント)を十分に理解するためP.99参照にしておくこと。 う蝕予防目的だけでなく、一生の健康のため基本的な食生活について指導を行う</p>
<p>第10回 6月22日</p> <p>3章</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>小児歯科診療における診療解除</p> <p>患児は身体的にも心理的にも発達途上にあるため、年齢的にその行動にも特性があることを知っておく。 それらのルールを無視すれば患児の取り扱いに失敗することを理解しておく。</p>
<p>第11回 7月6日</p> <p>4章</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>小児の口腔保健管理 口腔診査事項</p> <p>患児だけでなく保護者への説明と指導 リコールの患児への年齢区分に応じた口腔保健管理の時期と内容を説明する</p>
<p>第12回 7月13日</p> <p>5章</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>歯科診療室と器材の管理</p> <p>各年齢ごとに薬剤の処方方を考慮して投薬しなくてはならない。 小児の薬用量の算定法を理解しておく。「薬理学」参照。 定期検診は、第一に保護者への説得が必要で、母親教室などを通じて動機づけが必要である。 障害児についての分類と、その特徴を理解しておく。 歯科治療時における問題点をあげ、障害児についての理解を深める。 ダウン症、自閉症など、精神機能障害など特に重要である。</p>
<p>第13回 9月7日</p>	<p>小児歯科における患児への対応・歯科疾患について</p>
<p>第14回 9月14日</p> <p>総まとめ</p>	<p>基礎知識・臨床的な手技の復習・補充を行う</p>



# 口腔外科学

担当 小野 雄大 (実務経験者授業)

主題と目標	口腔外科とは、歯科医学、歯科医療の一部門であるが、その中で最も医科的要素の強い部門でもある。従って診療補助者としての歯科衛生士には口腔外科における諸種の疾病や治療、手術などの理解と知識と共に基礎医学の知識が必要である。また口腔外科でいかなる役割を果たし補助すべきかを知らなければならない。	
	今日では歯科医師の職務は、単に歯の健康管理ではなく、より広く口腔全体の健康管理にあずかるものとなっている。	
	教科書	最新歯科衛生士教本 口腔外科学・歯科麻酔学 医歯薬出版
	参考図書	歯科衛生士マニュアル 口腔外科学 梶山稔他著 クインテッセンス出版
	成績評価の方法	評価は定期試験、出席状況などにより判定
	備考	試験は○×式、線結び、記述式で行う。
授業計画 (4月～9月)		
第1回 4月11日 唾液腺疾患 【チェックポイント】	流行性耳下腺炎 唾石症  口腔に現れる特異的な疾患について理解しておくこと。 P. 79～91を読んで把握する。	
第2回 4月18日 口腔領域の神経疾患 【チェックポイント】	三叉神経痛 顔面神経麻痺  口腔に現れる神経疾患について理解しておくこと。 P. 79～91を読んで把握する。	

<p>第3回 4月25日 血液疾患と出血性素因</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>白血病                      血友病</p> <hr/> <p>初発症状が口腔病変として現れる血液疾患について理解しておくこと。 P. 79～91を読んで把握する。</p>
<p>第4回 5月9日 診療と診断</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>診察と診断の過程における歯科衛生士の役割</p> <hr/> <p>どのような手順で情報が収集され総合診断が行われるのか、そのための歯科衛生士の役割について理解しておくこと。 P. 97～106 を読んでおくこと。 P. 105の図1-8参照しておくこと。</p>
<p>第5回 5月16日 診療と診断</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>診療の実際</p> <hr/> <p>どのような手順で情報が収集され総合診断が行われるのか、そのための歯科衛生士の役割について理解しておくこと。 P. 97～106 を読んでおくこと。 P. 105の図1-8参照しておくこと。</p>
<p>第6回 5月23日 滅菌と消毒</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>滅菌と消毒の意義を学ぶ 手術器材の滅菌と消毒法の概念からその実際について学ぶ</p> <hr/> <p>滅菌・消毒の概念からその実際について方法などを理解しておく。 P. 107～114を読んでおくこと。 P. 109の表2-1参照しておくこと。</p>
<p>第7回 5月30日 滅菌と消毒</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>手指の消毒にあたっての注意 手術野の消毒 院内感染防止</p> <hr/> <p>滅菌・消毒の概念からその実際について方法などを理解しておく。 P. 107～114を読んでおくこと。 P. 109の表2-1参照しておくこと。</p>



<p>第8回 6月6日 抜歯術</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>適応症と禁忌症を学ぶ 器材の準備（特徴、使用目的、保存法を把握）</p> <hr/> <p>抜歯は、口腔外科で行われる最も頻度の高い外科手術であり器材、手順などを理解する。 P. 109 ～131を読んでおくこと。</p>
<p>第9回 6月13日 抜歯術</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>抜歯の実際と介助</p> <hr/> <p>抜歯は、口腔外科で行われる最も頻度の高い外科手術であり器材、手順などを理解する。 P. 109 ～131を読んでおくこと。</p>
<p>第10回 6月20日 口腔外科小手術</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>歯槽整形および骨瘤除去手術の診療補助内容を学ぶ 口腔インプラント 切開、排膿の手術</p> <hr/> <p>抜歯以外の小手術について器材や手順などを理解するために P. 132 ～155を読んでおくこと。</p>
<p>第11回 6月27日 口腔外科小手術</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>嚢胞摘出術 歯および歯槽骨外傷の処置 口腔出血に対する処置</p> <hr/> <p>抜歯以外の小手術について器材や手順などを理解するために P. 132 ～155を読んでおくこと。</p>

<p>第12回 7月 4日 歯科麻酔と歯科衛生士</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>術者、介助者として知っておくこと 全身評価 ストレスに対する生体の反応 バイタルサインの意味と見方</p> <hr/> <p>麻酔とは単に無痛状態をつくるだけでなく患者の全身管理をし、生命の安全を確保する学問であることを知っておく。 P. 159 ~165を読んでおくこと。</p>
<p>第13回 9月 5日 麻酔法</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>局所麻酔の準備と患者管理 精神鎮静法・笑気吸入鎮静法の準備実施 全身麻酔の概念、種類、器材、器具、薬剤などを学ぶ</p> <hr/> <p>局所麻酔方法や偶発症について安全で快適な歯科治療を行うための精神鎮静法について理解しておく。 P. 166 ~189を読んでおくこと。</p>
<p>第14回 9月12日 精神鎮静法</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>全身的偶発症の原因と種類 救急蘇生法 血管確保P. 181 ~189</p> <hr/> <p>局所麻酔方法や偶発症について安全で快適な歯科治療を行うための精神鎮静法について理解しておく。 P. 166 ~189を読んでおくこと。</p>
<p>定期試験</p>	
<p>第15回 総復習</p>	

## 歯周病予防法Ⅱ

担当 森野 愛

主題と目標	歯科衛生士は、歯科医師の指示を的確に把握し判断できる能力と、対面行為が行える手技
	を身につけていなければならない。これは歯科衛生士が、歯科予防処置として予防的歯石除去法を臨床の場で、即実践力として行えることを目標とする。また歯石除去のテクニックの
	体得のみならず、口腔観察を行うときのポイントを把握するという視点から、歯・歯肉などの知識および処置の内容・器材・消毒法など実習で技術を習熟する。
教科書	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 医歯薬出版
参考図書	スケーリング 歯石の探知と除去 石川達也監訳 中山吉成著 医歯薬出版 シャープニング スマートに鋭く 伊藤輝夫監訳 国崎 拓訳 クインテッセンス出版
成績評価の方法	評価は、単元テスト、小テスト、提出物、出欠状況、+αで総合的に判定する。
備考	試験は、記述式・〇×式・線結びで行う。
授業計画 (4～9月)	
第1回 相互実習の基礎知識1	相互実習の基礎知識 マニキン実習との違い 人間に対する配慮
第2回 相互実習の基礎知識2 【チェックポイント】	感染予防 消毒・滅菌方法 滅菌器具の取り扱いに気をつけ、何が不潔に当たる行為であるのか気を配れるように予習しておくこと。
第3回 相互実習の基礎知識3 【チェックポイント】	ヒヤリハット防止対策・対処法 ヒヤリハットの事例と防止策について頭に入れておく。
第4回 相互実習の基礎知識4 【チェックポイント】	歯面清掃・歯面研磨 歯面研磨方法 手指消毒→器具類の準備→患者誘導→チェアへのセッティング →指示群口腔内清掃→操作→歯面研磨→口腔内清掃→終了
単元テスト	
第5回 相互実習の基礎知識5 【チェックポイント】	チェア操作と留意点 生体に対する操作であるので、細心の注意を払うこと。チェア操作を早く覚えることがポイントとなる。

第6回 口腔内所見1 【チェックポイント】	口腔内所見  歯垢、歯石、歯肉の状態など健康な状態と比較し、見分けられるようにする。
第7回 口腔内所見2	第6回参照
第8回 超音波スケーラー 【チェックポイント】	超音波スケーラーの特徴 超音波スケーリングの方法 手用スケーラーとの比較、禁忌症と適応症、 使用角度と禁忌角度、圧力、操作法  手用スケーラーと超音波スケーラーの違いと禁忌症は暗記しておくこと。 P.159～182参照しておくこと。
第9回 エアスケーラー 【チェックポイント】	エアスケーラーの特徴 エアスケーラーによるスケーリング方法 欠点と利点、使用上の注意事項、操作法
第10回 シャープニング 【チェックポイント】	シャープニングに用いる器材 シャープニングの方法  砥石と潤滑剤の組合せについて頭に入れる。
単元テスト	
第11回 プローピング1 【チェックポイント】	プローブの種類、診査の目的 プローブを選ぶ条件、測定法 測定部位、測定時間、グラフの書き方 測定時の注意事項  プローブにかける力は25gぐらいなのであまり強く挿入しないこと と歯列に沿って入れるようにする。歯周ポケットとは何かも理解しておく。 P.32～38、122～126(教科書。以下同じ)を参照しておくこと。
第12回 プローピング2 【チェックポイント】	(歯周ポケット) (コンタクトポイント診査) 人工歯周ポケット作製 基本位置 プローブの挿入方法 グラフ作製 基本位置 グラフ作製 グラフの読み取り  固定をしっかりとすること。また患者さんの顔の上下、傾斜 にも気を配り、目盛りの見やすい位置を体得しておくこと。
単元テスト	

## 歯周病予防法実習Ⅱ

担当 森野 愛

主題と目標	歯科衛生士は、歯科医師の指示を的確に把握し判断できる能力と、対面行為が行える手技を身につけていなければならない。これは歯科衛生士が、歯科予防処置として予防的歯石除去法を臨床の場で、即実践力として行えることを目標とする。また歯石除去のテクニックの体得のみならず、口腔観察を行うときのポイントを把握するという視点から、歯・歯肉などの知識および処置の内容・器材・消毒法など実習で技術を習熟する。	
	教科書	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 医歯薬出版
	参考図書	スケーリング 歯石の探知と除去 石川達也監訳 中山吉成著 医歯薬出版 シャープニング スマートに鋭く 伊藤輝夫監訳 国崎 拓訳 クインテッセンス出版
	成績評価の方法	評価は、実技試験、提出物、出欠状況、+αで総合的に判定する。
備考	試験は、実技形式で行う。	
授業計画 (4～9月)		
第1回 チェア操作 【チェックポイント】	チェア各部の名称 各チェアの操作方法 メインスイッチ、チェア動作、ライト、洗口、コントラなどについて操作方法を頭に入れる。	
第2回 相互実習の手順 【チェックポイント】	相互実習の流れ 滅菌器の取り扱い 生体に対する操作であるので、細心の注意を払うこと。チェア操作を早く覚えることがポイントとなる。 また、滅菌器具の取り扱いに気をつけ、何が不潔に当たる行為であるのか気を配れるように予習しておくこと。	
第3・4回 鎌型スケーリング相互実習1・2 【チェックポイント】	前歯部のスケーリング 手順を頭に入れることも大切だが、返事や患者さんに対する言葉がけを大きな声で行うことに早く慣れる。 ミラーで見ることは難しいので、歯頸部を傷つけないように慎重に操作できるように、顎模型で練習しておくこと。	
第5・6回 鎌型スケーリング相互実習3・4 【チェックポイント】	24～27歯スケーリング 臼歯部は頬粘膜をしっかりと排除する。そのためには、ミラートップのミラー面を上を使うこと。 ライティングが難しいので施術部とライトを結び、線を意識し術者の影にならないように注意を払う。	
第7・8回 歯面研磨相互実習 【チェックポイント】	相互での歯面研磨 コントラアングルハンドピース、ストレートハンドピースそれぞれの使用法とフットコントローラーの取り扱いについて予習しておく。	

第9・10回 鎌型スケーリング相互実習5・6  【チェックポイント】	14～17歯スケーリング 患者への対応、固定点(第三指固定)、ライティング ミラーテクニック(頬粘膜・舌排除)、基本位置、姿勢  スケーラー番号の確認、器具類の受け渡し 最後臼歯部はミラーに頼った操作になるので指先に集中し触覚を使って、始点・終点をはっきりさせた操作を行えるように練習しておくこと。
第11・12回 鎌型スケーリング相互実習7・8  【チェックポイント】	34～37歯スケーリング  術者は操作に集中するあまり姿勢が悪くなりやすい。患者さんへの負担にならないように気をつけること。
第13・14回 鎌型スケーリング相互実習9・10  【チェックポイント】	44～47歯スケーリング  ミラーテクニック(頬粘膜排除・投影)、基本位置、姿勢 スケーラー番号の確認、アシスタントの動作 最後臼歯の操作法と刃先の向き
第15・16回 鎌型スケーリング相互実習復習  【チェックポイント】	全顎スケーリング苦手部位の復習 二人一組になり術者役、患者役となって行う。 対照群は前歯部・臼歯部についてそれぞれ1群ずつ指示を出す。 四原則・使用スケーラー・対象群・ミラーテクニック・刃先の向き・ 固定点・患者の顔の傾斜・ライティング スケーリングを行う姿勢にも注意して受けること。
第17・18回 キュレット相互実習1・2	前歯部のスケーリング
第19・20回 キュレット相互実習3・4	14～17歯、24～27歯スケーリング
第21・22回 キュレット相互実習5・6	34～37歯、44～47歯スケーリング
第23・24回 バキューム実習1・2  【チェックポイント】	バキュームの把持法 バキュームチップの向き  バキュームチップの向きにこだわらず、常に歯列に平行に向 けられるようにまわす。舌の排除は舌をすくい上げるようにす ると排除しやすいので練習しておくこと。
第25・26回 バキューム実習3・4  【チェックポイント】	バキュームの挿入方法 バキュームの位置取り  バキューム曲の場合、脇があがらないようにしないと力が入 らないので気をつける。また、チップは歯肉に当てると痛いので少し浮かせるよう練習しておくこと。
第27・28回 超音波スケーラー相互実習1・2  【チェックポイント】	前歯部のスケーリング  手用スケーラーと超音波スケーラーの違いと禁忌症は暗記しておくこと。 P.159～182(教科書。以下同じ)参照しておくこと。

第29・30回 超音波スケーラー相互実習3・4 【チェックポイント】	24～27歯スケーリング 使用角度、操作、操作法と圧力、固定点、ミラーテクニック バキューム、ライティング 相互実習ということで、患者の立場を理解するよい機会である。操作の予習をしていくこと。
第31・32回 超音波スケーラー相互実習5・6 【チェックポイント】	14～17歯スケーリング 操作法、バキュームテクニック、圧力、バキューム操作 固定点、前歯部をスケーリングする際、水が飛びやすいのでどのようにすれば操作しやすいか読んでおくこと。
第33・34回 超音波スケーラー相互実習7・8 【チェックポイント】	34～37歯スケーリング 操作法、ライティング、圧力、使用角度、ミラーテクニック 固定点、バキューム操作、ライティング 相互実習の場合、歯石がついていない口腔内で練習するため知覚過敏や充填物には細心の注意が必要のため禁忌症を復習しておく。 P.165参照しておくこと。
第35・36回 超音波スケーラー相互実習9・10 【チェックポイント】	44～47歯スケーリング 固定点 基本姿勢 ミラーテクニック 実施群 ライティング 刃先の向きを復習しておくこと。
第37・38回 超音波スケーラー相互実習試験 【チェックポイント】	三人または四人グループで術者役・アシスタント役・患者役を設定し、進める。実施する歯牙は、上顎・下顎を行う。 ・超音波スケーラー、エアースケーラーの違い ・超音波スケーラー、エアースケーラーの利点、欠点、禁忌症 ・バキュームの目的
第39・40回 プロービング相互実習1・2 【チェックポイント】	相互によるプロービング値の計測 プローブにかける力は25gぐらいなのであまり強く挿入しないことと歯列に沿って入れるようにする。歯周ポケットとは何かも理解しておく。 P.32～38、122～126を参照しておくこと。
第41・42回 プロービング相互実習3・4 【チェックポイント】	コンタクトポイント測定 プロービング値の測定と記入 ミラーを有効に使い、目盛りを読んだらアシスタントにわかりやすく伝える。測定している歯牙がわかるように大きな声で伝える。





う蝕予防処置法	
担当 川上 心	
主題と目標	<p>歯科衛生士の使命は、歯科疾患の予防及び口腔衛生の向上を図ることを目的としている。その具体的な仕事は、歯及び口腔の疾患の予防処置として、歯の付着物・沈着物を機械的操作によって除去したり、歯や口腔に対して必要な薬物を塗布し、さらに歯科診療の補助を行う。</p> <p>この中のう蝕予防処置について、処置の種類と歯科衛生士が行う範囲、各々の処置法の概要をまず理解することを目標とする。</p> <p>さらにう蝕予防機序、安全性や取り扱い上の注意などを学ぶ。</p>
教科書	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版
参考図書	新歯科衛生士教本 口腔衛生学・歯科衛生統計 石川俊文他著医歯薬出版 う蝕と歯周疾患—その基礎から臨床まで— 森政和他編 学健書院
成績評価の方法	評価は、単元テスト、小テスト、実技試験、提出物、出欠状況、 $\alpha$ で総合的に判定する。
備考	試験は、記述式・ $\times$ 式・線結びで行う。
授業計画 (4月～9月)	
第1、2回 基礎知識①  【チェックポイント】	<p>う蝕予防処置法とは う蝕予防処置法の目的 健康増進のための五段階における位置 う蝕予防処置法の種類 歯科衛生士の業務範囲(フッ化物の局所応用、鍍銀法の応用、小窩裂溝填塞法の応用) 専門処置の五段階における位置を理解しておくこと。 う蝕と微生物との関連について理解しておくこと。 「微生物学JP.123～を参照 ブラークの病原性について理解しておくこと。 「微生物学JP.133参照にしておくこと。 フッ化物溶液の局所塗布法、小窩裂溝填塞法について Keyesの輪とNewbrunの輪の要因を復習しておくこと。</p>
第3、4回 基礎知識②  【チェックポイント】	<p>う蝕活動性試験とは う蝕活動性試験法による分類 (唾液、ブラーク、歯を検体とするもの) う蝕活動性試験法に要求される条件 う蝕活動性試験法の応用上の注意点 スクリーニング手法のう蝕予防処置法への応用</p> <p>う蝕活動性試験の概要については、表にまとめている。 「歯科予防処置論JP.118を参照 う蝕活動性の意義について予習しておくこと。 ブラーク中のpH測定の中にあるステファンカーブを理解しておくこと。</p>
【単元試験】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康増進のための五段階・フッ化物応用</li> <li>・フッ化物塗布後の保健指導・フッ化物応用の時期</li> </ul>

<p>第5、6回 基礎知識③ 【チェックポイント】</p>	<p>フッ素の急性中毒と慢性中毒(骨硬化症と歯牙フッ素症) 急性中毒・悪心嘔吐発現溶液量の算出法</p>
<p>第7回 基礎知識④ 【チェックポイント】</p>	<p>急性中毒・悪心嘔吐発現溶液量の計算 フッ化物のう蝕予防効果 フッ化物のう蝕抑制機構 悪心嘔吐量、致死量を覚え、計算できるようにする。 う蝕予防処置の種類を言えるようにしておくこと。</p>
<p>第8回 集団応用 【チェックポイント】</p>	<p>集団応用の特徴を理解する 地域歯科保健活動における現場活動 集団応用に用いられるう蝕予防処置法の種類 集団応用の進め方 薬液の取り扱い方 集団応用実施のための打ち合わせの内容 打ち合わせ相手 フッ化物局所塗布法に使用する薬液の濃度を覚える。</p>
<p>【単元試験】</p>	<p>総まとめ試験</p>
<p>※【小テスト】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鍍銀法の適応症、一般的注意事項、う蝕抑制機構</li> <li>・小窩裂溝填塞の術式、適応症、酸処理について</li> <li>・う蝕活動性試験について</li> </ul>

# う蝕予防処置法実習

担当 川上 心

う蝕予防処置法  
実習

主題と目標	<p>歯科衛生士の使命は、歯科疾患の予防及び口腔衛生の向上を図ることを目的としている。その具体的な仕事は、歯及び口腔の疾患の予防処置として、歯の付着物・沈着物を機械的操作によって除去したり、歯や口腔に対して必要な薬物を塗布し、さらに歯科診療の補助を行う。</p> <p>この中のう蝕予防処置について、処置の種類と歯科衛生士が行う範囲、各々の処置法の概要をまず理解することを目標とする。</p> <p>さらにう蝕予防機序、安全性や取り扱い上の注意などを学ぶ。</p>
教科書	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版
参考図書	新歯科衛生士教本 口腔衛生学・歯科衛生統計 石川俊文他著医歯薬出版 う蝕と歯周疾患—その基礎から臨床まで— 森政和他編 学健書院
成績評価の方法	評価は、単元テスト、小テスト、実習態度、提出物、出欠状況、 $\alpha$ で総合的に判定する。
備考	試験は、記述式・ $\times$ 式・線結びで行う。
授業計画 (4月～9月)	
<p>第1回 フッ化物局所塗布法</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>フッ化物溶液(2%NaF溶液・APF)の作り方デモンストレーション 綿球・綿棒に含まれる溶液量の確認 材料を作製し溶液1ml当たりの個数を調べ一個当たりの溶液量を調べる フッ化物溶液・ゲルの味の確認 2%NaF溶液・APF・フッ化物ゲルについて確認 それぞれのチェック表に記入する 実習までに、フッ化物溶液の手順を読み、作製するための必要な器具の名前を確認しておくこと。 味の確認をしたら、その時の感想を細かくリポートしておく グループにわかれ術者役と患者役になる</p>
<p>第2回 フッ化物塗布</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>綿球塗布法の術式・フッ素塗布後の保健指導の復習 歯列を上下左右に四分割する 一分割ずつ防湿から防湿除去まで繰り返し行う フッ化物溶液綿球で一分ごとに三回塗布し、三分間そのままにしておく。(2%NaF溶液使用) チェック表を作製し実習終了後、感想表を提出する フッ化物溶液と唾液が混ざらないように、防湿を確実に行うこと。 また、術式を理解しておくこと。 (唾液が混ざったら、乾燥から再度やり直す)</p>
<p>第3回 フッ化ジアンミン銀・ 小窩裂溝填塞</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>講義 フッ化ジアンミン銀 小窩裂溝填塞法 フッ素の作用機序と適応症 酸処理の目的 手段・術式・安全性 填塞効果 塗布効果 手段・術式・安全性 塗布後の注意事項 適応症 以上について知識を深め、安全性を考える フッ化ジアンミン銀については、濃度、適応症、作用機序を把握しておくこと。 小窩裂溝填塞法は、酸処理(エッチング)の手順、作用や塗布時間を理解しておくこと。 ・急性中毒量 ・急性中毒の処置法 ・悪心嘔吐発現量の計算 ・う蝕抑制機構</p>

<p>第4回 フッ化ジアンミン銀 塗布法</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>抜去歯を用いてフッ化ジアンミン銀の塗布を行う 歯面への銀沈着、浸透状態について観察する 手指・布へ誤って薬液がついてしまった場合の処理方法 両手の中指の腹、二枚の白布を用いて片方ずつフッ化ジアンミン銀を塗布し、すぐ水洗する もう片方は塗布したらそのまま放置し、水洗する 両方を照らし合わせ状態を観察する 実習前に手順を把握し、脱色に使用する薬液を理解しておく</p>
<p>【単元試験】</p>	
<p>第5回 フッ化ジアンミン銀 塗布法</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>相互実習 三人一組となり、術者・アシスタント・患者を設定 術式・安全性を理解し、下顎小臼歯にフッ化ジアンミン銀を塗布し味覚の確認を行う 塗布後の患者指導ができるようにする 処置歯以外に薬液が触れないように、十分気をつけ塗布しておくこと。 味覚の確認を行うことで、患者さんの気持ちを理解しておく</p>
<p>第6回 小窩裂溝填塞</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>抜去歯を用いて小窩裂溝填塞を行う 酸処理を行う目的を理解し酸処理の有無の違いを知る 抜去歯の断面を金属顕微鏡を用いて観察する エッチングを行った部分としていない部分の差を観察する。 咬合状態が少し変わるため、填塞材を裂溝に盛りすぎない。 筆に填塞材が付きすぎた時は、余分な填塞材をぬぐうなど、目的・器具・材料・実施方法を理解しておくこと。</p>
<p>第7回 小窩裂溝填塞</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>相互実習 三人一組となり、術者・アシスタント・患者を設定 術式を理解し、下顎小臼歯に小窩裂溝填塞を行う 填塞後の患者指導ができるようにする エッチング後、唾液が触れないように舌や頬粘膜を排除する 脱落防止のため十分な乾燥をしておく。 填塞した時に填塞材が多かった場合、綿球で除去する。</p>
<p>【単元試験】</p>	
<p>第8回 集団応用の実習計画 原稿作成</p>	<p>綿球、イオン導入法の実習計画を立てる 決定事項 各係りの人数と役割 手順各係の配置 指導内容 塗布時間や各係りの持ち時間の設定 指導内容 準備物</p>
<p>第9回 ロールプレイング (綿球塗布法) 【チェックポイント】</p>	<p>条件設定 実習時間は四十分程度 受付では問診を行う フッ化物応用後の指導は必ず行う</p>
<p>第10回 ロールプレイング 【チェックポイント】</p>	<p>患者・保護者の二人一組になる 機械の取り扱い説明 条件設定 対象人数は一グループ:五人程度 患者の対象年齢は小学生低学年実習時間は三十分程度 フッ化物応用後の指導は個別に行う</p>
<p>【単元試験】</p>	<p>総まとめ試験</p>

歯科保健指導Ⅱ (7回)		担当 神田智子
主題と目標	食生活は健康な生活活動を継続していく上で基本になるものである。	
	歯科での臨床の場で食生活上の改善を必要とする対象者に対し系統的かつ科学的な指導を行えることが目的である。	
	そのためには栄養学を基盤としているが、知識だけでなく具体的な指導方法を身に付けるために、食生活の実践、習慣化と食品の関係 ライフステージごとに指導のポイントについてあらゆる方向から学ぶ。	
教科書	最新 新歯科衛生士教本 歯科保健指導 2版 全国歯科衛生士教育協議会編集	医歯薬出版
	最新歯科衛生士教本 口腔保健管理 全国歯科衛生士教育協議会編集	医歯薬出版
	最新歯科衛生士教本 栄養と生化学 全国歯科衛生士教育協議会編集	医歯薬出版
参考図書		
成績評価の方法	試験は、単元試験・実習レポート・受講態度（出席状況）などを総合的に判断する。	
備考		
授業計画 (10月～3月)		ポストテスト
第2版教科書P44～P84 第1回 3章 食生活指導のための基礎知識 42 ※学習の到達目標 ・現代の食生活の問題点を説明できる ・生活習慣病と食生活の関連について記述できる	①-国民の健康と栄養の現状 1. わが国における国民の健康課題 1) 国民健康、栄養の現況 2) 肥満とやせの状況 3) 高齢者の低栄養 2. エネルギー・栄養素・食品摂取の変遷 2 1) エネルギー摂取量と栄養素摂取量の変化 2) 食塩の摂取量 3) カルシウムの摂取量 4) 野菜・食物繊維の摂取量 5) 料理・食事パターンと個人の食行動の多様性 3. 近年の食生活の特徴 食品ロス 1) 若年層に目立つ朝食欠食 2 2) 減らない“コ”食 3) 増えた外食、増え続ける中食	<input type="checkbox"/> 肥満の目安になるのはBMIが30以上である <input type="checkbox"/> 脂質の望ましい脂質エネルギー比率は20～25%である <input type="checkbox"/> 食塩の目安量は7.5g/日@8g/日である <input type="checkbox"/> 食塩は脳卒中や心血管疾患の誘因となる <input type="checkbox"/> 塩分量が高いのは発酵食品である <input type="checkbox"/> 高齢者は塩味が感じやすい <input type="checkbox"/> ビタミンミネラルの中で日本人が不足しているのはカルシウムである <input type="checkbox"/> カルシウム不足は骨粗鬆症高血圧動脈硬化の原因になる <input type="checkbox"/> 健康21での野菜の摂取量は1日450gである <input type="checkbox"/> 食生活指針での課題は子供は朝食欠食 若年女性は肥満である <input type="checkbox"/> 国民健康・栄養調査の法的根拠は健康増進法である <input type="checkbox"/> 健康日本21で栄養食生活については生活の質、社会環境の質の向上である <input type="checkbox"/> 中食と家庭外で食事をすること
第2回 食べ物と健康 栄養の教科書使用 P204～210 ※学習の到達目標 ・バランスガイドを理解し自分の食生活について管理する ・バランスの良い食生活を送るための知識を理解する	・国民健康づくりにおける食生活改善の取り組み～P195 ・食品の成分と分類 ・食事計画に用いる食品分類 (バランスガイド) ・食べ物の物性 (美味しくテクチャー) ・食事計画に用いる食品分類 (バランスガイド) ①食品についての分類法について学ぶ (3色分類・4つの食品群 6つの食品群) ②それぞれの食品が主として5大栄養素との関係を理解する ③バランスガイドについて目的と区分方法を暗記する ④特保 栄養補助食品の効能や法律を理解する ⑤食べ物の物性について理解する	<input type="checkbox"/> バランスガイドのコマの軸はお菓子である <input type="checkbox"/> バランスガイドの主菜は炭水化物の供給源である <input type="checkbox"/> バランスガイドのコマを回すのは運動である <input type="checkbox"/> 特定対象者の治療、健康増進の特別用途を目的にする食品を特定保健食品という <input type="checkbox"/> 特定用途食品は内閣総理大臣 (消費者長官) の認可を受けなければならない <input type="checkbox"/> 食育基本法の内容は伝統的な食文化についてや食品の安全性などである <input type="checkbox"/> 幼児や児童を対象にしたのが6色分類である <input type="checkbox"/> 6つの基礎食品で1類はタンパク質 3類はビタミンCの供給源となる <input type="checkbox"/> 料理は主食 副菜 主菜の順で決める <input type="checkbox"/> 5つの基本味は甘味 塩味 酸味 苦味 辛味である <input type="checkbox"/> 食品の物理的性質による評価はテクチャーであらわされる
レポート 栄養指導 食生活把握法	自分の記録した食事リストをもとに食生活を見直す 今後の食生活においての自分の課題を見つける	★目的と方法 ①自分の食生活実態を知る ②3日間の食事を書き出した物を表に転記する ③3日間の食事記録をもとに 3色分類 6つの食品群 バランスガイドにより自分の食生活を分析する ④自分の食生活について改善点に気づき実践方法を学ぶ
第3回 栄養指導法① ライフステージ別 栄養と調理 (妊婦 授乳期) ※学習の到達目標 妊娠に伴う体の変化を理解する	4. 妊産婦の栄養 1) 妊娠の特徴と栄養 2) 授乳期の特徴と栄養 5. 妊娠期と授乳期の食事基準量 6. 妊娠期と授乳期の食生活指導 1) 妊娠期 2) 授乳期	<input type="checkbox"/> 胎児のエナメル質の形成に必要なのはビタミンDである <input type="checkbox"/> 授乳期のn-3系脂肪酸は母乳の構成成分である <input type="checkbox"/> 離乳は1年ごろから始める <input type="checkbox"/> 妊娠中期とは28～38週をいう <input type="checkbox"/> 空腹状態にならない食事の少量頻回摂取取りわり対策である <input type="checkbox"/> 低体重児とは出生体重が2500グラム以下である
栄養指導法② ライフステージ別	・乳児期の栄養 ・離乳期の栄養摂取 ・乳児期の食事摂取基準量 ・乳児期の食生活指導	<input type="checkbox"/> 離乳は口唇食べ期 舌くき食べ期 舌食べ期 歯食べ期の順で行う <input type="checkbox"/> 1日3食になるのは生後9カ月ころからである <input type="checkbox"/> しつけとして1才ごろから手づかみ食べはさせてはいけない

<p>栄養と調理（乳児）</p> <p>★学習の到達目標</p> <p>身体と口腔の発育状態を説明できる</p>	<p>2) 離乳の中期 3) 離乳の後期 4) 離乳の完了期</p> <p>Coffee Break 1) 離乳の意義 2) 離乳食の進め方の目安</p> <p>哺乳反射 授乳・離乳の支援ガイド イオン飲料と虫歯</p>	<p><input type="checkbox"/> 摂食時の口角の動きは片側から交互に収縮出来てから左右同時に伸縮する</p> <p><input type="checkbox"/> 生後9か月ころから鉄分が減少するので離乳食に赤身の魚などを取り入れる</p> <p><input type="checkbox"/> 哺乳反射は3か月ごろには消失する</p> <p><input type="checkbox"/></p>
<p>第4回</p> <p>栄養指導法③</p> <p>ライフステージ別</p> <p>栄養と調理</p> <p>(幼児学童期)</p> <p>★学習の到達目標</p> <p>学童期の身体と口腔内の変化に応じた目標を説明できる</p>	<p>・ 幼児期の食生活の特徴と栄養</p> <p>・ 間食</p> <p>・ 幼児期の食事基準量</p> <p>・ 幼児期の食生活指導 Coffee Break 食育推進基本計画</p> <p>・ 学童期の食生活の特徴と栄養</p> <p>・ 学童期における食育の重要性</p> <p>・ 学童期の食事摂取基準</p> <p>・ 学童期の食生活指導</p>	<p><input type="checkbox"/> 間食の摂取エネルギーは3歳児で1日の摂取エネルギーの20～30%にする</p> <p><input type="checkbox"/> 幼児の偏食が始まるのは2才ごろからである</p> <p><input type="checkbox"/> 成人の2～3倍とらなければならぬ栄養素はタンパク質鉄Ca脂質である</p> <p><input type="checkbox"/> 孤食とは子供が一人で食事をすることである</p> <p><input type="checkbox"/> 食育では子供たちが食を選択する力を習得させることが大切であると考え</p> <p><input type="checkbox"/> 青年期の特に女性に欠乏しやすいのはビタミンB1である</p> <p><input type="checkbox"/></p>
<p>第5回</p> <p>栄養指導法④</p> <p>ライフステージ別</p> <p>栄養と調理</p> <p>(青年 成人期)</p> <p>★学習の到達目標</p> <p>青年期の問題点を理解する</p> <p>生活習慣病予防のポイントを説明できる</p>	<p>・ 青年期の食生活の特徴と栄養</p> <p>・ 青年期の食事摂取基準</p> <p>・ 青年期の食生活指導</p> <p>・ 成人期の食生活の特徴と栄養</p> <p>・ 成人期の食事摂取基準</p> <p>・ 成人期の食生活と指導</p> <p>・ 生活習慣予防と栄養指導</p>	<p><input type="checkbox"/> 生活習慣病に関係している栄養素はタンパク質である</p> <p><input type="checkbox"/> 高血圧に関係しているのは塩分摂取量である</p> <p><input type="checkbox"/> 心筋梗塞や糖尿病狭心症肺炎に関係する口腔疾患は歯肉炎である</p> <p><input type="checkbox"/> 歯周病のリスクファクターは喫煙 過度の飲酒 運動不足である</p> <p>■歯周病のリスクファクターについて次のうち環境因子はどれか</p> <p>①喫煙 ②免疫反応 ③プロフィロモナスジンジバリス ④ストレス ⑤ブラキシズム</p> <p>■ブラークリテンションファクターを挙げその理由を述べよ P347</p>
<p>第6回</p> <p>栄養指導法⑤</p> <p>ライフステージ別</p> <p>栄養と調理</p> <p>(高齢期)</p> <p>★学習の到達目標</p> <p>低栄養の評価方法とその原因を理解している</p>	<p>・ 老年期の食生活の特徴と栄養</p> <p>・ 高齢者の低栄養の要因</p> <p>・ 老年期の食事摂取基準</p> <p>・ 老年期の食生活指導</p> <p>・ 摂食嚥下障害と栄養</p>	<p>★老年期の加齢に起こる食生活の変化で正しいものに○をつけなさい</p> <p><input type="checkbox"/> 嚥下力の低下 — むせ つかえ</p> <p><input type="checkbox"/> 唾液の分泌量の減少 — 消化不良</p> <p><input type="checkbox"/> 食欲の低下 — 便秘</p> <p><input type="checkbox"/> 味覚の低下 — 塩分の取りすぎ</p>
<p>第7回</p> <p>栄養指導法⑥</p> <p>ライフステージ別</p> <p>栄養と調理</p> <p>(要介護者 障害者)</p> <p>★学習の到達目標</p> <p>オーラルフレイルについて説明できる</p> <p>予防方法を説明できる</p>	<p>・ 要介護高齢者の食生活の特徴と栄養</p> <p>・ 要介護高齢者の食生活指導</p> <p>・ 摂食嚥下障害と栄養</p> <p>・ 障害児者の食生活の特徴と栄養</p> <p>◎摂食嚥下障害に対する予防法や実践力を学ぶ</p> <p>1) 摂食嚥下障害を知ろう！</p> <p>2) のみこむ、食べるのメカニズム</p> <p>3) 経口摂取開始の条件を学ぼう！</p> <p>4) さまざまな訓練法</p> <p>5) 口腔ケアについて</p>	<p><input type="checkbox"/> 介護保険の二次予防事業は一般高齢者に対する施策である</p> <p><input type="checkbox"/> 要介護者の口腔状態悪化に関係する疾病にシェーグレン症候群がある</p> <p><input type="checkbox"/> 障害高齢者の日常生活自立度の判定基準は5段階に分かれている</p> <p><input type="checkbox"/> 介護保険法の改正でサービスの提供が行われるようになったのは医療費である</p> <p><input type="checkbox"/> 口腔機能を向上することで期待できることは生活機能の低下防止である</p> <p><input type="checkbox"/> 嚥下機能訓練にはアイスマッサージがある</p> <p><input type="checkbox"/> 咀嚼機能訓練には頭部挙上訓練がある</p> <p><input type="checkbox"/> 摂食嚥下機能評価で1回ごとの食物残渣を評価することは重要である</p>

歯科保健指導実習

担当 森野 愛

<p>主題と目標</p>	<p>歯科保健指導とは、個人を対象として、その人の生活行動をその人に適した歯科保健行動に容容させるための専門的な立場からの助言と援助である。                  歯科衛生士が各方面に就業したときに現場の状況に応じることのできる基礎的な実技実習を通して、「具体的な問題に対しての考え方」をどのようにして身につけていくかが目標である。                  また、その中で医療や歯科医療に密着した保健指導や衛生教育の違い、さまざまな背景下での技法、全体を通してのそれぞれの場面において要点を学ぶ。</p>	
<p>教科書</p>	<p>最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 医歯薬出版                  最新歯科衛生士教本 保健衛生学 第3版 医歯薬出版</p>	
<p>参考図書</p>	<p>歯科衛生士教育マニュアル・実習書 現代歯科保健指導 長田保他著                  クインテッセンス出版</p>	
<p>成績評価の方法</p>	<p>評価は、指導案の作成状況 媒体の制作状況、発表 指導日の出席状況などを総合的に判断する</p>	
<p>評価項目</p>	<p>学内発表時の審査項目                  ①声 ②表情 ③言葉づかい ④原稿暗記 ⑤媒体の発想性 ⑥時間配分 ⑦協調性 などを総合的に評価</p>	
<p>備考</p>	<p>授業計画 (4月～9月) チェックポイント</p>	
<p>第1回 地域保健活動① P 329 (保健生P226～233)</p>	<p>臨床実習とは                  総合病院 保健所 保健センター 学校 幼稚園保育所                  介護老人保健施設                  臨床実習の目的                  ①歯科衛生士の役割を理解する                  ②保健医療福祉の場において他職種との協働する能力の習得                  ③地域歯科保健活動の基礎能力を身につける</p>	<p>①PDCAサイクル                  ②アウトプット アウトガム                  ③健康日本21(2次)                  ④「健康寿命の延伸」「生活の質の向上」                  ⑤「健康格差の縮小」「社会環境の改善」                  ⑥ブレインストーミング ロールプレイング                  ⑦シンポジウム パネル討論 フォーラム                  ⑧フランネルグラフ ペーパーサート 掛図</p>
<p>第2回 地域保健活動②</p>	<p>今年度 小学校への臨床実習について                  日程 担当発表 今後の予定                  学年ごとの担当発表                  今後の実施までの予定                  心構え                  準備物 媒体について</p>	<p>集団指導の流れ                  対象者の把握                  ①導入 (動機づけ)                  否定的な働きかけ 肯定的な働きかけ                  ②展開 (指導)                  対象の特徴をとらえる                  共通のテーマにする 一目的を絞る                  ③ブラッシング                  ④まとめ→繰り返すことで印象付け ポイントをまとめて                  ⑤励まし</p>
<p>地域保健活動③</p>	<p>指導案作成における注意事項                  保育園 小学校 教案の説明 強化項目                  各学年における指導案についての目標説明</p>	<p>小学校低学年目標 規則的な食事と間食の習慣づけ                  第一大臼歯のむし歯予防と管理                  自分の歯・口を観察する習慣づけ                  小学校中学年目標                  規則的な食事と間食の習慣の確立                  歯肉炎の原因と予防方法の理解                  上顎前歯や第一大臼歯のむし歯予防と管理                  自分にあった歯・口の清掃の工夫                  歯の形と働きを理解(歯の交換期)                  小学校高学年目標                  咀嚼と体の働きや健康とのかかわりの理解                  むし歯の原因と予防方法の理解と実践                  第二大臼歯のむし歯予防と管理                  歯周病の原因と予防方法の理解と実践</p>
<p>地域保健活動④</p>	<p>媒体のヒント 音楽動画あり                  各媒体の基礎知識・媒体の効果的な利用方法                  指導案作成の基礎知識</p>	<p>話法 明るく元気に                  準備は十分に 練習に練習を重ねる                  丸暗記はダメ あとは反省する                  明瞭な発音 間を大事にする                  態度 ×威張らない×卑屈にならない ◎親しみのある態度                  医療職にふさわしい服装髪型                  ×後ろに手を組まない×ポケットに手を入れない                  視線は遠くから近くへ8の字を書くように移す                  声 口を大きく開き言葉は明瞭で大きな声で理解しやすく</p>
<p>地域保健活動⑤ 食品と齧蝕誘発性 咀嚼と食品</p>	<p>食品の齧蝕誘発性                  代用甘味料                  咀嚼の目的と意義                  咀嚼の重要性と対応</p> <p>①齧蝕と食生活の関連を知る (キース、ニューブラン)                  ②糖の齧蝕の関係をj知る P 98 99                  ③食品の齧蝕誘発能とは何か                  高い値を示すものの共通点は何かを知る                  ④代用甘味料とその特徴を覚える                  ⑤咀嚼の目的を覚える</p>	<p>食品のう蝕誘発能指数(CPI)の規定                  ①PPA歯垢形成に深く関与する蔗糖の含有量                  (ブランク形成能→う蝕を起こしやすい歯垢の                  形成に深く関与する蔗糖の含有量(%))                  ②APA 強い酸産生に深く関与する糖質(蔗糖                  ブドウ糖 果糖 麦芽糖 乳糖)の含有量(%)                  ③IT 摂取中の作用時間(食品1g当たりの                  摂取から嚥下するまでに要する時間)                  ④CT嚥下後の作用時間(食物の粘着性)                  CPI⇒(ブランク形成能+酸産生能)                  ×(摂取中の作用時間+嚥下後の作用時間)                  咀嚼の意義①栄養素の吸収を助ける、②胃腸の働きを促進する                  ③食物本来の味がわかり、おいしく味わえる                  ④顎骨や咀嚼筋に刺激を与え、正常な成長・発育を促進させる                  ⑤唾液の分泌を促進する、⑥肥満の予防⑦脳の活性化                  ⑧ その他 バランス機能の向上</p>

歯科保健指導  
実習

<p>第6・7回 集団指導①</p>	<p>講義（プリント） 集団指導計画の内容 文書の作成のポイント習得 実習 担当する対象学年、グループ発表 実習時間内での内容、計画、時間配分を決める ビデオ（昨年度集団指導） 昨年度の反省をもとに文書作製 担当者ごとに指導内容を検討</p>	<p>集団指導計画は次のようなことを理解して考えるとよい。 ①指導内容 ②指導目的または目標 ③指導に必要な設備・材料・媒体 ④その指導が全体の計画におかれている位置 今までの指導との関係 ⑤指導の要点・手順（指導用文書の作製） ⑥所要時間 ⑦チェックの基準 ⑧参考図書のリストおよび参照すべきところ（情報の収集） 集団指導計画の中で⑥指導用文書の作製が、 最も訓練をつむポイントになる。 ①指導内容、②指導目的または目標が決まったら ⑧情報を収集しながら、指導文書を作製する。 指導計画書は、指導文書ができた段階で 80％は完成しているとみてよい</p>
<p>第8・9回 集団指導②</p>	<p>実習 指導内容の検討（対象別）、文書作製を計画  資料・媒体作製</p>	<p>低学年では正しい生活習慣と歯磨きの方法をしつけとして教えることにウエイトをおき、学年が進むに従い、歯や歯周組織の大切さとブラークコントロールについて理解させる。 この時期に自分の歯を健康に保つことを動機づけられるような指導案を作成する。</p>
<p>第10・11回 集団指導③</p>	<p>実習 指導内容の検討（対象別） 文書作製を計画  資料・媒体作製</p>	<p>児童の理解力と年齢による口腔内の状態を考え合せ作成する 児童が興味を示してくれるような、楽しくカラフルな媒体を 指導内容に合わせて作製する。クラス単位の指導であれば、掛 図とはり絵を組み合わせると変化のある指導ができる。媒体説明に ならないように気を付けなければならない。未熟な指導者ほど 媒体のほうをみて話したりしない。指導者の立つ位置にも気を 付けること。</p>
<p>第12・13回 集団指導④</p>	<p>実習 資料・媒体作製 話し方の訓練</p>	<p>媒体を使う訓練 ブラッシング指導はスクラッピング法を行う 歯ブラシの握り方や交換時期も含め、訓練する。 一年生へは六歳臼歯の磨き方、五～六年生へは第二大臼歯の 磨き方をプラスして指導を行う。顎模型を持つ位置は、児童の</p>
<p>第14・15回 集団指導⑤</p>	<p>実習 ブラッシング指導の訓練 話し方の訓練</p>	<p>ブラッシング指導の訓練 笑顔を保ちながら、児童の顔を見て、大きな声で、単語をハ ッキリ発音する練習をする。一年生や二年生にはゆっくり話し 三年生以上にはテンポをあげて話すほうがよい。 新しい単語やむずかしい内容のところはゆっくり話さなければ いけない。正しい言葉遣いを心がける。子供だと悪い、幼児 ことばを使うと冷遇されるので注意する。</p>
<p>第16回 集団指導⑥</p>	<p>実習 集団に対する話し方実習 姿勢のとり方 視線のあて方 問のとり方</p>	<p>視線が集まりやすい高さに係つ。 右手に顎型、左手に歯ブラシを持って動かす。 媒体の使い方 発音・発声の仕方 集団指導のブラッシングや文書、媒体を完了すると、すぐに 現場に出て、指導できるような気になる。しかし、実際には失 敗例が多い。リハーサルを行ってみて、話し方、声、ゼスチャー などチェックし指導内容が正確に理解されるようにすること</p>
<p>第17・18回 集団指導⑦ 【フェックポイント】</p>	<p>発表練習 担当する学生クラスごとに発表練習。発表者以外は小学生 役を演じ、受け答えをする</p>	<p>発表時間は1グループ30～40分 全体の前で発表することで、よい雰囲気をつくり、集団指導を 実行する練習をしておく。</p>
<p>第19・20回 集団指導⑧ 【フェックポイント】</p>	<p>発表練習 担当する学生クラスごとに発表練習。発表者以外は小学生 役を演じ、受け答えをする</p>	<p>発表時間は1グループ30～40分 発表後の感想、改善点をもとに指導文書を手直しする 指導評価内容により、チェックするので覚えておくこと。 原稿どりの指導が出来たか 媒体を活かした指導が出来たか ブラッシング指導に間違いはないか 顎型の握り方に間違いはないか 声の大きさや表情に変化がつけられたか 児童の反応を指導に活かすことが出来たか</p>
<p>第21～24回</p>	<p>東大阪市内の小学校に集団指導を実施 日時については虫歯予防週間の前後5日</p>	



高齢者歯科		担当 神田 智子
主題と目標	我が国が高齢者社会を迎え、歯科衛生士の業務も高齢者からのニーズがより高まり、複雑化しています。その中で、老年者の歯科保健・医療・福祉の分野における科学と技術を学ぶことは大変有意義な事であり必要なことです。本章では高齢者を歯科の分野に限らず全身疾患との関連性も考慮しつつ、現場で直接及び間接的に高齢者を支えるための様々な方法や知識を身につけます。	
教科書	最新歯科衛生士教本 高齢者歯科 医歯薬出版株式会社	
参考図書	歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション第2版 医歯薬出版株式会社	
成績評価の方法	定期試験・実習レポート・受講態度（出席状況）などを総合的に判断する。	
備考		
授業計画（4月～9月）		
第1回 高齢者を取りまく社会と環境① P6～22	1章高齢社会と健康 ①人口の高齢化②総人口・少子化・高齢者の人口・高齢化率③寿命と死因 ④歯科疾患実態調査からみた高齢者の特性⑤高齢者の健康 2章高齢者に関わる法制度 ⑥老人保健・医療・福祉対策の経緯⑦介護保険制度	
第2回 高齢者を取りまく社会と環境② P24～31	3章高齢者の居住形態・施設および入院設備の特徴 ①高齢者の居住場所を規定する要件②高齢者の居住する場所と設備の特徴 1. 一般住宅・高齢者向け住宅 2. 高齢者施設（特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホーム） 3. 介護保険制度で規定された介護保険施設 4. 病床	
第3回 II編 加齢による身体的・精神的変化と疾患① P34～49	1章加齢に伴う身体的機能の変化 ①全身的な変化②口腔・咽頭領域の加齢変化 2章高齢者の精神・心理的变化 ①老化による心理的变化②老化以外の心理的变化—うつ・せん妄 ③高齢者の精神・心理的变化をふまえたコミュニケーションとは	
第4回 II編 加齢による身体的・精神的変化と疾患② P50～66 高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患① P66～74	①主たる死因となる疾患 1. 悪性腫瘍 2. 脳血管障害 3. 心臓病 4. 肺炎 5. パーキンソン病 6. 認知症 7. 高血圧症 8. 糖尿病	
第5回 高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患② P66～74 III編 高齢者の状態の把握 P76～86	②高齢者に特有な口腔の疾患 1. 根面う蝕 2. 歯周病 3. ToothWear（トゥース・ウェア） 4. 高齢者における咬合の崩壊と義歯補綴治療の重要性 5. 高齢者に多いその他の口腔疾患 6. オーラルフレイル 高齢者の生活機能の評価 ①生活・ADL評価 1. ADL（日常生活動作）とは 2. 障害に関する分類 3. ADLの評価 4. IADLの評価 5. BDRの評価 6. QOLの評価 7. 自立度の評価 8. 介護者の評価 9. 認知機能の評価	
第6回 2章高齢者歯科と臨床検査 P88～98	①バイタルサイン 1. 脈拍 2. 呼吸 3. 血圧 4. 体温 ②血液検査 1. 感染 2. 血液凝固 3. 肝機能 4. 腎機能に関わる主な検査値 5. 体液に関わる主な検査値	
第7回 3章高齢者の栄養状態 4章高齢者の薬剤服用 P99～111	①低栄養になりやすい高齢者の栄養評価 ②経口摂取の代償による水分・栄養摂取法 サルコペニアの摂食嚥下障害とその対策 ①高齢者における薬物に影響を与える因子 ②薬物に対する反応性の変化 ③薬物の相互作用 ④服薬管理 ⑤薬物治療上の注意点 ⑥頻用される代表的な薬剤の口腔に関する副作用	



口腔保健管理

担当 神田智子

主題と目標	<p>今後歯科衛生士の業務は歯周病の継続管理やかかりつけの歯科医による訪問診療、市町村や老人社会福祉施設・病院などへの配置など業務の拡大が予想される。</p> <p>これらのニーズに対応するため、自分で考え計画を立てられる自立した歯科衛生士が求められる。</p> <p>本講義は歯科衛生士が臨床の場で個々の患者に適した口腔保健管理プログラムを作成し実践できる能力習熟することが目的である。</p>
教科書	<p>新歯科衛生士教本 歯科保健指導 全国歯科衛生士教育協議会編集 医歯薬出版</p> <p>最新歯科衛生士教本 口腔保健生誕 全国歯科衛生士教育協議会編集 医歯薬出版</p>
参考図書	<p>歯科衛生士教育マニュアル・実習書 現代歯科保健指導 長田保他著 クインテッセンス出版</p> <p>歯科衛生士のためのアドバンスコース 高山陽子他著 医歯薬出版</p>
成績評価の方法	<p>試験は、中間試験・定期試験・実習レポート・出席状況などを総合的に判断する。</p>
備考	<p>試験問題形式は、○×式・線結び・記述式とする。</p>

授業計画 (4月～7月)

■は項目を口は正誤を記入しましょう

第1・2回 口健康の概念 P8～P13	<p>1、健康の考え方 健康の定義</p> <p>2、プライマリーヘルスケア</p> <p>3、ヘルスプロモーション</p> <p>4、口腔健康管理</p> <p>5、日本の健康増進施策 健康日本21</p> <p>6、予防の概念</p> <p>第一予防 健康増進</p> <p>第二予防 早期発見 即時処置 機能喪失阻止</p> <p>第三予防 リハビリテーション</p>	<p>■ whoの健康の定義では「健康とは」どのような状況でしょう</p> <p>■ プライマリヘルスケアの誰に向けての提言ですか</p> <p>■ 事実上の4原則とは</p> <p>■ ヘルスプロモーションはWHOがどこで提言しましたが</p> <p>■ 口腔健康管理の概念を2つ挙げなさい</p> <p>■ 口腔機能を5つ挙げなさい</p> <p>■ 健康日本21 (2次) の基本的な方針を5つ挙げなさい</p> <p>■ レベル&amp;クラークの予防レベルはいくつに分類していますか</p>
第3・4回 歯科衛生過程の進め方 P100～ ■クライアント・セルフケア・コミットメントモデル	<p>★歯科衛生過程の概要</p> <p>1. 歯科衛生過程とは</p> <p>2. 歯科衛生過程の6つの構成要素</p> <p>3. 歯科衛生過程を進めるうえで重要な考え方、姿勢</p> <p>4. 歯科衛生士の視点による問題解決</p> <p>1) クリティカルシンキング Clinical Pont</p> <p>2) DarbyとWalshの歯科衛生生ヒューマンニーズ概念モデル</p> <p>3) 国際生活機能分類 (ICF)</p> <p>4) 口腔関連QOL尺度を用いた歯科衛生モデル</p> <p>5) PRECEED-PROCEED (MIDORI) モデル</p> <p>6) 動機づけ面接法</p>	<p>□ 歯科衛生過程とは対象者の問題を論理的に解決すること</p> <p>□ 歯科衛生過程の目標は対象者を一般目標に近づけること</p> <p>□ 歯科衛生士の介入とは計画を実施することである</p> <p>□ バイタルサインは主観的情報に含まれる</p> <p>□ ヒューマンモデルは6つに分類されている</p> <p>□ ヒューマンモデルには不安やストレスの開放は含まれない</p> <p>□ 客観情報の収集は対象者を系統的に観察する</p> <p>□ ICFとは人間の生活機能の障害の分類法である</p> <p>□ ICFは3つの次元に分類されているが人生レベルは活動である</p> <p>□ OHRQLは口腔関連のQOLの尺度で6つある</p> <p>□ MIDORIモデルはヘルスプロモーションの活動のために開発された</p>
第5回 1 歯科衛生過程の概要 2、アセスメント ●歯科保健指導論 P108～ P121～	<p>歯科衛生の5つのプロセスとは</p> <p>情報収集</p> <p>情報処理 整理分類 (ヒューマンニーズ概念モデル)</p> <p>情報処理 解釈分析</p> <p>用紙に転記する</p>	<p>□ 情報処理の解釈分析は情報をニーズごとに分けることである</p> <p>□ 情報処理ではニーズの欠落を把握しなければならない</p> <p>□ 情報処理では情報から対象者の問題点と原因を同一に考える</p> <p>□ 情報収集はギャップが無いように1度きりで終わるようにする</p> <p>□ 主観情報を集めるには対象者の話を傾聴する</p> <p>□ 主観情報を0データという</p>
第6回 歯科衛生診断 問題の明確化 ●歯科保健指導論	<p>3つのタイプ</p> <p>アセスメントの分析方法</p> <p>情報の統合</p> <p>診断の表し方</p>	<p>□ 歯科衛生診断は健康上の問題を3つのタイプに分ける</p> <p>□ ヘルスプロモーション型とは原因ある、症状なしの状態</p> <p>□ 情報の統合で強みとは問題解決の上で活用できるものである</p> <p>□ 情報の統合でギャップとはDHの目標と一致していない所のこと</p> <p>□ 診断で問題や状態を診断句と呼ぶ</p>
第7回 歯科衛生計画立案 ●歯科保健指導論	<p>優先順位の決定</p> <p>目標の設定</p> <p>介入方法とその選択について</p> <p>期待する成果について</p> <p>介入方法の決定</p> <p>●立案用紙提出</p>	<p>□ 目標設定は理想的であること</p> <p>□ 目標設定は観測、測定可能であること</p> <p>□ 短期目標は歯科衛生診断ごとに設定する</p> <p>□ 短期目標は達成時間ものにする</p> <p>□ 目標は介入方法により状態を予測し評価時の基準になる</p> <p>□ 介入計画は患者が問題解決するために選択する行動である</p> <p>□ C-Pとは教育計画のことである</p>

口腔保健管理学

		<input type="checkbox"/> O-Pとはケア計画のごとで <input type="checkbox"/> 歯科衛生計画は原因 関連因子ごとに設定する
第8回 、歯科衛生介入 評価 歯科衛生評価 ●歯科保健指導論	介入の記録（業務記録） 介入事例 評価項目 評価事例	<input type="checkbox"/> 介入計画は欠落したニーズ⇒診断⇒順位決定理由⇒ ⇒長期目標⇒短期目標⇒歯科衛生計画に順で考える <input type="checkbox"/> 優先順位の決定は問題の程度により歯科衛生士が独自で考える <input type="checkbox"/> SOAPとは問題指向型診療録のごとである <input type="checkbox"/> Sとは他覚的症候を記入する <input type="checkbox"/> 自覚的症候とは観察した結果のごとである <input type="checkbox"/> Aは患者がどう考えたを記入する <input type="checkbox"/> SOAPとは情報を記録しアセスメントして計画を立てる方法 <input type="checkbox"/>
第9・10回  症例検討	春期実施した口腔清掃指導の症例を用いて 歯科衛生過程のアセスメントから計画立案まで をワークシートを用いて考える	アセスメント表と考察をもとにワークシートを使用し 患者の情報整理、問題の明確化、優先順位の決定 目標の設定までをおこなう
第11・12回 1 口腔機能管理に 関わる指導 P289  2 口腔機能の低下に 関連する指導	1. 口腔機能の発達 1) 「食べる」機能発達不全を改善するための指導・管理 2) 「話す」機能発達不全を改善するための指導・管理 3) 呼吸機能発達不全を改善するための指導・管理 1) 口腔衛生状態の不良を改善するための指導 2) 口腔乾燥を改善するための指導 3) 咬合力・咀嚼機能の低下を改善するための指導 4) 口唇の筋力低下や運動機能低下を改善する指導 5) 患者等への説明と動機づけ	<input type="checkbox"/> 咀嚼機能の発育には家庭環境も大きく影響する <input type="checkbox"/> ボタンプレスは口唇閉鎖を促す訓練である <input type="checkbox"/> 舌癖が大きく関与する構音障害を側音化構音という <input type="checkbox"/> 構音機能は3歳ころまで経過観察を行う <input type="checkbox"/> 咀嚼訓練は外側翼突筋の動きを意識する <input type="checkbox"/> ペゴバンダは口唇の筋力低下時の訓練用である <input type="checkbox"/> MFTとは口唇と舌姿勢の訓練である <input type="checkbox"/> フレイルとは加齢による筋力の低下を意味する
★課題学習	春期の口腔清掃指導の症例を用いて 歯科衛生過程の介入方法を考える	夏期休暇後に提出

高齢者歯科実習 (口腔保健管理学実習)		担当 神田智子
主題と目標	我が国における高齢者人口がピークに達し、そのピークがしばらくの間保持されていくという環境の中で、歯科衛生士の果たすべき役割とは何か。現場でどのような問題にいかにしてアプローチをしていくのか。特に口腔ケア、摂食・嚥下リハビリテーションに軸足を置き、チーム医療の一員であるという役割を意識しながら、それらの評価や手技について実習を行う。	
教科書	最新歯科衛生士教本 高齢者歯科 医歯薬出版株式会社	
参考図書	歯科衛生士のための口腔介護実践マニュアル MCメディカ出版 歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション第2版 医歯薬出版株式会社 見える！わかる！摂食嚥下のすべて Gakken	
成績評価の方法	定期試験・実習レポート・受講態度（出席状況）などを総合的に判断する。	
備考		
授業計画 (4月～9月)		
第1回 P109～118 P152 高齢者に対する口腔のケア	IV編 口腔のケア 1章 高齢者に対する口腔のケア ①口腔のケアにおける高齢者の特徴 1. 通院条件の悪化 2. ケア自立度の低下 3. 摂食嚥下障害 4. 加齢に伴う変化 1) 歯肉退縮 2) 口腔乾燥症 3) 口腔機能の低下 ②口腔のケア用品 1. セルフケア用品 2. 介助によるケアと使用する用品 1) 用いる器材 2) 口腔のケア・アセスメント票 チーム医療について	
第2回 P119～132 有病高齢者への口腔のケア①	2章 有病高齢者への口腔のケア ①急性期の口腔衛生管理 1. 周術期における口腔機能管理 2. 病態の把握 3. 感染防止 4. 口腔衛生管理の実際 1) 口腔清掃器具 2) 口腔アセスメント 3) 口腔衛生管理 4) 口腔衛生管理終了後 ②留意すべき全身疾患と口腔衛生管理 1. 虚血性心疾患への対応 2. 脳血管疾患への対応 3. 化学・放射線療法を受けている患者への対応 4. 高血圧症への対応 5. 糖尿病への対応 6. 気管挿管患者への対応 事例 実例から見る歯科衛生士の役割 アセスメント 歯科衛生計画立案 歯科衛生介入・評価	
第3回 P119～132 実習 有病高齢者への口腔のケア②	経口気管挿管患者の模型を使用し、口腔のケア方法の実習を2人体制で行う。 挿管患者に対する口腔清掃時の留意点はさまざまな報告がある。その一例を紹介する。 ・主治医や看護師などとの情報共有のもと口腔清掃を実施する。 ・必要に応じてバイトブロックなどで視野を確保する。 ・歯ブラシ・歯間ブラシ・スポンジブラシなどによる口腔清掃を基本とする。 ・動揺歯の有無を確認する。動揺歯がある場合は、咽頭への落下防止のため暫時的な固定処置を検討する。 ・誤嚥リスクは高いため、いずれの器具を使用する場合にも水分をしっかりと切る。 ・口腔内やカフ上部を可及的に吸引する。 ・義歯が装着されたままの場合は外してケアを行う。 ・挿管チューブも細菌の温床となりやすいため、チューブをしっかりと清拭する。 ・看護師などの協力を得ながら挿管チューブを左右に移動させ口腔清掃を実施する。	

<p>第4回 P133~148 要介護高齢者への口腔のケア</p>	<p>3章 要介護高齢者への口腔のケア</p> <p>①要介護高齢者における口腔ケアの意義</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 要介護高齢者への対応 1) 問診内容の把握 2) コミュニケーションのはかり方 3) 口腔清掃の自立度の確認 4) 口腔周囲の感覚異常の確認</li> <li>2. 要介護高齢者にみられる機能障害とその対応 1) 口腔粘膜疾患への対応 2) 口腔乾燥症への対応 3) 剥離上皮への対応 4) 粘膜が易出血性の場合の対応 5) 口臭への対応 6) オーラルジスキネジアへの対応 7) 開口障害への対応 8) 摂食・嚥下障害への対応 9) 口腔のケアへの拒否がある患者への対応</li> </ol> <p>②要介護高齢者に対する歯科治療の目標設定と目安</p> <p>③臨床現場における歯科衛生士の役割</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 口腔のケアの実際       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 病院や施設で実際によくみられる患者の口腔内の状態と注意点           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 経口摂取患者の口腔ケアの留意点 (2) 非経口摂取患者の口腔ケアの留意点</li> </ol> </li> <li>2) 口腔のケアの手法の例とポイント①患者への呼びかけと頭部の位置確認 ②口腔内に痰が貯留していたらその除去 ③少量の水による口腔内、乾燥痰の湿潤 ④残存歯のブラッシング ⑤軟化された乾燥痰の除去 ⑥舌苔の除去 ⑦口腔内の清拭 ⑧保湿剤を塗布し、口腔内の湿潤状態を維持する。</li> </ol> </li> <li>3) 唾液の排出方法 ①うがいによる唾液と食渣の排出方法 ②スポンジブラシによる唾液の排出方法</li> </ol>
<p>第5回 P175~177 実習 摂食・嚥下の5期</p>	<p>先期→準備期→口腔期→咽頭期→食道期について、一つずつ食べ物を食べながら、意識してみる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①先前期：食物を口に摂りこむ前の過程。視覚、触覚、嗅覚などによって食物を認知する。</li> <li>②準備期：口唇で取り込んだ（捕食）食物の物性（かたさ、大きさ、粘稠性など）を口腔の感覚器（口唇、舌尖、口蓋前方部）によって感知する。咀嚼しながら食物と唾液を混和して食塊形成を行う。</li> <li>③口腔期：口腔内の食塊を舌が咽頭に送り込む時期。</li> <li>④咽頭期：嚥下反射によって食塊が口峽を通過して、咽頭から食道入口部を通過するまでの時期である。</li> <li>⑤食道期：食道の入口から胃の入口までの食塊の移送が行われる時期。</li> </ol> <p>嚥下障害がある場合の、食事支援の方法について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①先前期：食物を見ても反応しない。飲み込んでいないのに次々と食べ物を口に入れる。</li> <li>②準備期：一般に義歯は弾性の高いものを小さくかみ切るには適さない。</li> <li>③口腔期：流れがよい食べ物は一気に咽頭に流れ込んで誤嚥の原因になることがある。舌運動の麻痺。軟口蓋の運動障害。</li> <li>④咽頭期：むせや咳き込み、鼻咽腔への食物の流入</li> <li>⑤食道期：胃食道逆流への対応。</li> </ol>
<p>第6回 P150~167 実習 摂食・嚥下の評価と対応</p>	<p>V編 摂食・嚥下リハビリテーション</p> <p>1章 高齢者のリハビリテーションの概要</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①リハビリテーション医学とは</li> <li>②障害のみかた</li> <li>③チーム医療</li> <li>④高齢者の特徴とリハビリテーション上の問題点</li> </ol> <p>2章 摂食・嚥下の評価と対応</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①診察       <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 観察</li> <li>2. 診察 1) 全身状態の把握 2) 栄養摂取状況の聴取 3) 口腔、咽頭機能の評価</li> </ol> </li> <li>②スクリーニングテスト       <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 反復唾液嚥下テスト RSST</li> <li>2. 改訂水飲みテスト MWST</li> <li>3. 段階的フードテスト FT</li> <li>4. 頸部聴診</li> <li>5. 咳テスト</li> </ol> </li> <li>③嚥下内視鏡検査（VE） 嚥下造影検査（VF）       <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 嚥下内視鏡検査</li> <li>2. 嚥下造影検査</li> </ol> </li> </ol>
<p>第7回 P168~171 実習 誤嚥性肺炎の予防のための訓練①</p>	<p>3章 誤嚥性肺炎の予防のための訓練</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①誤嚥と誤嚥性肺炎</li> <li>②嚥下訓練       <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 間接訓練           <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 嚥下機能に関する間接訓練               <ul style="list-style-type: none"> <li>・嚥下体操</li> <li>・言語療法（構音障害の訓練に準拠）</li> <li>・過敏除去（脱感作）</li> <li>・ガムラビング（歯肉マッサージ）</li> <li>・パンゲード法（筋刺激訓練法）</li> <li>・冷圧刺激</li> <li>・喉のアイスマッサージ</li> <li>・氷なめ訓練</li> <li>・息こらえ嚥下法（声門閉鎖嚥下法）</li> <li>・強い息こらえ嚥下法（喉頭閉鎖嚥下法）</li> <li>・頭部挙上訓練（シャキアエクササイズ）</li> </ul> </li> </ol> </li> </ol> </li> </ol>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開口訓練</li> <li>・声帯内転運動（プッシング・プリング訓練）</li> <li>・メンデルソン手技</li> <li>・前舌保持嚥下訓練</li> <li>・バルーン拡張法</li> <li>・舌接触補助床（PAP）</li> <li>・軟口蓋挙上装置（PLP）</li> </ul>
<p>第8回 P171～173 実習 誤嚥性肺炎の予防のための 訓練②</p>	<p>2) 摂食・嚥下リハビリテーションの間接訓練（呼吸機能に関する）について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・深呼吸</li> <li>・胸部可動域訓練 ①シルベスター法（変法）②体軸の捻転③肩甲骨の内転</li> <li>・咳嗽訓練</li> <li>・発声訓練</li> <li>・ブローイング訓練</li> <li>・ハフティング</li> </ul>
<p>第9回 P173～204 実習 誤嚥性肺炎の予防のための 訓練③</p> <p>参考図書の抜粋より</p>	<p>2. 直接訓練 訓練開始前の準備 先行期に障害がある対象者への訓練</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 味覚刺激による嚥下促進訓練</li> <li>(2) 一口量の調節</li> <li>(3) 手と口の協調運動</li> <li>(4) 捕食訓練</li> </ol> <p>準備期（咀嚼期）に障害がある対象者への訓練</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 食物形態の調整</li> <li>(2) 咀嚼訓練</li> <li>(3) スライス型ゼリー丸呑み法</li> </ol> <p>口腔期・咽頭期に障害のある対象者への訓練</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 嚥下の意識化（think swallow）</li> <li>(2) 空嚥下、複数回嚥下</li> <li>(3) 頸部回旋（横向き嚥下）</li> <li>(4) 交互嚥下</li> <li>(5) 顎引き嚥下（頭部、頸部屈曲位、chin Down chin tuck, head down）</li> <li>(6) 水分摂取訓練</li> </ol>
<p>第10回 P206～258 地域包括ケアシステム 歯科衛生過程</p>	<p>VI編 高齢者に関わる医療と介護</p> <p>1章 在宅訪問診療の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①在宅医療の背景       <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅医療とは何か</li> <li>2. 病院での医療の普及と死亡場所の変化</li> </ol> </li> <li>②医療と患者意識の変化</li> <li>③在宅医療の目的と内容       <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅医療の目的</li> <li>2. 自宅でみるということとナラティブな医療</li> <li>3. 訪問診療と往診の違い</li> <li>4. どのような患者をみているのか</li> <li>5. 在宅療養支援診療所 1) 在宅医療制度の変遷</li> <li>6. 在宅と施設</li> <li>7. 在宅医療でできる検査・治療</li> <li>8. 在宅医療の保険の仕組み</li> <li>9. 指示書について</li> <li>10. 地域包括ケアとしての在宅医療           <ol style="list-style-type: none"> <li>1) どのような患者が歯科衛生士を必要としているのか。</li> <li>2) 在宅医療における連携の重要性 (1) 地域でみるということの重要性 (2) 関わる職種</li> <li>3) 退院前カンファレンス (4) サービス担当者会議</li> </ol> </li> </ol> </li> </ol> <p>2章 歯科衛生士が関わる公的介護保険の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①介護保険の流れ</li> <li>②介護保険認定者数の推移</li> <li>③地域支援事業と予防給付</li> <li>④歯科衛生士が関与する介護予防       <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域支援事業における口腔機能向上の支援</li> <li>2. デイケア・デイサービス（通所による介護保険利用）における口腔機能向上支援</li> <li>3. 高齢者施設入所者への口腔機能維持管理</li> <li>4. 在宅療養高齢者への居宅療養管理指導</li> </ol> </li> </ol> <p>3章 かかりつけ歯科の役割</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. かかりつけ歯科医とは</li> <li>2. 高齢者に対するかかりつけ歯科医機能の提供の場</li> <li>3. 高齢者への関わり方とかかりつけ歯科医の役割       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 高齢者の心身の特徴を理解し、生活機能低下予防の視点をもつ</li> <li>2) 在宅歯科医療の現状について 3) 歯科診療所での外来診療と歯科訪問診療の違い</li> </ol> </li> <li>5. 地域保健医療における歯科衛生士への期待</li> </ol>

	<p>4章 訪問看護と歯科の役割</p> <p>① 自宅医療における訪問看護と歯科医療の連携</p> <p>② 在宅医療現場における歯科の役割</p> <p>1. 歯科が在宅医療で依頼される問題の具体例</p> <p>1) 義歯による問題 2) 残存歯による問題 3) 開口困難</p> <p>4) 経鼻経管栄養・胃瘻・腸瘻患者の経口からの栄養摂取</p> <p>5) 摂食・嚥下障害による誤嚥性肺炎</p> <p>2. 口から食べることの意義と歯科の関わり</p> <p>VII編 高齢者歯科における歯科衛生過程</p> <p>1章 歯科衛生過程の概要</p> <p>① 歯科衛生過程とは</p> <p>② 歯科衛生過程の各段階における考え方</p> <p>1. 歯科衛生アセスメント</p> <p>1) 情報収集 2) 情報の記録 3) 情報の処理</p> <p>2. 歯科衛生診断</p> <p>1) 歯科衛生診断の定義 2) 歯科衛生診断の考え方</p> <p>3. 歯科衛生計画立案</p> <p>1) 目標 2) 歯科衛生介入方法の決定 3) 期待される結果</p> <p>4. 歯科衛生介入 1) 実施の流れ 2) 業務記録</p> <p>5. 歯科衛生評価 1) 全面達成 2) 部分達成 3) 未達成</p> <p>2章 歯科衛生過程 事例</p> <p>事例1 在宅 問題点：口腔のケア不良と低栄養</p> <p>事例2 特別養護老人ホーム 問題点：摂食・嚥下障害、口腔清掃不良</p> <p>事例3 一般病棟 問題点：口腔内の乾燥と口腔周囲の過緊張</p> <p>事例4 集中治療室：ICU 問題点：口腔管理不足、唾液分泌不良</p>
<p>第11回 P152, 176, 225, 249</p> <p>ケア用品のプレゼン</p> <p>高齢者歯科の振り返り</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>各自で作成した、個別性に配慮工夫された改良ケア用品について一人ずつ発表する。</p> <p>チーム医療において、自己表現や情報発信能力を高めることは重要である。</p> <p>高齢者歯科全体のまとめと定期試験についての補足を行う。</p> <p>積極的にプレゼンテーションに参加し、発表者に関心を持ち真剣に耳を傾けることができる。</p>
<p>定期試験</p>	



## 歯科診療補助実習Ⅱ

担当 更屋 遥香

主題と目標	歯科医療の場では、共同動作による位置関係、患者への対応が必要になる。そのため、その応対方法や、機器の準備、操作方法を知り、患者に対する接し方も理解し、安全に診療が行えるように知識と技術を修得する
教科書	①最新歯科衛生士教本 歯科診療補助 第2版 合場千佳子他著 医歯薬出版 ②最新歯科衛生士教本 歯科材料 末瀬一彦他著 医歯薬出版 ③最新歯科衛生士教本 歯科機器 末瀬一彦他著 医歯薬出版 ④最新歯科衛生士教本 保存修復・歯内療法 千田彰他著 医歯薬出版
成績評価の方法	単元テスト4回(1回10%)40%、レポート(1回5%)20%、早朝テスト(1回3%)30%、実習態度10%、+αで評価をする。
備考	試験は、記述式・〇×式・線結びで行う。
授業計画	(4月～9月)
第1・2回 印象採得 相互実習  回転トレー  【チェックポイント】	器具の名称、把持、準備が適切に行える  混水比を考慮して基本的な練和が行える  指示された部位をトレーの中心に印象することができる
第3・4回 印象採得 相互実習  下顎全顎  【チェックポイント】	舌を配慮した挿入、圧接ができる  患者に対して適切な声かけができる  器具の持ち変えなくスムーズに術者との受け渡しができる
第5・6回 印象採得 相互実習  上顎全顎  【チェックポイント】	嘔吐反射患者に考慮した体位を実践できる  トレーの挿入方法を工夫し、口腔内にいれることができる  全顎の印象採得ができる
第7・8回 印象採得 相互実習  下顎全顎  【チェックポイント】	患者の状況、気温を考慮し、適切な練和方法が選択できる  前回までの反省を生かして圧乳の力加減、トレーの挿入方法を工夫できる
第9回 印象採得 相互実習  上顎全顎  【チェックポイント】	口腔内の状況、気温を考慮し、適切な練和方法が選択できる  印象採得の一連の動作が理解でき、自分の役割を果たせる  印象面のセルフチェックが行え、反省から次回への改善ができる

第10回 ラバーダム (顎模型)	ラバーダム防湿法の目的と方法が理解できる
【チェックポイント】	器具の名称、使用用途が理解できる
第11・12回 ラバーダム (顎模型)	模型上での臼歯部1歯ラバーダム防湿が実施できる
【チェックポイント】	術者との器具の受け渡しができる
第13・14回 ラバーダム (顎模型)	指示された部位のラバーダム防湿が行える
【チェックポイント】	ラバーダム防湿のチェック項目を列挙し、手技を見直すことができる
単元テスト ラバーダム知識	
第15回 歯肉圧排実習	歯肉排除用薬剤の取り扱いと種類について、顎模型を用いて実習を行う。
【チェックポイント】	歯肉排除用薬剤、圧排糸の使用用途、目的を理解しておく。 教科書(機器P118)を読んで理解しておく。
第16・17回 マトリックスバンド実習	隔壁操作をする目的、術式を理解する。隣接面の充填物に対する充填技術を修得する。マトリックスバンド以外のストリップスの目的を理解する。
【チェックポイント】	隔壁操作が必要になる窩洞と、充填材料について教科書(機器P88)を読んでおく。
第18回 歯間分離実習	隣接歯間の欠損を処置するには歯間を拡大する必要がある。 操作をスムーズに行うため、歯間分離器を使用する。 そのための歯間分離器の名称や、操作方法を習得する。
【チェックポイント】	使用器材の名称、使用方法を教科書(機器P90)をよく読んでおくこと。
第19・20回 コンタクトゲージ実習	実習 四人組で歯間分離の実習と歯肉圧排の実習を脱着式顎模型を使用し実習を行う。(歯間分離の手順) (歯肉圧排の手順) ①前歯部で実習を行う ①臼歯部で実習を行う ②セパレーターの先を歯間に ②圧排糸を隣接面に入れる 入れ固定ネジでしめていく ③ポケット内へジンパッカー ③終了(交代)で挿入 ④終了(交代)
単元テスト 歯肉圧排 マトリックスバンド歯間分離 コンタクトゲージ	
第21～26回バキューム操作を習得する	バキュームテクニック相互実習
【チェックポイント】	口腔内にバキュームを挿入することの欠点、利点を理解しておく
第27～30回 連合印象採得 相互実習	術者との器具の受け渡しが適切に行える
【チェックポイント】	
実技テスト 共同動作 バキュームテクニック実技試験	

# 歯科放射線学

担当 更屋 遥香

<p>主題と目標</p>	<p>歯科診療で放射線の役割は大きく、現在歯科用エックス線装置を設置していない歯科診療所はないといってもよい。歯科衛生士がエックス線操作を行うことはできないが、その仕組み、情報の有用性を理解していれば患者さんへの説明を行い、不安を取り除くことが出来る。その知識を習得するのが本講の目標である。</p>
<p>教科書</p>	<p>最新歯科衛生士教本 歯科放射線学 医歯薬出版株式会社 著者 岡野友宏ほか</p>
<p>成績評価の方法</p>	<p>評価は、定期試験・受講態度・出席状況などを総合的に判断する</p>
<p>第1回 歯科医療と放射線</p>	<p>歯のエックス線写真と特徴 顎骨のエックス線写真と特徴 エックス線検査の有用性・齲蝕時にどのように撮影されるか エックス線検査の有用性・歯周病時にどのように撮影されるか エックス線検査の有用性・顎骨の病変時にどのように撮影されるか 放射線の種類と性質 人体に対する放射線の影響 確定的影響と確率的影響</p>
<p>第2回 放射線防護 エックス線画像の形成</p>	<p>放射線防護の概念 エックス線撮影の頻度と被爆線量 線量の低減と患者の防護 術者の防護と環境の管理 エックス線の発生 被写体・写真コントラスト 口腔内エックス線におけるデジタル画像 パノラマエックス線におけるデジタル画像</p>
<p>第3回 歯科におけるエックス線検査1</p>	<p>画像の特徴と検査目的 口腔内エックス線撮影装置の名称 エックス線投影の原則・中心線 エックス線投影の原則・二等分法 エックス線撮影の原則・偏心投影 平行法撮影 咬翼法撮影 咬合法撮影</p>

第4回 歯科におけるエックス線検査2	画像の特徴と検査目的 撮影装置と撮影法 画像の特徴と検査目的 撮影装置と撮影法 顔面部撮影方法 造影検査方法 断層撮影方法の違い
第5回 口腔内エックス線撮影の実際 と歯科衛生士の役割	患者への説明と誘導方法 照射時間の設定方法 患者の防護方法 頭部の固定方法 フィルムの位置づけと保持方法 部位別撮影の要点 乳幼児/小児/高齢者/障がい者/妊産婦の対応法
第6回 パノラマエックス線撮影の実際 と歯科衛生士の役割 それぞれの写真の見方	デジタルエックス線撮影装置を用て撮影する場合の特徴 患者への説明と誘導方法 照射時間の設定/カセットの装填の方法 患者の誘導/患者の位置づけ方法 パノラマエックス線、口腔内エックス線の正常解剖図 上記のそれぞれの異常像(病的像) 撮影および写真処理の失敗を回避する方法
第7回 感染予防と写真処理 画像保管方法	口腔内エックス線撮影の感染予防 写真処理の実際・手現像 エックス線現像における処理液の管理 エックス線写真の管理方法 フィルムマウント/シャウカステンの使用方法 エックス線写真の保管方法 デジタルエックス線画像の観察と保管
第8回 放射線治療口腔管理 まとめ セッティング実習	主な放射線治療 放射線治療患者の口腔内 放射線治療患者の歯科診療補助時の注意 放射線治療患者のブラッシング指導、食事指導 パノラマX線、口腔内法のセッティング実習
定期試験	

感染予防学	
	担当 森野 愛
主題と目標	医療事故と並んで大きな問題である院内感染については、歯科領域では十分に対応されて
	いるとはいえ、歯科衛生士の感染予防に対する姿勢が問題にされることも多いようです。
	しかし歯科医院において、院内感染予防対策の実際の業務を担当するのは歯科衛生士です。
	患者さんが安心して歯科医療を受けられるよう、また歯科医療従事者が感染の危険から身を守られるよう感染予防の知識・技術を身につける必要があります。
教科書	最新歯科衛生士教本 歯科診療補助 第2版 医歯薬出版
参考図書	歯科衛生士のための感染予防スタンダード 医歯薬出版株式会社
	歯科衛生士のヒヤリ・ハットの事例と対策 財団法人口腔保健協会
成績評価の方法	評価は、定期試験、小テスト、出欠状況、+αで総合的に判定する。
備考	試験は、記述式・○×式・線結びで行う。
授業計画	(4～9月)
第1回	医療事故 リスクマネジメント 医療安全と感染予防の意義 スタンダードプリコーション
【チェックポイント】	・歯科医療における感染防止の重要性を説明できる。 ・リスクアセスメント、スタンダードプリコーションの概念を説明できる。
第2回	ハイリスク患者の器材の取り扱い 偶発事故の防止と対応
【チェックポイント】	・感染患者の器具・材料の取り扱いができる。 ・事例と対応について理解する。
第3回	ヒヤリハット
【チェックポイント】	・事例と対応について理解する。
第4回	洗浄・消毒・滅菌の定義 滅菌パックの取扱など
【チェックポイント】	・微生物の種類・構造、細菌の発育条件を説明できる。 ・滅菌・消毒の定義、体系を説明できる。 ・微生物の種類・構造、細菌の発育条件を説明できる。 ・滅菌・消毒の定義、体系を説明できる。

第5回	洗浄法、消毒法、滅菌法、手指消毒
【チェックポイント】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物理的消毒法の作用機序と効果・特徴・注意事項を説明できる。</li> <li>・煮沸消毒、超音波消毒、紫外線消毒</li> <li>・高圧蒸気滅菌、乾熱滅菌、簡易乾熱滅菌、EOG滅菌、低温プラズマ滅菌</li> </ul>
第6回	医療廃棄物の取り扱い 廃棄物の定義 診療室での管理システム
【チェックポイント】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療廃棄物・バイオハザードマークについて説明できる。</li> <li>・主な感染症(B型肝炎・C型肝炎、AIDS、MRSA、結核等)の滅菌・消毒ができる。</li> <li>・診療室、診療機器の感染防護、在宅訪問歯科診療での感染予防対応ができる。</li> </ul>
第7回	診療室での実際
【チェックポイント】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消毒薬の作用機序・条件・使用上の注意事項・効果・特徴・使用方法、</li> <li>・注意事項を説明できる。</li> <li>・器材別滅菌・消毒を実際に行うことができる。</li> </ul>
定期試験	

## 歯科医療保険事務

担当 杉原 夕佳

主題と目標	<p>一年次に机上で学習した臨床科目に関する知識や技術を臨床実習の場でスムーズに確認、実行することができるようにするのが本講義の目的である。日本は国民皆保険の制度が浸透している。どこの歯科医院でも実施される医療行為の90%以上が保険規則に基づいて行われているのが実情である。従って、歯科衛生士もその複雑な規則と難解な保険用語を熟知する必要がある。実際の保険診療が行われる場面を想定し、カルテと診療報酬明細書（レセプト）を対比させながら保険診療の流れを解説する。</p>
教科書	<p>歯科保険請求マニュアル 医歯薬出版株式会社</p>
参考図書	<p>保換診療の手引き 歯科診療報酬入門 大阪市歯科医師会 医歯薬出版</p>
成績評価の方法	<p>定期試験を実施する。</p>
備考	<p>試験は選択式、記述式で行う。</p>
授業計画	<p>(10月～1月)</p>
第1回	<p>保険の基礎知識 レセプトと保険請求の仕組み 医療保険制度の概念</p> <p>【チェックポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国民皆保険制度の施行により国民の加入が義務付けられた。そのため医療行為が点数化された。</li> <li>・医療報酬について P2～P8 までを読んでおくこと。</li> </ul>
第2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・請求明細書の書き方について P9～21</li> <li>・診療報酬明細書に記載する事項について</li> <li>・傷病名について（略語）</li> </ul> <p>【チェックポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・診療報酬明細書に記載する事項を理解する</li> <li>・診療報酬明細書に記載する略語を覚える</li> </ul>

第3回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学管理について</li> <li>・画像診断について</li> <li>・検査項目について</li> </ul> <p>【チェックポイント】  医学管理とは何か、個々の管理内容を理解する  検査についてどのような場合に算定をするか、症例とともに理解する</p>
第4回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・処置について</li> <li>・手術について</li> </ul> <p>【チェックポイント】  各処置についての算定方法について理解する。  各手術についての術式と算定方法について理解する。</p>
第5回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯冠修復及び欠損補綴について</li> </ul> <p>【チェックポイント】  各歯冠修復についての算定方法と術式について理解する  ブリッジ修復での欠損部分の算定方法と適応について理解する</p>
第6回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有床義歯について</li> <li>・在宅医療について</li> <li>・診療情報提供料について</li> </ul> <p>【チェックポイント】  有床義歯の治療の流れと算定方法について理解する  在宅医療での算定について理解する</p>
第7回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・症例をもとに実際に診療報酬明細書の記入を実施する</li> </ul> <p>【チェックポイント】  ・教科書 P98～182 を事前に読んでおく</p>
定期試験	
第8回 総復習	



歯科・医療秘書学 <span style="float: right;">担当 神田 智子</span>	
主題と目標	秘書は、毎日たくさんの人に会ったり、電話を通じて話をしたりします。このようなことは、社会で働く上では誰もが日常的にすることですが、秘書の場合はその他の重要な仕事の合い間をぬって、なかば専門的にそれらのことを行う事になります。 ですから秘書にとっての接遇は正確で程度の高いことが要求されます。目をおっています。 また、秘書は社内、社外を問わず、上役をめぐる情報の交通整理という大事な役ですから、秘書にとって接遇と話し方、聞き方はとても重要なポイントだといえます。そのことを忘れずに内容をしっかり理解してください。
参考図書	秘書実務講座 日本ビジネスカレッジ出版 医療秘書 建帛社
成績評価の方法	評価は、定期試験・受講態度・出席状況などを総合的に判断する
第1回 受付業務の必要性  受付の必要性 医療にかかる患者数  医療施設数  コデンタルスタッフの協  受付の機能  受付の構造  【チェックポイント】	近年の歯科医療の普及と高度化には著しいものがある。 また、国民皆保険や医療保険の充実によって、受診者の数も多くなってきた。 歯科医師数の増加により歯科診療所も増加している  2016年の患者調査によると我が国の医療にかかる1日の患者数は約719万人  コデンタルとは 歯科医療にかかわる職種 現在の医療はチーム医療である  受付業務は診療所の扉を開けた時から始まる 肉体的苦痛以外にも精神的苦痛を持つ患者が来院する 受付としては案内だけでなく相談業務を行う (1) 面接の機能 (2) 事務的な機能  以前は窓口式受付であったが、現在はオープン形式の受付となっている。 そのため、コミュニケーションが重要である 歯科医師と患者のパイプ役を受付業務は担っている  歯科医院の受付は患者が不安になって来院していることを理解する チーム医療とはどのような事かを理解する
第2回 受付の存在の意義  受診者とのコミュニケーションの役割  歯科診療の流れのなかで重要な役割を果たす  【チェックポイント】	受付の存在により考えられる利点とその意義 (1) 歯科医師と受診者との間のコミュニケーションの役割を果たす。 (2) 歯科診療の流れのなかでの重要な役割を果たす。 (3) 膨大な事務量を処理する役割を果たす。  1) コミュニケーションの意味伝達者の側からみればコミュニケーションを行うことは、次のような意味をも (1) 相手の理解または共感を期待する。 (2) 相手の支持を求める。 (3) 自己の知識を伝える。 (4) 自己の要求、企図への同調を求める。 また、受容者の側では次のようなことを得る。 (1) 相手との接触による情緒的安定または満足。 (2) 必要とする情報の入手。そして両者はともに、これを通じていろいろな事態への適応を判断し実行を可能とするのである。  2) 受付の役割  3) 話し方の重要性 (1) 上手な話し方 (2) 話の目的  受付が処理する事務的な仕事は年々増加している。 会計的な仕事、文書の管理、物品の購入と在庫管理、そして外部との連絡、交渉といった仕事がある。  コミュニケーションの大切さを理解する 受付業務の中で、さまざまな業務がある。その中でも事務業務は、診療所の中でも重要な業務となる。歯科医師の専門的な業務に支障がなく、診療所全体の管理を担うことで、より良い環境になることを理解する

<p>第3回 受付業務の基礎知識と業務</p> <p>受付対応の仕事</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>(1)受診者、外来者、訪問者の受付。対応の仕事 (2)診療録の作成と保管 (3)予診準備 (4)患者の来院目的の調査、主訴の調査、一般健康状態の調査など (5)患者の誘導 (6)診療計画の提示 (7) 時間約束日の決定と約束簿の管理 (8)リコール制の説明とリコール通知</p> <p>受診者の対応 診療所を訪れる患者を大別すると、初診来院患者と再来患者である患者の対応についても、緊急時か緊急時以外化で対応が変化する</p> <p>保険証の確認 1)保険証の提出を求める 2)保険証の記載事項の確認 3)保険証の療養給付記載欄の記入</p> <p>4)保険証の種類 (1)健康保険被保険者証(政府、組合) (2)船員保険被保険者証 (3)健康保険被保険者受給資格者票 (4)健康保険被保険者特別療養費受給票 (5)共済組合被保険者証(国家公務員、地方公務員、市町村職員、公共企業体職員、公立学校、私立学校教職員等) (6)自衛官診療証 (7)任意継続被保険者証 (8)国民健康保険被保険者証(市町村、医師、薬剤師、建設、左官タイル、板金、全国土木等) (9)国民健康保険退職被保険者証 (10) 特例退職被保険者証</p> <p>5)証明書の種類 (1)継続療養証明書 (2)療養資格証明書 (3)船員保険療養補償証明書 (4)資格取得申請中のもの</p> <p>6)医療券の種類 (1)老人保健法医療受給者証 (2)公費負担医療受給者証 (3)福祉医療費受給者証 老人医療費受給者証、乳児医療費受給者証、その他</p> <p>受付業務の種類を理解する 保険証確認の必要性を理解する 保険証の種類を理解する 受付の業務で、保険証だけでなく、医療券や証明証があることを理解する。</p>
<p>第4回 社会保障と医療保険 社会保障制度の概要</p> <p>医療保険の内容</p> <p>医療保険の種類</p> <p>療養の給付</p>	<p>1961年に国民皆年金・国民皆保険体制が導入された 全国民を対象とした総合的な 制度としての社会保障が確立される基礎ができた。 わが国の社会保障給付費の範囲は、ILO(国際労働機関)が国際比較上定めた社会保障の基準に基づいて決定され、「医療」「年金」「福祉その他」に分類されている。 「医療」には、医療保険、老人保健の医療給付、生活保護の医療扶助、労災保険の医療給付、結核、精神その他の公費負担医療、保健所が行う公衆衛生サービスに係る費用が含まれ 「年金」には、厚生年金、国民年金などの公的年金、恩給 および労災保険の年金給付などが含まれ 「福祉その他」には、社会福祉サービスや介護対策に係る費用、生活保護の医療扶助以外の各種扶助、児童手当などの各種手当、医療保険の疾病手当金、労災保険の休業補償給付、雇用保険の失業給付が含まれる。</p> <p>現物給付 出来高払い</p> <p>健康保険 船員保険 共済保険</p> <p>(1)診察 (2)薬剤または治療材料の支給 (3)処置、手術その他の治療 (4)病院または診療所への収容</p>

<p>老人保健制度の概要</p>	<p>(1)健康手帳の交付 (2)健康教育 (3)健康相談 3.介護家族健康相談 (5)訪問指導 (6)健康診査(歯周疾患検診も含まれる)</p>
<p>歯科医療の内容</p>	<p>人をなおす医療 医は仁術 歯科医療の三つの型 (1)きわめて高度の専門医に準ずるもの。歯科補綴、歯科矯正、小児歯科、口腔外科の分野に多くみられるが、まだまだ、わが国においては欧米に比べて専門医の数は少ない。 (2)個々の医療行為は専門医に比べて高度とはいえないが、患者の口腔を1単位として治療しようと努力し、全身の一部としての治療および予防を行うもの。 いわゆる1口腔1単位の治療とは、1口腔内の主訴の歯のみを治療するものではなく、他の部位に歯や歯周疾患あるいは欠損部分があれば、それらを早期に治療し、総合的な診療計画を立て咬合の改善を図ろうとする考え方である。 (3)治療は主訴を中心として、若干関連ある疾患に手をつけようとするもの。</p>
<p>【チェックポイント】</p>	<p>受付業務を行う際に必要な社会保障を理解する</p>
<p>第5回 予診準備</p>	<p>予診表の意義と目的 (1)患者の過去、現在の健康に関する情報を得ること (2)医療事故の防止 (3)医療紛争の防止 (4)受診意欲の動機づけ</p> <p>その他の質問票 (1)患者の職業、通院に要する時間、通院方法、来院希望時間などを知ることにより、患者に都合のよい時間の予約や通院回数を決定する参考資料となる。 (2)患者の口腔衛生、家庭での生活環境、たとえば、歯を磨く回数と時期、定期的に検査を受けているかどうか、歯石除去の経験などの情事長を得ることにより、歯科保健指導などの参考資料となる。 (3)子どもの受診者の場合は、子どもの性格、子どもの食物・間食、歯磨き習慣、指を吸うなどの悪い癖、治療経験の有無などを知り治療を進めていくうえで参考資料となる。</p> <p>診療計画 患者の希望 (1)待ち時間を少なくしてほしい。 (2)痛みを早く止めてほしい。 (3)十分な検査をしてほしい。 (4)どこが悪いか、はっきりといってほしい。 (5)治療するうえでの十分な説明と指示をしてほしい。 (6)できるだけ完全に治してほしい。 (7)費用はどのくらいかかるのか、はっきりといってほしい。</p> <p>予診表から得られた情報と、その後の診査、X線写真、スタディモデルなどの情報を総合して、歯科医師は患者の診療計画を作成し、提示するが、具体的には次のことを明らかにする。 (1)罹患歯を保存するのか、抜歯するのか (2)罹患歯の歯髄を保存するのか、抜髄するのか (3)歯周疾患の処置罹患歯 (4)保存修復や欠損補綴の方法と材料罹患歯 (5)診療日程罹患歯 (6)診療報酬罹患歯</p> <p>以上を患者に提示する必要がある</p>
<p>時間約束制</p>	<p>時間約束制の考え方 1)単に患者の来院する時間を確保する考え方罹患歯 これは、患者の来院日時を前もって知ることができ、1日何人というその診療所の能力に応じて患者を管理することができる。 2)計画診療を目的とする時間約束制。</p> <p>時間約束制の長所と短所 長所 (1)歯科医師が修得した歯科医学、技術を十分に発揮しやすい。 (2)そのためには、診療行為にかなりの時間を要するが、その診療行為に適した時間と患者の通院回数を事前に確保できる。 (3)1回の診療行為に時間をかけるため、診療実日数は減少する。 (4)患者は待ち時間が少なく、かつ通院回数が少ないことにより、時間のむだが省ける。</p>

<p>【チェックポイント】</p>	<p>短所  (1)1日の患者の取り扱い数は限られてくる。  (2)患者の多い診療所では、すべての患者にただちに診療を進めていくことは困難である。したがって診療約束待ちの形で、患者が初診を受けたあと、しばらく間をおいて診療時期を約束しなければなら  (3)患者が違約して来院しない場合、空白時間をつくることになる。  (4)緊急患者のための診療時間をとるのに苦労することがある。</p> <p>受付における注意事項  1)患者に対するPR  2)予約時間の確認  3)緊急患者が来院した場合  4)電話で緊急患者の診療申込があった場合。  5)予約なしの新患が来院した場合。  6)時間約束簿の管理。</p> <p>時間約束制  意義と目的  リコール制の目的とするところは、以下のとおりである。  (1)あらたに、う歯や歯周疾患を起こしていないかどうか、口腔内疾患の早期発見をする  (2)修復部位や補綴物が正常で、その機能を保っているかどうかを観察する  (3)口腔内の清掃状態の観察をする  (4)矯正治療などの術後の状態の観察をする  これらの目的のために、成人では普通6カ月ないしは1年の間隔で、子どもの場合は3カ月から6カ月の間隔でリコールを続ける。</p> <p>患者への説明  (1)次回はいつごろになるのか  (2)その時期になれば、こちらから連絡すること  (3)もし、約束の日に来院できないときは、どうしたらよいのか  (4)それまでになにか異常があれば、すぐに連絡してもらうことといった内容をもりこんで説明すればよ</p> <p>リコールカードの作成と整理  リコールの通知</p> <p>予診票の重要性を理解する  リコールについて目的、期間を理解する</p>
<p>第6回  受付の事務的な業務  物品の購入と在庫管理</p>	<p>物品の購入  購入するための情報  (1)品目(消耗材料とか医薬品とか)、品名(商品名や一般名)、製造会社名  (2)購入数量(消費数量)、たとえば1カ月あたりの消費量、常備数量  (3)購入単価、購入費、納品伝票のチェック  (4)購入業者名、注文から物品納入までの必要日数</p> <p>物品の管理  どの材料がいくつあり、その記録と発注方法を理解しておく  在庫管理の方法</p> <p>金銭の取り扱い  金銭の扱いについては慎重を期す必要がある</p> <p>金銭取り扱い上の注意事項  1)患者から金銭を受け取るときは、内容をある程度説明する  2)金銭の受けわたしを確認する  3)領収書の発行</p> <p>集計表を記録する  患者日計表  収支日計表  収支月計表</p>

<p>【チェックポイント】</p>	<p>文書の発行          診断書          処方箋          歯科技工指示書          患者紹介状と返事          検査依頼書          医療廃棄物処理の管理票(マニフェスト)          患者連絡用の文書          事務用文書の書き方の要点          文書・資料の整理と保管          ファイルに必要な文房具、事務用収納庫          キャビネット式整理法          その他の資料の整理と保管          待合室の管理</p> <p>受付業務には、さまざまな事務作業がある。その業務を理解するとともに様々な文書の記入方法や、管理について理解する</p>
<p>第7回 医療秘書の業務とは</p> <p>外来患者へのサービス業務</p> <p>診療録の記載方法</p> <p>入院患者へのサービス業務</p> <p>レセプト業務</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>外来患者へのサービス業務          入院患者へのサービス業務          レセプト業務          秘書業務          その他の業務</p> <p>医院の顔としての受付業務          診療申し込み用紙の記入、保険証の確認、診療録の作成、患者誘導          診療終了後の会計、アポイントメント</p> <p>保険証の確認・・・保険証の種類          医療券の確認・・・医療券の種類</p> <p>入院手続き          入院指示書          紹介状の確認、発行などの文書作成業務</p> <p>診療の種類・・・保険診療と自由診療          保険診療とは          自由診療とは          保険請求の手順          レセプトとは          レセプト業務の流れ          レセプトの請求方法          レセプトに記入される略語について</p> <p>医療秘書としての、受付業務の内容を理解する          特にレセプト請求について、流れを理解し、レセプトへの記入ができるようにする          レセプトに記載されている。略語を覚えていく</p>
<p>第8回 医療秘書の業務とは</p> <p>秘書業務</p> <p>その他の業務</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>レセプト業務について          レセプトで良く使用される略語について          国民健康保険団体連合会、社会保険診療報酬支払基金への請求方法</p> <p>スケジュール管理          直属の上司の環境整備          郵便物の管理、          電話対応          文書の整理          通訳、翻訳          出張手配</p> <p>伝票の整理、入力          電話対応          物品管理、          X線フィルム管理          データー管理          病院経営に関する資料作成</p> <p>レセプト業務について理解する          レセプトに使用される略語と、その意味を理解する          秘書として必要な業務の概要を理解しておく</p>

<p>第9回 医療秘書の役割</p> <p>医療事務と文書作成</p> <p>医療とIT</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>病院医療の高度化により、医療専門色の領域を更に細分化した医療重要の増大、医療内容の多様化による専門田的業務の拡大        主な医療秘書の役割        医師事務作業補助者        医学部教授、病院長、事務部長、各部門管理者の個人秘書        病棟、外来診療科、医局、各診療部門、研究室の部門秘書やクラーク業務        受付、医療事務、コンピューター業務、管理業務        診療録管理、図書管理などの業務</p> <p>医師事務作業補助者とは</p> <p>医療事務とは        医療文書とは        医療文書の作成について</p> <p>医療情報システムの分類        病院情報システム        地域医療情報システム        医療情報サービスシステム</p> <p>医療秘書としての役割を理解する。        医科だけでなく、歯科でも同様に秘書業務を行う場合があるため、知識を深めていく</p>
<p>第10回 医療秘書の基本的要素</p> <p>基本的な心構え</p> <p>医療秘書としての実務</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>状況判断        柔軟な思考        先を読む能力が必要である</p> <p>患者優先意識        規律意識        原価意識        医療秘書の翼割を果たすために上記の3つの考え方を基本とする</p> <p>医療機関が求める人材        明るい笑顔の人        挨拶がしっかりできる人        協調性のある人        忍耐力のある人        行動的な人        健康な人</p> <p>守秘義務        人間関係とコミュニケーション        患者を理解する        患者への言葉遣い        患者の接し方</p> <p>患者情報の取扱方に十分留意すること        医師以外のものが病状説明をすることはできないことを理解する        職場のマナーや執務態度を具体的に知る        言葉遣いを丁寧に、積極的に行動する        患者の話を傾聴する</p>
<p>第11回 医療秘書としての書類作成の実務</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>カルテ作成の実務        保険証の確認</p> <p>秘密保持        1) 患者の対面保持        2) 病名の秘密保持        3) 診療内容の秘密保持</p> <p>診療御順位の確保        来院した患者の優先順位、緊急性の判断が必要        その際の他の患者への配慮        来院する者は診察を受けるものだけではない        その他の来客者への対応</p> <p>クレームの対応方法</p> <p>カルテ作成の目的を理解する        受付業務の重要性を理解する        患者の立場に立ち行動する</p>

<p>第12回 思いやりとやさしさを表現する</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>(1) 歯科医院らしい身だしなみ ①みだしなみは清潔感と機能が大事 ②頭から足までのチェックポイント</p> <p>(2) 表情とまなざしはとても大事 ①豊かな心、感謝の心が美しい表情を作る ②明るい笑顔が一番 ③目は心の”窓”視線を大事に</p> <p>(3) キビキビとした動作と美しい姿勢で ①前向きな気持ちを感じられる動作 ②美しく正しい姿勢 ③美しい姿勢のポイント(無理がなくスムーズに)</p> <p>(4) 挨拶と返事は社会人の基本 ①挨拶と返事は社会の潤滑油 ②挨拶は気持ちを表す”言葉と動作” ③美しい挨拶とおじぎ ④返事は気持ちよく</p> <p>(5) 感じの良い言葉づかい ①誰にとっても感じよく ②TPOをわかまえる ③TPOに応じた言葉遣いのポイント ④歯科医院の中で使ってはいけない言葉 ⑤感じの良い言いまわし</p> <p>(6) より良いコミュニケーションに ①話し上手は聞き上手 ②話を聞くときのポイント ③ポイントをつかんで明瞭に話す ④話をするときのポイント</p> <p>・医療人らしい身だしなみ、明るくやさしい表情、美しい姿勢、キビキビとした動作、正しい言葉遣いといった接遇、対応の基本について理解する。 ・接遇、対応とは患者さんを温かく迎えるという思いやりの心を具体的な形にして理解する。 ・これらの基本をきちんと身につけることは、社会生活のうえでも必要である。</p>
<p>第13回 患者さんを迎えてから見送るまで</p>	<p>(1) 患者さんとの最初の出会いを大切に ①優しく温かい第一印象を ②積極的に声をかける ③挨拶言葉に気持ちを込めて 「おはようございます」 朝10時半頃まで 「こんにちは」 日中、日没まで 「こんばんは」 夜暗くなったら 挨拶言葉はおじぎと共にキチンと行う ”挨拶言葉は心の扉を開く鍵”</p> <p>(2) 初めての患者さんを迎えて ①保険証はしっかり確認 ②問診表はお願いする気持ちで ③正しく書いてもらうために ④患者さんの話を正しく把握する</p> <p>(3) 待合室では機転が大事 ①患者さんの表情や行動をよく観察する ②15分待たせたら声をかける ③ポイント</p> <p>(4) チェアへの誘導は ①呼び出しは待合室まで出て ②キチンと誘導、そして一声を</p> <p>(5) 診療するための準備と診療中の気づかい ①不安を解消する ②エプロン、ライトはていねいに ③治療が始まってからの声かけ</p>

<p>【チェックポイント】</p>	<p>(6) 診療室での約束事  ①粗雑、騒々しさは痛みを増します  ②私語にご用心</p> <p>(7) 治療が終わった患者さんには  ①「お疲れ様」の気持ちで  ②今日の治療を説明し、次回の予定を  ③気持ちを引き出す  ④待合室へ案内</p> <p>(8) 会計のときは  ①入力内容と金銭は二重チェック  ②未収金は記録し、患者さんに金額のメモを  ③次回の治療費が高額になるときは事前に説明を</p> <p>(9) 次回の予約を決める  ①適切な予約に必要なこと  ②無理押しはせず提案する  ③すり合わせる</p> <p>(10) 薬や処方箋を渡すときは  ①薬は歯科医師の指示通り間違いのないように  ②処方箋を渡す  ③具体的な時間・数字で示す</p> <p>(11) 簡単な治療説明を行う  ①事前に内容を把握しておく  ②ポイントを要領よく  ③質問への応答は慎重に</p> <p>(12) 歯ブラシなどを窓口で販売する  ①口腔の健康に強い関心  ②その人に合ったもの  ③使い方をアドバイス  ④商品の整理と在庫のチェック</p> <p>(13) お見送りの時は  ①感謝の気持ちを込めて</p> <p>・患者さんをさわやかな挨拶で迎え、感謝の気持ちのこもった言葉で見送るまで、一つひとつの接遇・応対について必要な気配りを学び、実行できるようにする。  ・患者さんと接する様々な場面別に、応対の大切さについて順を追って考える。</p>
<p>第14回 レセプト記入実習</p> <p>対応困難な患者への アプローチ</p> <p>【チェックポイント】</p>	<p>カルテ用語を理解し、実際にレセプト用紙に点数を記載し、国民健康保険は国民健康保険団体連合会へ、社会保険は社会保険診療報酬支払基金に提出するため、その流れを実習する</p> <p>医療券のある場合 申請書がある場合</p> <p>様々な患者への対応方法を学ぶ  苦情対応  緊急時の対応  小児への対応  高齢者への対応  障害のある方への対応</p> <p>診療報酬請求の方法、記入方法を理解する  様々な患者への対応方法を学ぶ  どのような患者にも誠意を持って対応することの大切さを学ぶ</p>